

公示用

設 計 書

工事名称 南が丘中学校屋内運動場外壁改修工事

工事内容説明書

1. 工事名称 南が丘中学校屋内運動場外壁改修工事

2. 施工場所 札幌市南区南沢2条1丁目

3. 請負工事費

内訳 工事価格

消費税等相当額

4. 工期 契約に示す着手の日から 令和7年9月30日 まで

5. 工事内容 屋内運動場棟、管理棟、渡り廊下の外壁改修

シーリング打替え、ポーチ床モルタル改修

共通費の算定に用いる工期 T=3.9月

屋内運動場		外壁改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
トップコート塗り	水性珩素樹脂系上塗り 2回 水性加オナー 1回含む (AEPリソ吹付・打放面)		m ²			外壁 見積比較表
トップコート塗り	2液強溶剤外ウ樹脂塗装 2回 2液強溶剤外ウ樹脂塗ラ 1回含む (ウ樹脂塗ラ・打放面)		m ²			外壁足洗い場 見積比較表
水洗い工法			m ²			外壁
外壁 金属サイディング張り	厚15 塗装品 縦張り ガルバリウム鋼板 t 0.35 表面 ポリエステル樹脂塗装		m ²			見積比較表
透湿防水シート張り	透湿防水シートB		m ²			
硬質ウレタンボード	壁 t=20mm		m ²			
外壁カーガルバリウム 鋼板 見切り	t=0.35 W20xH40		m			見積比較表
外壁カーガルバリウム 鋼板 段接ぎ部	t=0.35 W20xH40, W25 x H90 見切 + 水切		m			見積比較表
外壁カーガルバリウム 鋼板 止め縁	t=0.35 W20xH40		m			見積比較表
外壁カーガルバリウム 鋼板 出隅キャップ	t 0.35(ガルバリウム鋼板) 57 x 57		m			見積比較表
トップコート塗り	水性珩素樹脂系上塗り 2回 水性加オナー 1回含む (AEPリソ吹付・断熱複合版面)		m ²			軒天 見積比較表
トップコート塗り	水性珩素樹脂系上塗り 2回 水性加オナー 1回含む (AEPリソ吹付・打放面)		m ²			軒天 見積比較表
水洗い工法			m ²			軒天
EP塗り 改修仕様	けい酸加ソム版面 工程B種(見上) 下地調整RB種(塗替え面)		m ²			軒天
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15 x 10		m			建具廻り
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 5 x 5		m			建具廻り
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 30 x 10 オーバードリッジ		m			幕板廻り オーバードリッジ工法
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 10 x 10		m			幕板廻り
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15 x 10		m			金物廻り
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 10 x 10		m			金物廻り

屋内運動場		外壁改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 30×10		m			金物廻り
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 15×10		m			打継目地
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 15×10		m			塗装間取合
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 10×10		m			サイディング見切り取合
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 5×5		m			サイディング見切り・水切取合
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 5×5		m			捨て笠木/防水取合
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 15×10		m			RC壁間取合
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 15×10		m			幕板/軒天複合板取合
ウカットシール材充填	幅1.0mmを超える亀裂部 エポキシ樹脂10×10充填,ボンドリペア		m			
樹脂モルタル補修 外壁鉄筋露出部	100×100程度 鉄筋エポキシ樹脂塗布,周囲ハツ出 樹脂モルタル(プレミックスタイプ)金コシ仕上		か所			
樹脂モルタル補修 外壁鉄筋露出部	100×200程度 鉄筋エポキシ樹脂塗布,周囲ハツ出 樹脂モルタル(プレミックスタイプ)金コシ仕上		か所			
樹脂モルタル補修 外壁鉄筋露出部	100×300程度 鉄筋エポキシ樹脂塗布,周囲ハツ出 樹脂モルタル(プレミックスタイプ)金コシ仕上		か所			
欠損部充填	コンクリート面 100×100程度		か所			
欠損部充填	コンクリート面 100×500程度		か所			
欠損部充填	コンクリート面 100×800程度		か所			
欠損部充填	コンクリート面 100×1800程度		か所			
欠損部充填	コンクリート面 100×3400程度		か所			
欠損部充填	コンクリート面 100×4000程度		か所			
外壁薄塗材Si塗り	ローラー 下地調整別途		m ²			外壁(劣化補修部)
下地調整費	コンクリート面 屋内外 C-1		m ²			外壁(劣化補修部)

屋内運動場		外壁改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
スチール看板新設	W600xH300		か所			見積比較表
スチール看板 取外し、再取付	W600xH300		か所			見積比較表
ステンスタップ [°] 取外し、再取付	L=6,900 ガード付		か所			
照明カバー [°] 取外し、再取付	W110xH700		か所			見積比較表
丸に笠木 取外し、再取付	W200程度		m			屋内運動場棟
捨て笠木新設	ガルバリウム鋼板 t0.35 コ形 W177xH34		m			見積比較表
丸にEXP-J壁 取外し、再取付	(屋内運動場取合)		m			渡り廊下棟 見積比較表
鋼管煙突控え 取外し、再取付			か所			見積比較表
鋼管煙突プレート間 隙間塞ぎ	アルゴン溶接 400		か所			見積比較表
鋼管煙突プレート間 隙間塞ぎ	アルゴン溶接 350		か所			見積比較表
時計 取外し、再取付			か所			
メッシュ格子 取外し、再取付	W1,750xH1,200		か所			見積比較表
計						

屋内運動場		外壁改修		とりこわし		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
施工数量調査 (外壁改修)	打放し面・仕上塗材改修		m ²			
壁合板・ポード 撤去	一重張り 石綿含有 集積共		m ²			壁外中空押出成形板
クラフト紙撤去			m ²			
断熱材撤去	FP板・発泡ウレタン等		m ²			
壁合板・ポード 撤去	一重張り 一般 集積共		m ²			
ALC段接ぎ水切撤 去	W17xH150 集積共		m			
シーリング 撤去	集積共		m			建具廻り
シーリング 撤去	集積共		m			幕板廻り
シーリング 撤去	集積共		m			金物廻り
シーリング 撤去	集積共		m			打継目地
シーリング 撤去	集積共		m			塗装間取合
シーリング 撤去	集積共		m			押出成形板取合
シーリング 撤去	集積共		m			押出成形板コーナ-取合
シーリング 撤去	集積共		m			RC壁間取合
シーリング 撤去	集積共		m			幕板/軒天複合板取合
スチール看板撤去	W600xH300		か所			見積比較表
計						

令和7年度

南が丘中学校屋内運動場外壁改修工事

図面リスト			
A-00	図面リスト	A-13	改修立面図 1
A-01	特記仕様書 1	A-14	改修立面図 2
A-02	特記仕様書 2	A-15	改修立面図 3
A-03	特記仕様書 3	A-16	改修立面図 4
A-04	特記仕様書 4	A-17	劣化及び撤去立面図 1
A-05	特記仕様書 5	A-18	劣化及び撤去立面図 2
A-06	特記仕様書 6	A-19	劣化及び撤去立面図 3
A-07	特記仕様書 7	A-20	劣化及び撤去立面図 4
A-08	特記仕様書 8	A-21	断面詳細図 1
A-09	附近見取図・配置図	A-22	断面詳細図 2
A-10	1階平面図	A-23	軒天井伏図
A-11	2階平面図	A-24	仮設計画図 1
A-12	R階平面図	A-25	仮設計画図 2
		A-26	仮設計画図 3

工事概要及び特記仕様書

I. 工事概要

1	工事名称	南が丘中学校屋内運動場外壁改修工事
2	工事場所	札幌市南区南沢2条1丁目
3	しゅん功期限	契約に示す着手日から 令和 7年 9月 30日まで
4	工事内容	屋内運動場棟、管理棟、渡り廊下棟の外壁改修 シーリング打替え、ポーチ床モルタル改修

対象建物概要			
用 途	中学校	用途地域等	第1種低層住居専用地域
構造／階数	S造、RC造/平屋建一部2階	敷地面積	23,939㎡
改修部分	階	施工内容	
屋内運動場	1,2	RC部：塗装改修 及び 押出成形板撤去、金属 ^イ ンク ^ク 張替え	
管 理 棟	1	RC造：塗装改修	
渡り廊下棟	1	RC造：塗装改修	

- 5 別途工事
本工事に関係のある工事は下記のとおりである。
- 電気設備工事 () 令和 年 月 旬着手予定
 - 機械設備工事 () 令和 年 月 旬着手予定
 - 外構工事 () 令和 年 月 旬着手予定

- 6 部分引渡し
部分引渡しの時期：令和 年 月 日まで
部分引渡しの範囲：

II. 建築工事仕様

- 1 本工事は、公共工事に準じるものとする。
- 2 図面及びこの特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」または、「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)」による。(工事着手日時点の最新版を適用)
- 3 特記仕様
(1)項目は、番号に○印のついたものを適用する。
(2)特記事項は、●印のついたものを適用する。
○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
○印と⊗印のついた場合は、両方に適用する。
- 4 特記事項に記載の()内表示番号は、公共建築改修工事標準仕様書または、公共建築工事標準仕様書(標)の当該項目、当該図または当該表を示す。

1章 一般事項

01 適用基準類	<p>工事着手日時点の最新版を適用する。</p> <p>○建築工事標準詳細図</p> <p>【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】</p> <p>○工事写真撮影ガイドブック(建築工事編及び解体工事編)</p> <p>【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】</p> <p>・建築工事標準仕様書・同解説 JASS 11 木工事</p> <p>【日本建築学会】</p> <p>・寒中コンクリート施工指針・同解説 【日本建築学会】</p> <p>・建築物解体工事共通仕様書</p> <p>【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】</p> <p>※(参考資料) 建築改修工事監理指針 上巻・下巻</p> <p>【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】</p> <p>※(参考資料) 建築工事監理指針 上巻・下巻</p> <p>【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】</p>
02 施工条件	<p>(1.3.5)</p> <p>・施工時間：施設運営上、制約される場合があるので監督員と協議のこと</p> <p>・施工順序：工程表に基づき監督員と協議のこと</p> <p>・工事用車両駐車場：監督員と協議のこと</p> <p>○その他施工条件：図示</p>

- 03 公共建築物の環境配慮

- 04 グリーン購入
- 「札幌市グリーン購入ガイドライン」により環境負荷の低減を考慮した材料等を選定し、グリーン購入の推進に努める。加えて、資材(材料及び機材を含む)の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の環境負荷低減に配慮されたものを使用するよう努める。

- (1) 再生クラッシュランの購入施設名(以下の章共通)
札幌リサイクル骨材㈱(東区中沼町45番地26)
小橋北豊㈱(南区石山230番地)
札幌環境資材センター(手稲区曙5条5丁目110番地18)
㈱松原産業(白石区川下2111番地3)
野田工業㈱(中央区盤渓264番地)
- (2) 汚泥再生材の購入施設名(以下の章共通)
㈱大伸(厚別区厚別町山本1064番72)
オデッサ・テクノス㈱(東区北丘珠1条3丁目654番地)
(協)公清企業(東区中沼町45番地23)
- 購入条件、購入時期等については、当施設と事前に協議する。

- 05 建築材料等
- 「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿」((社)公共建築協会編集)により評価を受けた材料を使用する場合は、評価書の添付により品質等資料の提出を省略することができる。(1.4.2)

- 06 道産材の使用
- 本工事に使用する主要資材のうち、道内で産出、生産または製造される資材等で、規格品質等が適正である場合は、これを優先的に使用するように努めるものとする。(木材及び木製製品は除く)

- 07 地域材の使用
- 本工事に使用する木材または木材を原料とする資材を使用する場合は、地域材(道内の森林で産出され、道内で加工された木材)を優先的に使用することとし、使用した材料の種類、産地等を監督員に報告すること。

- 08 特別な材料の工法
- 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)または公共建築工事標準仕様書(建築工事編)に記載されていない特別な材料の工法は、監督員の承諾を受けて当該製品の指定工法によることができる。

- 09 石綿含有建材の事前調査等
- (1.5.1)
- (1) 調査範囲 ※全建材(解体等の作業に係る部分に限る。)
・その他()
- (2) 既存設計図書等の提供
○既存設計図書
○成分分析調査報告書(含有建材は図示による)
・石綿事前調査等結果報告書(アスベスト調査票)

- (3) 調査方法
※書面調査及び現地での目視調査
・成分分析調査
調査部位()(ヶ所)
・JIS A 1481-1・JIS A 1481-2・JIS A 1481-3・JIS A 1481-4

- (4) 調査時の注意
構造上目視により確認することが困難な建材については、目視により確認することが可能となった段階で事前調査を行うこと。
石綿含有建材の使用が不明な見え隠れ部分の調査については、保護具を装着するとともに必要に応じて建材を湿潤に保ちながら手ばらして行うこと。

- 新たに石綿含有建材と疑わしきものを発見した場合には、速やかに作業を中止し、監督員に報告及び必要な措置について協議すること。

- (5) 調査結果の報告等
事前調査が完了した際は、石綿障害予防規則及び大気汚染防止法(以下、大防法)に基づき、以下のとおり各種報告等を行うこと。

- (7) 監督員に事前調査の結果等を書面で交付し、説明すること。

- (4) 労働基準監督署及び札幌市(環境局)に事前調査の結果等について報告すること。

- (7) 事前調査の結果等については、公衆にみやすいように掲示すること。

- (6) 変更の協議等
調査の結果、設計図書と異なる場合は、監督員と協議する。また、石綿事前調査等結果報告書の内容を更新し、監督員に提出すること。

- (7) 作業完了の報告
大防法に基づき、特定粉じん排出等作業の完了後、監督員に作業結果を書面で報告すること。

- 10 技能士
- 技能士の適用は以下とする。ただし、作業が軽易な場合は監督員の承諾を受けて省略することができる。(標1.5.2)(1.7.2)

適用工事種類	職種	技能検定の作業の種類
仮設工事	とび	・とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	・鉄筋組立て作業
コンクリート工事	型枠施工	・型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	・コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	鉄工	・構造物鉄工作業
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成型セメント板工事	ブロック建築	・コンクリートブロック工事作業
	ALCパネル施工	・ALCパネル工事作業
防水工事	防水施工	・アスファルト防水工事作業 ・ポリウレタン系塗膜防水工事作業 ・アクリル系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・改質アスファルトシート常温粘着工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	石材施工	・石張り作業
タイル工事	タイル張り	・タイル張り作業
木工事	建築大工	・大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	・内外装板金作業
金属工事	内装仕上げ施工	・鋼製下地工事作業
	建築板金	・内外装板金作業
左官工事	左官	・左官作業
建具工事	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ガラス工事作業
	自動ドア施工	・自動ドア施工作業
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・金属製カーテンウォール工事作業
	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ガラス工事作業
塗装工事	塗装	・建築塗装作業
内装工事	内装仕上げ施工	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業
	表装	・壁装作業
排水工事	配管	・建築配管作業
舗装工事	路面標示施工	・溶融ベイクロッドマーカー工事作業 ・加熱ベイクロッドマーカー工事作業
植栽工事	造園	・造園工事作業

- 11 特許権等
- 特許権等の出願を行う場合は、あらかじめ発注者と協議する。(1.1.11)

- 一般財団法人 札幌市住宅管理公社建設工事請負契約約款第8条に基づく特許権、実用新案等、意匠権、商標権その他日本国の法令に基づき保護される第三者の権利(以下「特許権等」という)の対象となっている工事材料及び施工方法等。

- ・特許権等の種類()

- 付保する保険：工事の内容により、火災保険、建設工事保険、組立保険等の一以上の保険を付す。

- 保険の期日：始期－保険の目的物が工事現場に搬入される日
終期－しゅん功期限＋14日以上

- (1)受注者は、本工事に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するため、法定外の労災保険を付す。

- (2)前項で定める保険契約を締結したときは、その証券又はこれに代わるものの写しを速やかに監督員へ提出する。

- 14 公衆災害の防止及び安全管理

- 15 交通安全及び公害対策

- 16 揮発性有機化合物対策

- (1)ダンブトラック等、大型貨物運搬車両による土砂及び工事用資材の輸送に当たっては、踏切、スクールゾーン等、工事車両が人命等に影響を及ぼす区間が輸送路になる場合、または埃、振動、騒音等の害をおよぼす区間が輸送路になる場合は、必要に応じて地域住民及び関係機関等の連絡を密にして交通安全の確保、公害等の対策に万全を期さねばならない。

- (2)工事期間中は、交通誘導警備員を以下の条件に沿って配置し、現場内における安全確保に努めなければならない。なお、必要となる交通誘導警備員の人数は、作業形態に応じた配置計画等とともに、あらかじめ監督員と協議すること。
【配置条件】
・()
※ 図示による

- (3)北海道公安委員会の認定する路線における工事現場については、一級又は二級検定合格警備員を配置する。(1.3.9)
- 本工事に使用する化学物質を放散(発散)させる建築材料等は、設計図書に規定する所定の品質及び性能を有するとともに、揮発性有機化合物の放散(発散)が少ない材料の使用に努めるほか、以下を満たすものとする。(1.4.1)

- (1)ホルムアルデヒド放散(発散)建築材料に指定されている材料は、F☆☆☆☆等の規制対象外材料とする。
(2)接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、1)のほか、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
(3)保温材、緩衝材、断熱材は、1)のほか、スチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
(4)屋内に使用する塗料は、厚生労働省「室内空気汚染に係るガイドライン」で指定された13物質(以下、13物質)を放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
(5)木質建材、家具、建具類及び二次製品は、1)のほか、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
(6)ワックスは有機りん系化合物を含有していないものを使用し、13物質を放散させないか、放散が極めて少ないものとする。

- ※施工時・施工後引渡し前には、揮発性有機化合物の放散(発散)を促進するため、繰り返し換気を行うこと。

- 17 揮発性有機化合物の室内濃度測定
- 受注者は、揮発性有機化合物の室内濃度測定を行い、厚生労働省の指針値以下であることを確認の上、測定結果を監督員に提出しなければならない。(1.7.9)

- (1)測定物質
ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、パラジクロロベンゼン

- (2)測定方法 (※拡散方式 ・吸引方式)
(7)居室の窓及び扉(造付け家具、押入れその他これらに類するものの扉を含む)を30分間開放し、窓及び扉を5時間以上閉鎖した後、その状態で採取を行うこと。
また連続的な運転が確保できる換気設備がある場合は稼働させ、当該換気設備の給排気口は開放することができる。

- (4)居室の中央付近の床から概ね1.2mから1.5mまでの高さにおいて採取を行うこと。(学校の教室等については、机上の高さで行うこと。)

- (7)採取時間は、吸引方式では30分以上継続して、同時に又は連続して2回以上行うこと。
また、拡散方式では8時間以上とする。(拡散方式とは、測定パッチ・パッシブサンプラー)

- (5)ホルムアルデヒドは、DNPH誘導体固化固相吸着/溶媒抽出-高速液体クロマトグラフ法によること。

- (7)その他の揮発性有機化合物は、固相吸着/溶媒抽出法、固相吸着/加熱脱着法または、容器採取法とガスクロマトグラフ/質量分析法の組合せによること。

18	工事の入札及び契約の適正化	(3)測定箇所(箇所 ※測定位置は監督員と協議のこと)
	19	施工体制台帳等
20	臨時検査	「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」を遵守し、施工体制の適正化を図ること。
	21	法令等の遵守
22	苦情の対応処置	(b)現場の管理 受注者は、監理技術者、主任技術者(下請負を含む)及び元請の専門技術者(専任している場合のみ)に、工事現場内において、工事名、工期、顔写真、所属会社名及び社印の入った名札を着用させるものとする。
	23	不法無線局及び違法無線局対策
24	建設副産物対策	当該工事における適用法令等を遵守し、必要となる法令等を把握したうえで、その一覧(適用法令・要領・要綱・指針・基準・届出時期等)を作成し、施工計画書に明示する。(1.1.13)
	25	発生材の処理
26	設備工事との取合い	受注者は、電波法令を遵守し、不法無線局(電波法に規定する免許または登録をせずに開設する無線局 例:不法アマチュア局、外国製無線機(FRS/GMRS)など)及び無線局の違法な運用(免許または登録を受けていながら、電波法の範囲を逸脱して使用することなど 例:アマチュア局を使用した業務連絡など)を行ってはならない。
	27	工事標識
28	建設機械の選定	(2)受注者は、「建設副産物適正処理推進要綱」を厳守し、建設工事の円滑な施工の確保及び生活環境の保全に努めること。 (3)受注者は、着手時に「再生資源利用計画書(建設資材入)と再生資源利用促進計画書(建設副産物の搬出)を作成し、監督員に提出すると共に、工事完了時には、実施書により実施状況記録を報告する。
	29	建築基準法に基つき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
30	施工数量調査	(4)処理計画については、受け入れ条件等を確認のうえ、事前に監督員と協議すること。 (9)再生資源化施設へ搬出した場合、搬出後、調査を監督員に提出すること。 (5)現場より発生する汚泥は、速やかに溶出試験、含有試験を行い「環境基本法に基づく環境基準(平成3年環境省告示第46号)」および「土壌汚染対策法に基づく特定有害物質の含有量基準(平成15年環境省告示第19号)」にそれぞれ適合することを確認し、資料を監督員に提出すること。 ※試験回数(※1) 回
	31	完成時の提出図書
32	工事写真及び完成写真	(3)特別管理産業廃棄物(・種類: 搬出先:) 受注者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有する者を選任し、監督員に報告する。なお、選任は受注者の中で行う。 (4)有価金属 ・有価金属は、下記の業者で処分すること。 (7)札幌市競争入札参加資格者:物品・役務関係・再生資源関係業者 (4)廃棄物再生事業登録業者(知事登録) (7)金属くず商許可業者(警察許可) なお、搬出を行なった際、領収書または、受入伝票等及び許可書等の写しを監督員に提出すること。 ・有価金属は、材料引渡しリストを作成し、下記保管場所に保管する。(保管場所:)
	33	週休2日工事
34	図番	工事区分 ※該当は ● 印とする。
	縮尺	項目 建築電気暖房衛生備考

設備機器取付用下地補強	○	○	○	○	
フード・バンドキャップ類のコーキング	○	○	○	○	
衛生器具廻りのコーキング	○	○	○	○	
種別 ・Aタイプ(縦850×横1,760) ※Bタイプ(縦850×横800) 表面材:着色カラー鉄板白色 厚0.35mm、文字は黒色。					
工事名	工事				
工事期間	令和 年 月 日～令和 年 月 日				
施工者	会社				
代表者名	Tel				
発注担当	(一財)札幌市住宅管理公社				
保全部	保全部 保全課 建築係				
	Tel 211-3383				
対象機種	型式	規格			
バックホウ	油圧式クローラ型	ディーゼルエンジン			
ブルドーザ	普通、湿地、7ツバ 装置付	(エンジン出力7.5kW以上260kW以下)を搭載した建設機械に限る。			
トラクターショベル	ホイール型	ただし、道路運送車両法による排ガス規制を受けている建設機械は除く。			
発動発電機	可搬式、溶接兼用機含む				
空気圧縮機	可搬式				
油圧式杭圧入引拔機					
ローラ	ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ				
ホイールクレーン	ラフテレーンクレーン				
建築基準法に基つき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法	建築基準法に定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法と定められた工種について、工法を施工計画書として提出する。 (標8.4.3)(標10.5.3)(標13.2.3)(標13.3.3)(標14.7.3) 建築基準法に基つき定められた区分等 基準風速 V ₀ =(※32) m/s 地表面粗度区分 (・I ・II ※III ・IV)				
多雪地域とし、垂直積雪量等は、札幌市建築基準法施行細則第21条による。					
調査範囲	RC部外壁・S部ウレタンボード (1.6.2)(1.6.3) ボーチ・階段				
調査方法	目視・打診 ・破壊部分の補修				
報告書	図面、集計表				
完成図	※作成する(A3判 2部)・作成しない				
作成方法	製本(A3判 2部) ・白焼きバラ(A3判 部) 製本等は、完成図、主要な施工図、実施工程表、施工業者一覧、主要な使用材料一覧をまとめたものとする。 (1.9.1)(1.9.2)(表1.9.1)				
完成図のCADデータ	※提出する ・提出しない データ形式は、以下のすべてを提出すること。(1.9.2) ①貴社で使用しているCAD形式 ②DXF形式 ③PDF形式				

保全に関する資料	※作成する(1部)・作成しない(1.9.3)		
保証書等	※作成する(2部)・作成しない		
設計図CADデータの貸与	(提供する・提供しない) 提供するCADデータは、本工事の履行に必要な施工図及び完成図の作成においてのみ使用し、それ以外の目的で使用してはならない。提供したCADデータは、引き渡し時を目的に複製も含めてすべて削除すること。		
(1)工事写真の撮影及び整理については、「営繕工事写真撮影要領(工事着手日時点の最新版を適用)」による。ただし、提出部数及び形式については監督職員と協議する。(1.2.4)			
(2)デジタル工事写真については、国土交通省通知「デジタル工事写真の黒板情報電子化について(工事着手日時点の最新の通知を適用)」に基づき実施する。			
(3)完成写真の提出部数(紙媒体 1部)(電子媒体 1部) 完成写真の仕様は、監督員と協議する。			
(4)受注者は著作物等(工事写真・完成写真等)の利用を発注者に許諾する。			
週休2日工事の実施について	○週休2日工事の実施について 1.本工事は、「週休2日工事(営繕・土木工事)」の対象工事であり、当初予定価格は4週8休以上の達成を前提とした経費の補正を行っている。 2.週休2日とは、対象期間において、4週8休以上の現場閉所(現場休息)を行ったと認められる状態をいう。対象期間は、工事着手日(現場に継続的に常駐した最初の日)から工事完成日までの期間をいう。なお、年末年始休暇6日間夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間(受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など)は含まない。 3.4週8休以上とは、対象期間内の現場閉所(現場休息)率が28.5%(8日/28日)以上の水準に達する状態をいう。 4.週休2日の実施の確認方法は、次によるものとする。 1)受注者は、週休2日の休日取得計画を施工計画書に添付し発注者へ提出する。 2)受注者は、実施結果を工事月報、休日取得計画等により定期的に発注者へ報告する。 5.現場閉所(現場休息)の状況を確認後、4週8休に満たない場合は、補正分について減額の設計変更を行う。 6.その他の事項については、公社HPに掲載している週休2日工事要領(営繕・土木工事)によるものとする。		
2章 仮設工事			
足場その他	○内部足場:外部足場内 軒天井部 (2.2.1) (※脚立、足場板等 ・架台足場 ・移動式足場) ○外部足場:※枠組 ・くさび緊結式 ・単管 ・ゴンドラ ・移動式 ・高所作業車 ○危険防止: ・金網張 ○金網式養生枠 ○防災シート (※I類 ・II類) ・ネット養生シート (※I類 ・II類) ・養生防護棚 ・水平ネット ○材料、撤去材料等の運搬方法 (表2.2.1) ・A種(二本構り) ○B種(トラック等) ・C種(既存EV利用) ・D種(既存階段) ・E種(登り橋等) ○手すり先行足場 (手すり先行足場を使用する場合は「手すり先行工法に関するガイドライン(厚生労働省平成21年4月策定)」による)		
既存部分の養生	○既存養生方法(※ビニールシート、合板類) (2.3.1) ・既存部分における既存家具、既存設備等の養生(※ビニールシート) ・既存プラント、カー等養生方法及び保管場所(※監督員の指示による) ・備品、机、ロッカー等の移動 (・行う ・行わない)		
仮設間仕切り	・設置する(図示による) ・設置しない (2.3.2) 種別(・A種 ※B種 ・C種) (表2.3.1) A種及びB種の材種: (※石膏ボード ・合板 ・ケイカル板+石膏ボード)		

④ 仮囲い	厚さ(※9.5mm ・9mm ・4mm+12.5mm) 仮設扉(※設置する(図示による) ・設置しない) 扉の構造(※合板張り木製扉程度 ・図示による) 塗装(・行う ※行わない)
⑤ 工事用水	構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる(※有償 ・無償)
⑥ 工事用電力	構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる(※有償 ・無償)
⑦ 工事用仮設道路	範囲は図示による。 材料(・再生クワッシュラン ・切込碎石 ①敷鉄板 722)

3章 土工事

01 排水	排水工法 (標3.2.2) 排水処理の方法
② 埋戻し及び盛土	種別 (・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・汚泥再生材) C種の発生場所: 受入れ量: m3 (標3.2.3)(標表3.2.1)
03 建設発生土の処理	※指定地へ搬出(・堆積 ・敷均し) (標3.2.5) 搬出先() 運搬距離(km) 住所: ・構内指示の場所に運搬(・堆積 ・敷均し)
04 山留め	工法() 施工範囲(※図示による) 構造() 土質(※図示の柱状図による) 山留め周囲の上載圧(t/m ²) 地下水位(GL- m) 山留めの撤去(※撤去 ・存置) (標3.3.1)(標3.3.2)(標3.3.3)

4章 地業工事

01 試験	試験杭(※行う ・行わない) (標4.2.2) 位置は図示によるほか監督員との協議による。 杭の本数(※最初の1本 ・本) 杭の種類(※本杭と同じ ・) 杭長(※本杭と同じ ・ m) 杭径(※本杭と同じ ・ mm) 杭の載荷試験(・行う ※行わない) (標4.2.3) 種類(・鉛直載荷 ・水平載荷) 位置、本数、載荷荷重又は報告書の記載事項は図示による 地盤の平板載荷試験(・行う ※行わない) (標4.2.4) 試験方法(※段階式載荷 ・段階式繰返し載荷) 位置、載荷荷重及び報告書の記載事項は図示による。																																	
02 既製コンクリート杭及び鋼杭地業	杭種 (標4.3.2)(標4.3.4)(標4.3.5)(標4.3.6) (標4.4.2)(標4.4.4)(標4.4.5)																																	
<table border="1"> <tr> <td>杭の種類</td> <td>・遠心コンクリート杭</td> <td>・鋼杭</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・PHC杭 (JIS A 5373)</td> <td>・先端羽付回転貫入鋼管杭</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・RC杭</td> <td></td> </tr> <tr> <td>規格・区分</td> <td colspan="2">・A種 ・B種 ・C種</td> </tr> <tr> <td>杭長(m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>断面寸法(mm)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計支持力(kN)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>先端形状</td> <td colspan="2">・閉塞形(平たん) ・開放形 ・半開放形 ・</td> </tr> <tr> <td>継手工法</td> <td colspan="2">・アーク溶接 ・機械式継手</td> </tr> <tr> <td>工法</td> <td colspan="2">・セメントミルク工法 (標4.3.4) アースオーガの支持地盤への掘削深さ(・1.5m程度) 杭の支持地盤への根入れ深さ(・1m以上) ・建築基準法に基づく(認定)特定埋込杭工法 (標4.3.5) (工法:)</td> </tr> </table>		杭の種類	・遠心コンクリート杭	・鋼杭		・PHC杭 (JIS A 5373)	・先端羽付回転貫入鋼管杭		・RC杭		規格・区分	・A種 ・B種 ・C種		杭長(m)			断面寸法(mm)			設計支持力(kN)			本数			先端形状	・閉塞形(平たん) ・開放形 ・半開放形 ・		継手工法	・アーク溶接 ・機械式継手		工法	・セメントミルク工法 (標4.3.4) アースオーガの支持地盤への掘削深さ(・1.5m程度) 杭の支持地盤への根入れ深さ(・1m以上) ・建築基準法に基づく(認定)特定埋込杭工法 (標4.3.5) (工法:)	
杭の種類	・遠心コンクリート杭	・鋼杭																																
	・PHC杭 (JIS A 5373)	・先端羽付回転貫入鋼管杭																																
	・RC杭																																	
規格・区分	・A種 ・B種 ・C種																																	
杭長(m)																																		
断面寸法(mm)																																		
設計支持力(kN)																																		
本数																																		
先端形状	・閉塞形(平たん) ・開放形 ・半開放形 ・																																	
継手工法	・アーク溶接 ・機械式継手																																	
工法	・セメントミルク工法 (標4.3.4) アースオーガの支持地盤への掘削深さ(・1.5m程度) 杭の支持地盤への根入れ深さ(・1m以上) ・建築基準法に基づく(認定)特定埋込杭工法 (標4.3.5) (工法:)																																	
<p>支持地盤は図示による。(標4.3.4)(標4.3.5)(標4.4.4)</p> <p>杭の水平方向の位置ずれの精度(標4.3.4)(標4.3.5)(標4.4.4) (・100mm以下 ・図示による)</p> <p>杭頭の処理は図示による。(標4.3.8)(標4.4.6)</p> <p>施工記録の管理・報告 電流値等の施工データ(アナログ式記録機械においては記録紙の原</p>																																		

03 砂利及び砂地業	材料(・砂 ・切込砂利 ・切込碎石 ※再生クワッシュラン) (標4.6.2) 厚さ(mm) 施工箇所() (標4.6.3)
04 捨コンクリート地業	設計基準強度(・15 N/mm ² ・18 N/mm ²) (標4.6.4)(標6.14.1) スランブ(・15cm ・18cm) (標6.14.2) 厚さ(※50mm ・ mm)
05 床下防湿層	材料(※ポリエチレンフィルム厚0.15mm)範囲は図示による (標4.6.2)(標4.6.5) 継手位置 ※構造特記による (標6.14.2) ・公共建築工事標準仕様書各部配筋参考図による 柱及び梁の主筋及び耐力壁の鉄筋重ね継手の長さ (※構造特記による)
<p>耐力壁の鉄筋重ね継手の長さ (※40dと(標表5.3.2)のうち大きい値 ・構造特記による)</p> <p>鉄筋の定着長さ (※標表5.3.4による ・図示による) 機械式定着工法 ・適用する 適用箇所(・図示による ・) 種類 (・図示による ・)</p> <p>ガス圧接継手の抜取試験 (標5.4.10) (※超音波探傷試験 ・引張試験) ・塩害を受けるおそれのある部分、耐久性上不利な箇所 (※図示による)</p> <p>ガス圧接継手の抜取試験(※超音波探傷試験 ・引張試験) (標5.4.10) ・塩害を受けるおそれのある部分、耐久性上不利な箇所 (※図示による)</p> <p>機械式継手及び溶接継手 (標5.5.3)(標5.6.3) 種類 (※図示による) 品質の確認方法 (※図示による) 継手部の試験工法 (標5.5.5)(標5.6.5) (・外観試験 ・超音波探傷試験) 不合格となった継手の修正方法等(※図示による)</p>	

5章 鉄筋工事

01 鉄筋の種類	鉄筋の種類 (標表5.2.1)																
<table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>JIS G 3112</th> <th>径</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・S D 295</td> <td></td> <td>D 以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・S D 345</td> <td></td> <td>D 以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・S D 345</td> <td></td> <td>D</td> <td>アンカー差し筋</td> </tr> </table>		種別	JIS G 3112	径	備考	・S D 295		D 以下		・S D 345		D 以上		・S D 345		D	アンカー差し筋
種別	JIS G 3112	径	備考														
・S D 295		D 以下															
・S D 345		D 以上															
・S D 345		D	アンカー差し筋														
適用箇所は図示による																	
02 溶接金網	網目の形状 (※レギュラー溶接金網 ・デザイン溶接金網) 網目の寸法(mm) (・100×100 ・150×150) (標5.2.2) 鉄線の径(・3.2mm ・6.0mm) 規格番号JIS G 3551																
03 加工	90°未満の折り曲げの内法直径(※構造特記による)(標5.3.2)																
04 継手及び定着	継手 (標5.3.4)																
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・重ね継手</td> <td>・D16以下</td> </tr> <tr> <td>・ガス圧接継手(標5.5.4節)</td> <td>・D19以上</td> </tr> <tr> <td>・機械式継手(標5.5.2)</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・溶接継手(標5.5.3)</td> <td>・</td> </tr> </table>		適用箇所		・重ね継手	・D16以下	・ガス圧接継手(標5.5.4節)	・D19以上	・機械式継手(標5.5.2)	・	・溶接継手(標5.5.3)	・						
適用箇所																	
・重ね継手	・D16以下																
・ガス圧接継手(標5.5.4節)	・D19以上																
・機械式継手(標5.5.2)	・																
・溶接継手(標5.5.3)	・																
05 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	軽量コンクリートの最小かぶり厚さは構造特記による。 特殊な継手の鉄筋間隔は構造特記による。(標5.3.5) ・塩害を受けるおそれのある部分、耐久性上不利な箇所 (※図示による)																

06 各部配筋	※構造図、構造特記仕様書による (標5.3.7) ・公共建築工事標準仕様書 各部配筋参考図による(図中の【その他記載すべき事項】は図示による)												
6章 コンクリート工事													
01 コンクリートの種類等	コンクリートの種類 ※普通コンクリート ・軽量コンクリート ・特殊コンクリート(構造特記による) ・建築基準法第37条第二号に規定されたコンクリート(構造特記による) (標6.2.1) コンクリートの種別(※Ⅰ類 ・Ⅱ類)(標6.2.1)(標表6.2.1) 所要気乾単位容積質量 (標6.10.2) 軽量コンクリート (※標表6.10.1による)												
02 コンクリートの強度及びスランブ	コンクリートの強度及びスランブ (標6.2.2)(標6.2.4)(標表6.2.2)												
<table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スランブ (c m)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>※21(N/mm²)</td> <td>・15 ・18</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		設計基準強度 (N/mm ²)	スランブ (c m)	施工箇所	※21(N/mm ²)	・15 ・18							
設計基準強度 (N/mm ²)	スランブ (c m)	施工箇所											
※21(N/mm ²)	・15 ・18												
03 構造体コンクリートの仕上り	合板せき板の打放し仕上げ (標6.2.5)(標表6.2.4)												
<table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td></td> </tr> </table>		種別	施工箇所	・A種		・B種		・C種					
種別	施工箇所												
・A種													
・B種													
・C種													
コンクリートの仕上りの平坦さは(標表6.2.5)を標準とする。													
<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>スランブ (c m)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・a種</td> <td>化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り</td> <td>合成樹脂塗床 ビニル系床材張り 床コンクリート直均し仕上げ フローレスフロア(置敷式)</td> </tr> <tr> <td>・b種</td> <td>仕上塗材塗り</td> <td>カーペット張り 防水下地 セラフレパンタ材塗り</td> </tr> <tr> <td>・c種</td> <td>セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り モルタル塗り 銅線下地</td> <td>タイル張り モルタル塗り 二重床</td> </tr> </table>		種類	スランブ (c m)	適用箇所	・a種	化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り	合成樹脂塗床 ビニル系床材張り 床コンクリート直均し仕上げ フローレスフロア(置敷式)	・b種	仕上塗材塗り	カーペット張り 防水下地 セラフレパンタ材塗り	・c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り モルタル塗り 銅線下地	タイル張り モルタル塗り 二重床
種類	スランブ (c m)	適用箇所											
・a種	化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り	合成樹脂塗床 ビニル系床材張り 床コンクリート直均し仕上げ フローレスフロア(置敷式)											
・b種	仕上塗材塗り	カーペット張り 防水下地 セラフレパンタ材塗り											
・c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り モルタル塗り 銅線下地	タイル張り モルタル塗り 二重床											
04 コンクリートの材料	セメント (標6.3.1)(標表6.3.1)												
<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>※普通ポルトランドセメント又は、混合セメントA種</td> <td>下記以外のすべて</td> </tr> <tr> <td>・早強ポルトランドセメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・高炉セメントB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・フライッシュセメントB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・普通エコセメント</td> <td></td> </tr> </table>		種類	適用箇所	※普通ポルトランドセメント又は、混合セメントA種	下記以外のすべて	・早強ポルトランドセメント		・高炉セメントB種		・フライッシュセメントB種		・普通エコセメント	
種類	適用箇所												
※普通ポルトランドセメント又は、混合セメントA種	下記以外のすべて												
・早強ポルトランドセメント													
・高炉セメントB種													
・フライッシュセメントB種													
・普通エコセメント													
骨材の種類及び品質は、JIS A5308の付属書Aによるほか、以下による。(標6.3.1)													
<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・フェロニッケルスラグ細骨材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鋼スラグ細骨材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・電気炉酸化スラグ骨材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・再生骨材H</td> <td>・無筋コンクリート</td> </tr> </table>		種類	適用箇所	・フェロニッケルスラグ細骨材		・鋼スラグ細骨材		・電気炉酸化スラグ骨材		・再生骨材H	・無筋コンクリート		
種類	適用箇所												
・フェロニッケルスラグ細骨材													
・鋼スラグ細骨材													
・電気炉酸化スラグ骨材													
・再生骨材H	・無筋コンクリート												
アルカリシリカ反応性の区分(※A ・B) 高炉スラグ粗骨材の絶対密度、吸水率及び単位容積質量による区分(※N ・L) 電気炉酸化スラグ粗骨材の絶対密度の区分(※N ・L)													
<p>混和材料 (標6.3.1)(標6.3.2) ・特記による混和材料 種類()、使用方法()、 使用量() ※種類は(標6.3.1)、使用方法及び使用料は(標6.3.2)による。 レディミクストコンクリート工場の選定は、「全国品質管理監査会議」が 策定した「全国統一品質管理監査基準」に基づく監査に適合 した工場を優先的に選定する。(標6.4.1)</p>													
05 構造体強度補正值	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリセメントA種、フライッシュセメントA種の構造体強度補正值 (標6.3.2)(標表6.3.2)												
<table border="1"> <tr> <th>構造体強度補正值(S)</th> <th>適用期間</th> </tr> <tr> <td>3N/mm²</td> <td>4/11~10/20</td> </tr> <tr> <td>6N/mm²</td> <td>10/21~4/10</td> </tr> </table>		構造体強度補正值(S)	適用期間	3N/mm ²	4/11~10/20	6N/mm ²	10/21~4/10						
構造体強度補正值(S)	適用期間												
3N/mm ²	4/11~10/20												
6N/mm ²	10/21~4/10												
ただしラップルコンクリート、捨てコンクリートは除く													
06 普通エコセメント	普通エコセメント 養生期間() (標6.7.2) 型枠の最小存置期間() (標6.8.4)												

07 軽量コンクリート	適用は構造特記による (標6.10節) スランブ(※構造特記による)																		
08 寒中コンクリート	適用期間 11月1日から3月31日の間に打設する部分とする。(標6.11節)																		
09 暑中コンクリート	適用期間 ※適用なし() (標6.12節) 構造体強度補正 (※6N/mm ²)																		
10 無筋コンクリート	(標6.14.1)(標6.14.2)(標6.14.3)																		
<table border="1"> <tr> <th>設計基準強度</th> <th>スランブ(c m)</th> <th>粗骨材の最大寸法</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>※18N/mm²</td> <td>・15 ・18</td> <td>※25mm</td> <td></td> </tr> </table>		設計基準強度	スランブ(c m)	粗骨材の最大寸法	適用箇所	※18N/mm ²	・15 ・18	※25mm											
設計基準強度	スランブ(c m)	粗骨材の最大寸法	適用箇所																
※18N/mm ²	・15 ・18	※25mm																	
11 打継目地	寸法(※図示による) (標6.6.4)																		
12 型枠	打増し厚さ(※20mm ・ mm ・図示による)(標6.8.1) ひび割れ誘発目地(※位置、形状及び寸法は図示による。) スリーブに用いる材料 材種(※標6.8.2(9)(イ)による ・) (標6.8.2) 規格(※標6.8.2(9)(イ)による ・) せき板の材料																		
<table border="1"> <tr> <th></th> <th>厚さ等</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・合板 表面加工品</td> <td>※12mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・合板 B-C種</td> <td>※12mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・床型枠用鋼製デッキプレート</td> <td>・ mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・断熱材兼用型枠材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・MCR工法用シート</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			厚さ等	施工箇所	・合板 表面加工品	※12mm		・合板 B-C種	※12mm		・床型枠用鋼製デッキプレート	・ mm		・断熱材兼用型枠材			・MCR工法用シート		
	厚さ等	施工箇所																	
・合板 表面加工品	※12mm																		
・合板 B-C種	※12mm																		
・床型枠用鋼製デッキプレート	・ mm																		
・断熱材兼用型枠材																			
・MCR工法用シート																			

7章 コンクリートブロック・ALCパネル

・押出成形セメント板工事

01 補強コンクリートブロック造	種類 (標8.2.2) ※空洞ブロック16 ・空洞ブロック12 ・空洞ブロック08 厚さ(・100mm ・120mm ・150mm) 各部の配筋(※図示による) (標8.2.5)																								
02 コンクリートブロック帳壁及び塀	・種類 空洞ブロック16 (標8.3.2)(標表8.3.1) (・間仕切壁 ・地下二重壁 ・外壁 ・塀)																								
03 ALCパネル	・種類 空洞ブロック08 (・衛生配管用裏積みブロック) 厚さ(・100mm ・120mm ・150mm ・190mm) 各部の配筋(※図示による)																								
ALCパネルはJIS A5416による 種類、工法 (標8.4.2~5)(表8.4.2)(表8.4.3)																									
<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>寸法(mm)W×D×t</th> <th>単位荷重(kN)</th> <th>種別</th> <th>耐火性能</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・外壁用パネル</td> <td></td> <td></td> <td>・種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・間仕切用パネル</td> <td></td> <td></td> <td>・種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・屋根用パネル</td> <td></td> <td></td> <td>※F種</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		種類	寸法(mm)W×D×t	単位荷重(kN)	種別	耐火性能	備考	・外壁用パネル			・種			・間仕切用パネル			・種			・屋根用パネル			※F種		
種類	寸法(mm)W×D×t	単位荷重(kN)	種別	耐火性能	備考																				
・外壁用パネル			・種																						
・間仕切用パネル			・種																						
・屋根用パネル			※F種																						
外壁パネル構法、屋根及び床パネル構法 (標8.4.3)(標8.4.5) 耐火性能() 耐震性能() 外壁用パネルの出隅入隅の目地幅(mm)(標8.4.3)(標8.4.4) ・伸縮目地への耐火目地材の充填 (標8.4.3)(標8.4.4) 外壁用パネルの幅(※300mm) (標8.4.3)																									
04 押出成形セメント板	押出成形セメント板はJIS A5441による 種類 (標8.5.2)(標表8.5.1)(標表8.5.2)																								
<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>表面形状</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>取付工法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・外壁用パネル</td> <td>・フラット ・デザイン</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・種</td> </tr> <tr> <td>・間仕切用パネル</td> <td>・フラット ・デザイン</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・種</td> </tr> </table>		種類	表面形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	取付工法	備考	・外壁用パネル	・フラット ・デザイン				・種	・間仕切用パネル	・フラット ・デザイン				・種						
種類	表面形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	取付工法	備考																				
・外壁用パネル	・フラット ・デザイン				・種																				
・間仕切用パネル	・フラット ・デザイン				・種																				
外壁パネル構法、屋根及び床パネル構法 (標8.5.3) 耐風圧性能() 耐震性能()																									
外壁用パネルの相互の目地幅 (※長辺10mm以上 短辺15mm以上)(標8.5.3)(標8.5.4) 外壁用パネルの出隅入隅の目地幅(※15mm) (標8.5.3)(標8.5.4) 外壁パネルの欠き込み(開口限度 mmとする) (標8.5.5) 目地及び隙間 (※パネル製造所 ・図示による)																									
間仕切壁パネル工法 (標8.5.4) 耐震性能()																									

8章 防水改修工事

Table with 2 columns: Item No. (e.g., 01 降雨に対する養生方法, 02 改修工法の種類) and Description/Requirements (e.g., 改修工法の種類 (3.1.4) (表3.1.1), 新規防水層の種類、施工箇所 (3.3.3) (表3.3.3~表3.3.10)).

Table with 2 columns: Item No. (e.g., 05 合成高分子系ルーフィングシート防水, 06 塗膜防水) and Description/Requirements (e.g., 新規防水層の種類、施工箇所 (3.5.3) (表3.5.1~3), 種類、施工箇所 (表3.5.1~3)).

Table with 2 columns: Item No. (e.g., 01 あと施工アンカー, 02 軽量鉄骨天井下地) and Description/Requirements (e.g., あと施工アンカーの種類 (8.2.4), あと施工アンカーの耐力 (8.2.4)).

Table with 2 columns: Item No. (e.g., 04 金属成形板張り(天井), 05 アルミニウム製笠木) and Description/Requirements (e.g., 材料及び葺形式 (標13.2.1~3) (標表13.2.1), 折板葺 (標13.3.2) (標13.3.3) (標表13.2.1)).

10章 左官工事

01 モルタル塗り	<p>仕上げの種類 (標15.3.5) (標表15.3.4) (標表15.6.3)</p> <table border="1"> <tr> <td>・金ゴテ仕上げ</td> <td>施工箇所：</td> </tr> <tr> <td>・木ゴテ仕上げ</td> <td>施工箇所：</td> </tr> <tr> <td>・はけ引き仕上げ</td> <td>施工箇所：</td> </tr> </table> <p>・材料 (・現場調合材料 ・既調合材料) (標15.3.2)</p> <p>・既製目地材 形状、位置は図示による。 (標15.3.2)</p> <p>・床目地の設置 (標15.3.5)</p> <p>工法 (※押し目地 ・) ()</p> <p>位置 (※2㎡程度 (最大目地間隔3m程度) ・) ()</p> <p>・外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 (・行う ・行わない) (標15.3.5)</p>	・金ゴテ仕上げ	施工箇所：	・木ゴテ仕上げ	施工箇所：	・はけ引き仕上げ	施工箇所：			
・金ゴテ仕上げ	施工箇所：									
・木ゴテ仕上げ	施工箇所：									
・はけ引き仕上げ	施工箇所：									
02 防水モルタル塗り	<p>施工箇所：ポーチ床、階段 押し目地、木ゴテ仕上</p>									
03 床コンクリート直均し仕上げ	<p>仕上げの種類 (標15.4.1)</p> <table border="1"> <tr> <td>・金ゴテ仕上げ</td> <td>施工箇所：</td> </tr> <tr> <td>・粗面仕上げ</td> <td>施工箇所：</td> </tr> <tr> <td>・塗物、敷物、張物等の下地</td> <td>施工箇所：</td> </tr> </table>	・金ゴテ仕上げ	施工箇所：	・粗面仕上げ	施工箇所：	・塗物、敷物、張物等の下地	施工箇所：			
・金ゴテ仕上げ	施工箇所：									
・粗面仕上げ	施工箇所：									
・塗物、敷物、張物等の下地	施工箇所：									
04 セルフレベリング材塗り	<p>種類 (標15.5.2) (標表15.5.1) (標15.5.3)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>塗り厚さ</td> <td>施工箇所</td> </tr> <tr> <td>・せっこう系</td> <td>※10.0mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・セメント系</td> <td>※10.0mm</td> <td></td> </tr> </table>		塗り厚さ	施工箇所	・せっこう系	※10.0mm		・セメント系	※10.0mm	
	塗り厚さ	施工箇所								
・せっこう系	※10.0mm									
・セメント系	※10.0mm									
05 仕上塗材仕上げ	<p>仕上塗材は、11章 外壁改修工事の 塗り仕上げ外壁等の改修を参照すること。</p>									
06 ロックウール吹付け	<p>吹付け材の種類 (標15.12.3)</p> <table border="1"> <tr> <td>種 類</td> <td>色 彩</td> <td>厚 さ (mm)</td> </tr> <tr> <td>・一般用</td> <td>・着色 ・原色</td> <td>・10 ・15 ・20</td> </tr> </table> <p>ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による (標15.12.2)</p>	種 類	色 彩	厚 さ (mm)	・一般用	・着色 ・原色	・10 ・15 ・20			
種 類	色 彩	厚 さ (mm)								
・一般用	・着色 ・原色	・10 ・15 ・20								

11章 外壁改修工事

01 外壁改修工法の種類	<p>○コンクリート打放し仕上げ外壁 (4.1.4)</p> <p>○ひび割れ部改修工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹脂注入工法 ○Uカットシール材充填工法 ・シール工法 <p>○欠損部改修工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○充填工法 ・
・モルタル塗り仕上げ外壁	<p>・ひび割れ部改修工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 ・シール工法 <p>・欠損部改修工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充填工法 ・モルタル塗替え工法 <p>・浮き部改修工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンカーピンニング工法(注入口付アンカーピンニング工法) ・充填工法 ・モルタル塗替え工法
・タイル張り仕上げ外壁	<p>○ひび割れ部改修工法</p> <p>※樹脂注入工法</p> <p>・欠損部改修工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 <p>・浮き部改修工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンカーピンニング工法(注入口付アンカーピンニング工法) ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 <p>・目地改修工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法

02 工法別使用材料

・樹脂注入工法 (4.2.4) (4.2.5) (4.3.5) (4.3.6) (4.4.5) (4.4.6)

材料	エポキシ樹脂 (JIS A6024)		
工法		注入間隔	注入量
	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	※200～300mm	・
	・手動式エポキシ樹脂注入工法	・	・
	・機械式エポキシ樹脂注入工法	・	・
確認	<ul style="list-style-type: none"> ・コア抜き取りによるひび割れ部の注入状況の確認 ・その他の方法 () <p>抜き取り箇所数 (箇所)</p> <p>抜き取り部分の補修方法 (・監督員との協議による。)</p>		

○Uカットシール充填工法 (4.2.4) (4.2.6) (4.3.5) (4.3.7)

材料	・シーリング (・1成分形ポリウレタン系 ・2成分形ポリウレタン系)
	○可とう性エポキシ樹脂
	・ポリマーセメントモルタル
工法	シーリング材の試験
	※同材の組合せで実施した試験成績表がある場合は行わない
	・試験を行う (※簡易接着性試験 ・引張接着性試験)
	試験の適用箇所 ()

・シール工法 (4.2.4) (4.2.6) (4.3.5) (4.3.7)

材料	・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂
----	------------------------

○充填工法 (4.2.4) (4.2.8) (4.3.5) (4.3.9)

材料	○エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル
----	---------------------------

※モルタル塗り仕上げ外壁の場合はポリマーセメント(4.3.7(3))による

・モルタル塗り替え工法 (4.3.5) (4.3.10)

材料	・現場調合材料 ・既調合材料 (・)
	・既製目地材 形状(※図示による ・)
工法	モルタル塗厚が 25mmを超える場合の処理(・)

・アンカーピンニング工法(4.3.5) (4.3.11～16) (4.4.5) (4.4.9～15)

材料	アンカーピン 材質(※SUS304 4mmφ丸棒全ネジ切り加工) 長さ(・50 ・70 ・100)
	注入口付アンカーピン 材質(※SUS304 6mmφ) 長さ(・)
	ポリマーセメントスラリー(※実績等の資料を提出する)

工法	アンカーピン		注入口箇所数		充填量 注入量 (m ³)
	本数(本/㎡)	(箇所/㎡)	一般部	指定部	
・部分エポキシ樹脂注入	※16	※25	/	/	※25
・全面エポキシ樹脂注入	※13	※20	※12	※20	※25
・全面ポリマーセメントスラリー注入	※13	※20	※12	※20	※50
・注入口付部分エポキシ樹脂注入	※9	※16	/	/	※25
・注入口付全面エポキシ樹脂注入	※9	※16	※9	※16	※25
・注入口付全面ポリマーセメントスラリー注入	※9	※16	※9	※16	※50
・注入口付エポキシ樹脂注入	・	・	・	・	※25

・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 (4.4.5) (4.4.7) (4.4.8) (表4.4.4)

適用 (・0.25㎡超え ・下地モルタル無)

張付材料の種類

・ポリマーセメントモルタル

・JIS A 5557による一液反応硬化変性シリコン樹脂系又はウレタン樹脂系

タイルの品質はJIS A5209によるほか、次による

形状寸法 (mm)	吸水率	軸葉	役物	耐凍害性	耐滑り性	色
	・Ⅰ類	・施	・有	・有	・0.4	・標準
	・Ⅱ類	・無	・無	・無	・	・特注
	・Ⅲ類					

参考 吸水率による区分は、Ⅰ類は旧規格の磁器質、Ⅱ類はせっ器質、Ⅲ類は陶器質にほぼ該当する。

試験張り (・行う ・行わない) (4.4.8)

見本焼き (・行う ・行わない)

03 塗り仕上げ外壁等の改修

・壁タイル張りの工法 (標表11.2.3) (標表11.3.2) (標表4.4.5) (標表4.4.6)

・内外装タイル	・密着張り ・改良圧着張り
	・接着剤張り
・内装タイル以外のユニットタイル	・マスク張り ・モザイクタイル張り
	・接着剤張り

・下地モルタルの接着力試験

有機系接着剤による陶磁器質タイル張りにおける目地のシーリング材打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地(※ボリウレタン系 ・)

伸縮調整目地、その他の目地(※変成シリコン系 ・)

※目地の位置は図示による

・目地改修工法 (4.4.16)

伸縮調整目地	位置(※図示による)
	寸法(・)

既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整 (4.5.4) (4.5.5)

工法	・サンダー工法 ・高圧水洗工法
	・塗膜はく離削工法 ○水洗い工法
処理範囲	※既存仕上全体 ○図示による
下地調整塗材の種類	※セメント系下地調整材
	・ポリマーセメントモルタル

仕上塗材はJIS A6909により種類等は以下による (4.5.2) (表4.5.1) (表4.5.2)

種別	種類(呼び名)	仕上げの形状	工法
複層	・複層塗材	・ゆず肌	・吹付
仕上塗材	(・E ・RE ・CE)	・凸部処理	・ローラー塗り
	(・E ・RE ・CE)	・凹凸状	

○一般外壁・RC軒天及び複合板軒天の既設塗装部 (トップコート塗り：水性フッ素樹脂系上塗り材)

水洗い、既設塗膜の上、水性カチオンシーラー1回、水性フッ素樹脂系上塗り材2回

複層仕上塗材の上塗材の耐候性、種類 (4.5.2)

耐候性	・耐候形3種 ・耐候形2種 ○耐候形1種
樹脂	・アクリル系 ・シリカ系 ・ポリウレタン系 ・アクリルシリコン系 ○フッ素系
外観	・つやあり ・つやなし ・マット
溶媒	・溶剤系 ・弱溶剤系 ※水系
機能性	・透湿性

防火材料の指定(※あり ○なし ・図示による)

仕上塗材のホルムアルデヒド放散量は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による (4.5.2)

・外壁用塗膜防水材はJIS A 6021による外壁用アクリル系とし、種類等は以下による (表4.7.1) (4.7.2) (4.7.3)

仕上げの形状 (・凹凸状 ・凸部処理 ・ゆず肌状 ・さざ波状)

仕上げ塗料の耐候性 (・)

下地挙動緩衝材 (・あり ・なし)

・マステック塗材塗り (4.6.2)

使用部位	塗り種別	下地調整種別
コンクリート、押出成型セメント板	・A種 ・B種	・RA種 ※RB種 ・RC種
モルタル、ALC [®] 被面		

押出成型セメント板面の下地調整はRB種とする

○塗装品 縦張り 山なしフラットタイプ

t15 (カバ[®]リウム鋼板 t0.35+表面ポリエステル樹脂塗装+硬質ウレタンコート)

不燃材料 (表面側性能) NM-5451同等

準不燃材料 QM-1048同等

透湿防水シート (ポリエステルフィルム張り不織布併用)

下地：既設鉄骨胴縁+ウレタンボード t20

役物は、同一のメーカーのものを使用すること。

04 マステック塗材塗り

05 金属サイディング張り

12章 建具改修工事

01 改修方法	<p>工法 (・かぶせ工法 ・撤去工法) (5.1.6)</p> <p>新規建具の開け方及び建具周囲の補修工法並びにその範囲は図示による。</p> <p>建具周囲のシーリング材は「8章 防水改修工事」による。</p>																						
02 防火戸	<p>適用箇所 ※図示による (5.1.4)</p> <p>ヒューズ装置、熱感知器等との連動 ※図示による</p>																						
03 建具見本の製作等ほか	<p>見本製作 (・行う ※行わない) (5.1.5)</p> <p>仮組 (・行う ※行わない)</p> <p>防犯建物部品の適用 (・あり(図示) ・なし) (5.1.7)</p>																						
04 防音、断熱、耐震性能	<p>防音、断熱、耐震性能 (5.2.2) (5.3.2) (5.4.2) (5.5.2)</p> <table border="1"> <tr> <td>・防音ドアセット、サッシ</td> <td>遮音性の等級 T-</td> </tr> <tr> <td>・断熱ドアセット、サッシ</td> <td>断熱性の等級 H-</td> </tr> <tr> <td>・耐震ドアセット、サッシ</td> <td>耐震性の等級 D-</td> </tr> </table> <p>適用箇所は図示による</p>	・防音ドアセット、サッシ	遮音性の等級 T-	・断熱ドアセット、サッシ	断熱性の等級 H-	・耐震ドアセット、サッシ	耐震性の等級 D-																
・防音ドアセット、サッシ	遮音性の等級 T-																						
・断熱ドアセット、サッシ	断熱性の等級 H-																						
・耐震ドアセット、サッシ	耐震性の等級 D-																						
05 アルミニウム製建具	<p>アルミニウム製建具の性能 (5.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>耐風圧性</td> <td>気密性</td> <td>水密性</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・外部</td> <td>・A種</td> <td>※S-4</td> <td>※A-4</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>※S-5</td> <td>※A-3</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>※S-6</td> <td>※A-4</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・屋内</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>表面処理 (表 5.2.2) による (5.2.4)</p> <p>・常温乾燥形の塗装 (5.2.4)</p> <p>表面色 (※標準色 ・特注色)</p> <p>建具の枠の見込み寸法(※70mm ・図示による) (5.2.2)</p> <p>ステンレス鋼板の種類 (5.2.3) (5.6.3)</p> <p>(※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 ・)</p> <p>ステンレス製くつずりの仕上げ (5.2.4) (5.4.4)</p> <p>(※HL ・)</p> <p>結露水の処理 (※図示による ・) (5.2.4)</p> <p>水切り板、ぜん板等の適用、材料等は図示による。 (5.2.5)</p>		耐風圧性	気密性	水密性	・外部	・A種	※S-4	※A-4	・B種	※S-5	※A-3	・C種	※S-6	※A-4	・	・	・	・	・屋内	・	・	・
	耐風圧性	気密性	水密性																				
・外部	・A種	※S-4	※A-4																				
	・B種	※S-5	※A-3																				
	・C種	※S-6	※A-4																				
・	・	・	・																				
・屋内	・	・	・																				
06 樹脂性建具	<p>樹脂製建具の性能 (5.3.2)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>耐風圧性</td> <td>気密性</td> <td>水密性</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・外部</td> <td>・A種</td> <td>※S-4</td> <td>※A-4</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>※S-5</td> <td>※A-4</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>※S-6</td> <td>※A-4</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・屋内</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>使用ガラス(※複層ガラス ・) (5.3.3)</p> <p>複層ガラスのスペーサー (・アルミ ・樹脂)</p> <p>建具の枠の見込み寸法 (※図示による ・) (5.3.4)</p> <p>ステンレス製くつずりの仕上げ (5.3.4) (5.4.4)</p> <p>(※HL ・)</p> <p>表面色 (・標準色 ・特注色)</p> <p>水切り板、ぜん板等の適用、材料等は図示による (5.3.5)</p>		耐風圧性	気密性	水密性	・外部	・A種	※S-4	※A-4	・B種	※S-5	※A-4	・C種	※S-6	※A-4	・	・	・	・	・屋内	・	・	・
	耐風圧性	気密性	水密性																				
・外部	・A種	※S-4	※A-4																				
	・B種	※S-5	※A-4																				
	・C種	※S-6	※A-4																				
・	・	・	・																				
・屋内	・	・	・																				
07 鋼製建具	<p>鋼製建具の性能 (5.4.2)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>耐風圧性(注)</td> <td>気密性</td> <td>水密性</td> </tr> <tr> <td>・簡易気密型</td> <td>※指定なし</td> <td>※A-3</td> <td>※W-1</td> </tr> <tr> <td>・指定性能</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>(注)外部に面する建具は S-4、S-5、S-6のいずれかとする</p> <p>ステンレス鋼板の種類 (5.4.3) (5.6.3)</p> <p>種類 (・SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1)</p> <p>鋼板の厚さ(※表5.4.2による ・図示による) (5.4.4)</p> <p>ステンレス製くつずりの仕上げ (5.4.4)</p> <p>(※HL ・)</p>		耐風圧性(注)	気密性	水密性	・簡易気密型	※指定なし	※A-3	※W-1	・指定性能	・	・	・										
	耐風圧性(注)	気密性	水密性																				
・簡易気密型	※指定なし	※A-3	※W-1																				
・指定性能	・	・	・																				
08 鋼製軽量建具	<p>鋼製軽量建具の性能 (5.5.2)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>耐風圧性</td> <td>気密性</td> <td>水密性</td> </tr> <tr> <td>・簡易気密型</td> <td>※指定なし</td> <td>※A-3</td> <td>※指定なし</td> </tr> <tr> <td>・指定性能</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>鋼板(※亜鉛めつき鋼板 ・ビニル被膜鋼板 ・カラー鋼板) (5.5.3)</p> <p>ステンレス鋼板の種類 (5.4.3) (5.6.3)</p> <p>(※SUS304 ・SUS430J1L又はSUS443J1 ・)</p> <p>ステンレス製くつずりの仕上げ (5.5.4) (5.4.4)</p> <p>(※HL ・)</p> <p>鋼製軽量建具の召合せ、縦小口包み板等の材質 (※鋼板 ・) (5.5.3)</p> <p>鋼板の厚さ(※表5.5.1による ・図示による) (5.5.4)</p>		耐風圧性	気密性	水密性	・簡易気密型	※指定なし	※A-3	※指定なし	・指定性能	・	・	・										
	耐風圧性	気密性	水密性																				
・簡易気密型	※指定なし	※A-3	※指定なし																				
・指定性能	・	・	・																				

09 ステンレス製建具	ステンレス鋼板 (5.6.3)(5.6.4)(5.6.5) 種類 (※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1) 仕上(※HL) 曲げ加工(※普通曲げ ・角出し曲げ)								
	10 網戸 ・防虫網の材質 (※合成樹脂 ・ガラス繊維入り合成樹脂 ・ステンレス(SUS316)) 線径 (※0.25mm以上) 網目 (※16~18) (5.2.3) 適用箇所は図示による								
11 木製建具	建具材の加工、組立時の含水率 (※A種 ・B種) (5.7.2)(表5.7.1) 枠、くつずりの材料 (※図示による) (5.7.2) ・フラッシュ戸 表面材の合板 (5.7.2)(表 5.7.2)								
	<table border="1"> <tr> <th>合板の種類</th> <th>表面材の品質等</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・普通合板</td> <td>接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹1等</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・MDF</td> <td>表裏面の状態による区分 () 曲げ強さ () 接着材による区分 () 難燃性による区分 ()</td> <td></td> </tr> </table>	合板の種類	表面材の品質等	備考	・普通合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹1等		・MDF	表裏面の状態による区分 () 曲げ強さ () 接着材による区分 () 難燃性による区分 ()
合板の種類	表面材の品質等	備考							
・普通合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹1等								
・MDF	表裏面の状態による区分 () 曲げ強さ () 接着材による区分 () 難燃性による区分 ()								
12 建具用金物	表面板の厚さ (※表5.7.6による) (5.7.3) 引戸の定規縁 (・いんろう付き) (5.7.4) ・かまち戸 樹種 かまち (※図示による) (5.7.2) 鏡板 (※図示による) (5.7.2) 見込み寸法 (※36mm ・図示による) 合板、接着剤のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による。 (標16.7.2)								
	金物の種類、材質(※表5.8.1による ・図示による) (5.8.2) 金物の取付位置等は図示による。 (5.8.3) 鍵の製作本数(※監督員との協議による) (5.8.4) マスターキー (・製作する ・製作しない) (5.8.4) グラントマスターキー (・製作する ・製作しない) (5.8.4) ・樹脂製建具丁番(※表5.8.3による ・図示による) (5.8.2)								
13 自動ドア開閉装置	金物の種類、材質(※表5.8.1による ・図示による) (5.8.2) 金物の取付位置等は図示による。 (5.8.3) 鍵の製作本数(※監督員との協議による) (5.8.4) マスターキー (・製作する ・製作しない) (5.8.4) グラントマスターキー (・製作する ・製作しない) (5.8.4) ・樹脂製建具丁番(※表5.8.3による ・図示による) (5.8.2)								
	検出装置の性能 (※表5.9.3による) (5.9.2)(表5.9.1)(表5.9.2) 引戸用検出装置の種類 (※図示による) (5.9.2)(表5.9.1)(表5.9.2) 防錆の適用 (・有 ・無) (5.9.2)(表5.9.1)(表5.9.2) 凍結防止措置の適用 () (5.9.2)(表5.9.1)(表5.9.2)								
14 自閉式上吊り引戸装置	自閉式上吊り引戸装置の性能(※表5.10.1による) (5.10.3)								
15 重量シャッター	機能による種類は図示による (5.11.2) 耐風圧強度 (・) (5.11.2) 開閉方式 (※電動式(手動併用) ・手動式) (5.11.2) 安全装置 (※適用は図示による) (5.11.2) 管理用シャッターのシャッターケースの設置 (・設置する ・設置しない) (5.11.2) スラット及びシャッターケース用鋼板 (5.11.3)								
	<table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>めっき付着量</th> </tr> <tr> <td>・JIS G3302(溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)</td> <td>※Z12 ・F12</td> </tr> <tr> <td>・JIS G3312(塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)</td> <td>※Z12 ・F12</td> </tr> </table>	材質	めっき付着量	・JIS G3302(溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)	※Z12 ・F12	・JIS G3312(塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)	※Z12 ・F12		
材質	めっき付着量								
・JIS G3302(溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)	※Z12 ・F12								
・JIS G3312(塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)	※Z12 ・F12								
工事範囲 電源及び一次側配線は別途電気設備工事として、 操作スイッチ及び二次側配線は本工事に含む。									

16 軽量シャッター	スラット (5.12.3) 材質 (5.12.3) めっき付着量 (5.12.3) ・JIS G3312(塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯) ※Z06 ・F06 ・JIS G3322(塗装溶融55%亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯) ※AZ90										
	形状 (※インターロック形 ・オーバーラップ形) (5.12.4) 開閉方式 (※電動式(手動併用) ・手動式) (5.12.2) 耐風圧強度 (・) (5.12.2) 工事範囲 電源及び一次側配線は別途電気設備工事として、 操作スイッチ及び二次側配線は本工事に含む。										
17 オーバーヘッドドア	セクション材料(※スチール ・アルミニウム ・ファイバーグラス) (5.13.2) 耐風圧性能区分(JIS A4715) (・50 ・75 ・100 ・125) (5.13.2) 開閉方法(※バランス式 ・チェーン式 ・電動式) (5.13.2) 収納形式 (・スタックト形 ・ローレット形 ・ハリフト形 ・パーチカル形) (5.13.3) ガイドレール (※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス(SUS304)) (5.13.3) 工事範囲 電源及び一次側配線は別途電気設備工事として、 操作スイッチ及び二次側配線は本工事に含む。										
	適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組合せは図示による。 ・網入り板ガラス及び線入板ガラス 網又は線の形状 (・角網 ・菱網) 板の表面の状態 (・磨き ・型板) ・合わせガラス 特性による種類 (・I類 ・II-1類 ・II-2類 ・III類) ・強化ガラス 形状による種類 (・平面 ・曲面) 特性による種類 (・I類 ・III類) ・熱線吸収板ガラス 性能による種類 (・1種 ・2種) ・複層ガラス 断熱性による区分 (・T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6) 日射取得性及び日射遮蔽性による区分 (・G ・S) 乾燥気体の種類 (・空気 ・アルゴン ・クリプトン ・ネオン) ・熱線反射ガラス 日射熱遮蔽性及び耐久性による区分 (・1種 ・2種 ・3種) 耐久性による区分 (・A類 ・B類)										
18 ガラス	種別 (5.14.2) <table border="1"> <tr> <th>建具の種類</th> <th>材種</th> </tr> <tr> <td>アルミニウム製</td> <td>※シーリング材 ・ガラスネット(・グレイジングチャンネル ・グレイジングビート)</td> </tr> <tr> <td>鋼製及びステンレス製</td> <td>※シーリング材</td> </tr> <tr> <td>木製</td> <td>・木製建具用パテ ※押縁</td> </tr> <tr> <td>樹脂製</td> <td>押縁及びグレイジングネット</td> </tr> </table>	建具の種類	材種	アルミニウム製	※シーリング材 ・ガラスネット(・グレイジングチャンネル ・グレイジングビート)	鋼製及びステンレス製	※シーリング材	木製	・木製建具用パテ ※押縁	樹脂製	押縁及びグレイジングネット
	建具の種類	材種									
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガラスネット(・グレイジングチャンネル ・グレイジングビート)										
鋼製及びステンレス製	※シーリング材										
木製	・木製建具用パテ ※押縁										
樹脂製	押縁及びグレイジングネット										
19 ガラスの留め材	板ガラスをはめ込む溝の大きさ (面クリアランス、エッジクリアランス、掛り代) (※建具の製造所の仕様による) (5.14.2) 防火設備に使用するガラスの留め材は、建築基準法に基づき定められ、又は認定を受けた条件による。 また、外部に面する複層、合わせ、網入り及び線入りガラスには、グレイジングチャンネルを用いない。 (5.14.2)										
	表面形状、呼び寸法並びに厚さ (5.14.5) <table border="1"> <tr> <th>形状</th> <th>寸法</th> <th>呼び寸法</th> <th>厚さ</th> </tr> <tr> <td>・正方形</td> <td>・125×125 ・160×160 ・200×200 ・320×320</td> <td>・クリア</td> <td rowspan="2">・乳白</td> </tr> <tr> <td>・長方形</td> <td>・250×125 ・320×160</td> <td></td> </tr> </table>	形状	寸法	呼び寸法	厚さ	・正方形	・125×125 ・160×160 ・200×200 ・320×320	・クリア	・乳白	・長方形	・250×125 ・320×160
形状	寸法	呼び寸法	厚さ								
・正方形	・125×125 ・160×160 ・200×200 ・320×320	・クリア	・乳白								
・長方形	・250×125 ・320×160										
20 ガラスブロック積み	力骨(※SUS304 径5.5mmはしご形状複筋及び単筋 ・図示による) (5.14.5) 化粧目地モルタルの色 (・) (5.14.5) シーリング材の種類(※8章 シーリングによる) (5.14.5) ・壁用金属枠及び補強材 形状等は図示による ・金属製化粧カバー 材質、寸法、形状等は図示による ・建築基準法に基づき定まる風圧力に応じた工法とする (5.14.5) 目地幅の寸法、伸縮調整目地の位置(・図示による) (5.14.5) 目地部の力骨の補強方法(・図示による) (5.14.5) ※ガラスブロック製造所仕様による										

13章 内装改修工事	
01 他の部位との取り合い等	(a)既存間仕切り壁の撤去に伴う当該壁に取り合う天井、壁及び床の改修範囲 ※壁厚程度とし既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示による (6.1.3) (b)天井内既存壁の撤去に伴う当該壁に取り合う天井の改修範囲 ※壁面より両側 600mm程度とし既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示による (c)天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修 (※既存のまま ・図示による)
	02 既存床の撤去並びに下地補修 既存仕上げ材の除去等 (6.2.2) (1)ビニル床シート等の除去 浮き部、欠損部の下地モルタルの撤去 (・行う(範囲は図示による) ・行わない) (2)合成樹脂塗床材の除去等 (・機械的除去工法 ・目荒らし工法)
03 既存壁の撤去並びに下地補修	間仕切り壁の撤去に伴う他の構造体の補修 (※モルタル塗り ・図示による) (6.3.2) 新設壁下地(・軽量鉄骨壁下地 ・木製壁下地) (6.1.4)
	04 既存天井の撤去並びに下地補修 天井の撤去 (・既存下地材利用 ・下地材を含めて撤去) (6.4.2) 新設天井下地 (・軽量鉄骨天井下地 ・木製天井下地) (6.1.4)
05 木材	木材の含水率 (・A種 ・B種) (6.5.2)(表6.5.1) 間仕切り軸組に用いる木材の種類 () (6.5.6) 床組に用いる木材の種類 ()
	06 製材
JAS 1083以外の製材を用いる場合の適用は図示による。	
07 造作用集成材	ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による。 (6.5.2) ・造作用集成材 規格 (※日本農林規格による) () 樹種名 () () 見付け材面 () () 見付け材面の品質 (・特等 ※1等 ・2等) () 施工箇所、寸法は図示による。 ・化粧ばり造作用集成材 規格 (※日本農林規格による) () 樹種 化粧薄板 () () 芯材 () () 化粧薄板の厚さ () () 見付け材面 () () 見付け材面の品質 (・特等 ※1等 ・2等) () 施工箇所、寸法は図示による。 日本農林規格以外の製材を用いる場合の適用は図示による。

08 造作用単板積層材	ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による。 (6.5.2) ・造作用単板積層材 規格 (※JAS 0701による) () 表面の品質 (・化粧加工有 (・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・化粧加工無 (・1等 ・2等 ・3等) 防虫処理() () 施工箇所、寸法は図示による。 JAS 0701以外の製材を用いる場合の適用は図示による。				
	09 床張り用合板等 ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による。 (6.5.2) ・普通合板 (日本農林規格による) 厚さ (※5.5mm) () 接着の程度 (※1類) () 板面の品質 ・広葉樹 (※2等) () ・針葉樹 (※C-D) () 単板の樹種名 () () ・防虫処理 施工箇所、寸法は図示による。 ・構造用合板 (日本農林規格による) 厚さ (※12mm) () 接着の程度 (・常時湿潤状態の場合 (※特類) その他の場合 (※1類) () 等級 (※2級) () 板面の品質 (※C-D) () 単板の樹種名 () () 保存処理 () () ・防虫処理 ・強度等級の指定 () () 施工箇所は図示による。 ・パーティクルボード (JIS A5908による) 厚さ (※15mm) () 表裏面の状態による区分 (・) () 曲げ強さによる区分 (・13) () 耐水性による区分 (・MR1(M) ・MR2(P)) () 難燃性による区分 (・難燃2級 ・難燃3級 ・普通) () 施工箇所、寸法は図示による。 ・構造用バネ (JAS 0360による) 施工箇所、寸法は図示による。				
10 接合具等	・造作材の化粧面の釘打ち (※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し) (6.5.3) ・諸金物の形状・寸法・材質 (※6.5.3(2)(7)による ・図示による) (6.5.3)				
	11 接着剤 ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による。 (6.5.3)				
12 防腐・防蟻処理	・薬剤の加圧注入処理 (6.5.5) <table border="1"> <tr> <th>適用部材</th> <th>性能区分</th> </tr> <tr> <td></td> <td>・K2 ・K3 ・K4</td> </tr> </table>	適用部材	性能区分		・K2 ・K3 ・K4
	適用部材	性能区分			
	・K2 ・K3 ・K4				
・薬剤塗布 <table border="1"> <tr> <th>適用部材</th> <th>処理の方法</th> </tr> <tr> <td></td> <td>※薬剤の製造所の仕様による</td> </tr> </table>	適用部材	処理の方法		※薬剤の製造所の仕様による	
適用部材	処理の方法				
	※薬剤の製造所の仕様による				
13 防虫処理	適用箇所 (※ラワン) (6.5.5) ラワン材を使用する場合はJAS 1083-6の保存処理K1とする。				

14 ビニル床シート張り等 (6.8節)

品名	種類等	厚さ(mm)	特殊機能
・ビニル床シート	種類(※F S ・) 色柄(※無地 ・)	※2.0mm	・帯電防止 ・耐動荷重性 ・防滑性
・ビニル床タイル	種類(※K T ・) 色柄(※無地 ・)	※2.0mm ・3.0mm	・帯電防止 ・防滑性
・ゴム床タイル	種類(・) 色柄(・)	厚さ(・3mm ・4.5mm ・) 寸法(・)	
・ビニル幅木	※軟質 ・硬質	厚さ(※1.5mm ・) 高さ(※60mm ・75mm ・100mm)	
・視覚障害者用床タイル	・	寸法() 厚さ()	

・接合部の処理 (ビニル床シート張り) (※熱溶接工法 ・)
施工箇所(・便所 ・)
接着剤のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による (6.8.2)
下地の種類は図示による

15 カーペット敷き (6.9節)

種類	種別、寸法(mm)等
・織じゅうたん	・A種 ・B種 ・C種 ・ループタイプ ・カットタイプ 色柄(※模様のない無地 ・)
・タフテッドカーペット	※全面接着 ・ループタイプ パイル長さ ・グリップパー ・カットタイプ (・)
・ロードパッドカーペット	・ラバー付 ・ラバー無 厚さ(・)
・タイルカーペット	※1種 ・2種 ※ループタイプ 寸法(※500角 ・) ※カットタイプ 厚さ(※6.5 ・)

・帯電防止(3kV以下)
タイルカーペットの敷き方 (※6.9.3による ・図示による)
見切り、押え金物の材質、種類及び形状は図示による
グリップ工法の下敷き材(※反毛フェルト第2種第2号、呼び厚さ8mm)
下地の種類は図示による

接着材のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による (6.9.3)

16 合成樹脂塗床 (6.10節)

床仕上げ	床材	表面仕上げ
・厚膜型塗床材	・弾性ウレタン樹脂系	※平滑 ・防滑 ・つや消し
	・エポキシ樹脂系	・薄膜流しのべ(・平滑 ・防滑) ・厚膜流しのべ(・平滑 ・防滑) ・樹脂モルタル(・平滑 ・防滑)
・薄膜型塗床材	エポキシ樹脂系	平滑

ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による (6.10.2)

17 フローリング張り (6.11節)

品名	工法	厚さ×幅×長さ(mm)
・フローリングフロー1等	・接着	・
・フローリングボード1等	・釘留め(根太張り) ・釘留め(直張り) ・接着(直張り)	・
・複合フローリング	・釘留め(根太張り) ・釘留め(直張り) ・接着(直張り)	・A種 ・B種 ・C種 ・
・単層フローリング	・特殊張り	・t18

樹種(・ ・) (※地域材 ・)
・複合フローリングの防湿処理
・下張り材料:
(・合板(712mm) ・パーティクルボード(715mm) ・図示による)
・不陸緩衝材(接着工法) 材料(※合成樹脂発泡シート)
・塗装の塗り替え 下地調整 (※図示による ・)
塗装 (※図示による ・)

フローリング、接着剤のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による (6.11.2) (6.11.5)

18 畳敷き (6.12節)

種別: ・A種 ・B種 ・C種 (6.12節)
・D種(・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N)

19 せっこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13節)

せっこうボードその他のボード類 (6.13節)

種類(記号)	種別	厚さ(mm)	備考
せっこうボード (GB-R)		壁	・9.5 (準不燃) ・12.5 ・15 (不燃)
		天井	・9.5 (準不燃) ・12.5 ・15 (不燃)
			・9.5 (準不燃) ・12.5 (不燃)
化粧せっこうボード (GB-D)	・トラフナシ模様	・9.5 (準不燃)	
	・455×910 ・910×910	・12.5 (不燃)	
強化せっこうボード (GB-F)		・木目模様	・9.5 (準不燃) ・12.5 (不燃)
		(システム下地)	
シーリングせっこうボード(GB-S)			・9.5 ・12.5 (準不燃) ・12.5 ・15 (不燃)
		ロックウール化粧	・普通
吸音板(DR)	・立体模様	・9.0 ・12.0 (不燃) ・12.0 ・15 (不燃)	
フレキシブル板(F)		・6 ・	
けい酸カルシウム板	・普通(※0.8FK) ・化粧(着色) ・穴あけ	・6 ・	
木毛セメント板	※難燃 ・断熱	・20 ・25	

合板

種類	樹種(加工方法)	厚さ(mm)	処理
・普通合板	・	・	・防虫
・天然木化粧合板	・	・	・防虫
・特殊加工化粧合板	・	・	・防虫

MDF、パーティクルボード、合板、接着剤のホルムアルデヒド放散量等は「1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による (6.13.2)

合板の張付け(・A種 ※B種)
合板の表面性能() 接着の程度()
せっこうボードの目地処理(・継目処理・突付け・目透かし)
継目処理のエッジの種類(・テーパエッジ ・ベベルエッジ)
突付け、目透かしのエッジの種類(・ベベルエッジ ・スチアエッジ)

20 吸音材 (6.14節)

吸音材の材質、工法(JIS A6301)

材種	品質・規格	厚さ(mm)
・ロックウール吸音材	※ロックウール吸音ボード1号	・25 ・50 ・40
・グラスウール吸音材	※グラスウール吸音ボード2号	・25 ・50 ・32K ・48K ・60K

工法
・ガラスクロス(JIS R3414EP)にて額縁張りしたもの、インサルピン留め化粧ワッシャー押え、又は断熱ファスナー留め
・ガラスクロス(JIS R3414EP)にて片面張りしたもの、インサルピン留め化粧ワッシャー押え、又は断熱ファスナー留め

21 壁紙張り (6.14節)

壁紙の品質はJIS A6921による (6.14節)

種類	程度	施工箇所	防火性能
※塩化ビニル樹脂系	※普及品	・壁 ・天井	・不燃 ・準不燃 ※難燃

モルタル、プaster面下地調整 (・RA種 ※RB種 ・RC種)(表7.2.4)
コンクリート面下地調整 (・RA種 ※RB種 ・RC種)(表7.2.5)
せっこうボード面下地調整 (・RA種 ※RB種 ・RC種)(表7.2.7)

壁紙、接着剤のホルムアルデヒド放散量等は「1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による。また、壁紙はTVOCが、ISM、SV規格又は同等の基準のものとする。 (6.14.2)

22 モルタル塗り (6.15.3)

材料(・現場調査材料 ・既調査材料())
コンクリート素地の処理(・目荒し工法 ・)
既製目地材の適用(・)
既製目地材の形状(・) (6.15.3)
床の目地の目地割り(※目地割2㎡程度、
最大目地間隔3m程度 ・)
床の目地の種類(※押し目地 ・) (6.15.6)

23 セラミックタイル張り (6.15.6)

11章 外壁改修工事 03 タイル改修を参照すること。

24 断熱・防露改修工事 (9.3.2) (9.3.4)

打込工法及び後張り工法の断熱材 JIS A9521による。 (9.3.2) (9.3.4)

材質	種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム 断熱材	・特号 ・1号		
・押出法ポリスチレンフォーム 断熱材	・3種a ・3種b		
・硬質ウレタンフォーム断熱材 A種	・1種 ・2種1号	20	外壁:既設ウレタンボード劣化部取替え
・フェノールフォーム断熱材	・1種1号 ・2種1号		

フェノールフォーム断熱材又は保温材並びに接着剤のホルムアルデヒド放散量等は「1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による (9.3.2) (9.3.4)

現場発泡工法の断熱材は JIS A9526による (9.3.3)
吹付け硬質ウレタンフォーム 種類 (※A種1 ・) 難燃性を有するものとする
吹付け厚さ(mm)
火気及び有害ガス等に対する安全衛生対策は、関係法令等に
従い十分に行う。

その他の断熱材

材質	厚さ(mm)	施工箇所	規格
・グラスウール	・16K品(・高性能) ・24K品(・高性能)		JIS A9504 JIS A9521
・			

ホルムアルデヒド放散量等は「1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による

14章 塗装改修工事 (7.2節)

01 材料 (7.1.3)

ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による (7.1.3)
防火材料の指定 (・あり ○なし ・図示による)
工程、使用量については、各メーカー仕様による。

02 下地調整 (7.2節)

下地面等	種別	
木部	不透明塗料塗り	※RB種 ・RA種 ・RC種
	上記以外	・RA種 ・RB種 ・RC種
鉄鋼面	※RB種 ・RA種 ・RC種	
亜鉛めっき鋼面	※RB種 ・RA種 ・RC種	
モルタル面、せっこうプaster面	※RB種 ・RA種 ・RC種	
コンクリート面(DP以外)、ALC [®] 砂面	※RB種 ・RA種 ・RC種	
コンクリート面(DP)、押出成形セメント板面	・RA種 ・RB種 ・RC種	
せっこうボード面、その他ボード面	※RB種 ・RA種 ・RC種	

RB種の場合の既存塗膜の除去範囲 (・図示による ・)

03 素地ごしらえ (7.3節)

新規に塗装を行う場合に適用 (7.3節)

下地面等	種別	
木部	不透明塗料塗り	※A種 ・B種
	上記以外	※B種 ・A種
鉄鋼面	D P	※B種 ・A種 ・C種
	上記以外	※C種 ・A種 ・B種
亜鉛めっき鋼面	※A種 ・B種	
モルタル面、せっこうプaster面	※B種 ・A種	
コンクリート面(DP以外)、ALC [®] 砂面	※B種 ・A種	
コンクリート面(DP)	※A種 ・B種	
押出成形セメント板面	※B種 ・A種	
せっこうボード面、	目地:継目処理工法	※A種 ・B種
その他ボード面	目地:上記以外	※B種 ・A種

04 錆止め塗料塗り (7.4節)

鉄鋼面 (7.4節)

下地面等	錆止め塗料の種類	工程の種類	
見掛り部分 (新規塗装)	S O P	A種	※A種 ・B種 ・C種
	D P	1回目 C種	※A種 ・B種 ・C種
		2, 3回目 D種	※A種 ・B種 ・C種
E P-G	※B種(水系)・A種	※A種 ・B種 ・C種	
見隠れ部分 (新規塗装)	S O P	A種	※B種 ・A種 ・C種
	D P	1回目 C種	※A種 ・B種 ・C種
		2, 3回目 D種	※A種 ・B種 ・C種
E P-G	※B種(水系)・A種	※B種 ・A種 ・C種	
塗替え	S O P	A種	※C種 ・A種 ・B種
	D P	1回目 C種	※A種 (RA)
		2, 3回目 D種	※B種 (RB) ・C種 (RC)
		E種	※B種 (RB) ・C種 (RC)
E P-G	※B種(水系)・A種	※C種 ・A種 ・B種	

亜鉛めっき鋼面 (7.4節)

下地面等	錆止め塗料の種類	工程の種類	
鋼製建具等 (新規塗装)	S O P	※A種 ・B種	※A種 ・B種 ・C種
	D P	B種	
	E P-G	C種	※A種 ・B種 ・C種
上記以外 (新規塗装)	S O P	※A種 ・B種	※B種 ・A種 ・C種
D P	B種	(表7.4.6)	
E P-G	C種	※B種 ・A種 ・C種	
塗替え	S O P	※A種 ・B種	※C種 (RB) ・A種 (RA) ・B種 (RA)
	D P	B種	(表7.4.6)
	E P-G	C種	・C種 (RB) ・A種 (RA) ・B種 (RA)

05 塗装 (7.4節)

塗装 (7.4節)

塗 装		塗 り 種 別	
S O P	木部 (新規塗装)	屋外	※A種 ・B種 ・C種
		屋内	※B種 ・A種 ・C種
	木部 (塗替え)		※B種 ・A種 ・C種
	鉄鋼面		※B種 ・A種 ・C種
	亜鉛めっき鋼面 (新規塗装)		※B種 ・A種 ・C種
	亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種 ・B種 ・C種
D P	上記以外		※B種 ・A種 ・C種
	鉄鋼面		(表7.8.1)
	亜鉛めっき鋼面		(表7.8.2)
E P-G	コンクリート面、押出成形セメント板面		・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種
	コンクリート面、モルタル面等		※B種 ・A種 ・C種
	木部 (新規塗装)		※A種 ・B種 ・C種
	木部 (塗替え)		※B種 ・A種 ・C種
E P	鉄鋼面 (屋内)		※B種 ・A種 ・C種
	亜鉛めっき鋼面		※A種 ・B種
D P		上塗り塗料の等級 鉄鋼面(○1級・2級・3級) 亜鉛めっき鋼面(○1級・2級・3級) EP-G, EP 塗替えの場合のしみ止め(・)	
E P-G, EP		塗替えの場合のしみ止め(・)	
・水性のタタキ塗り (標18.11節準用)			
使用部位	塗り種別	素地ごしらえ	
・床	※4回塗り タタキ掛け5回	※B種 ・A種	
・一般木部	※A種 ・B種	※B種 ・A種	
塗料等のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による。			
○その他塗装			
○図示による			
素地ごしらえ、下地調整、錆止め塗料塗り等は公共建築工事標準仕様書又は公共建築改修工事標準仕様書を参照すること。塗料は施工前に施工計画書により監督員の承諾を得ること。工程、塗布量については各メーカー仕様による。			
○強溶剤ウレタン樹脂塗装			
下地調整:2液強溶剤エポキシ樹脂シーラー 1回			
上塗り:2液強溶剤ウレタン樹脂塗装 2回			

15章 ユニット及びその他工事

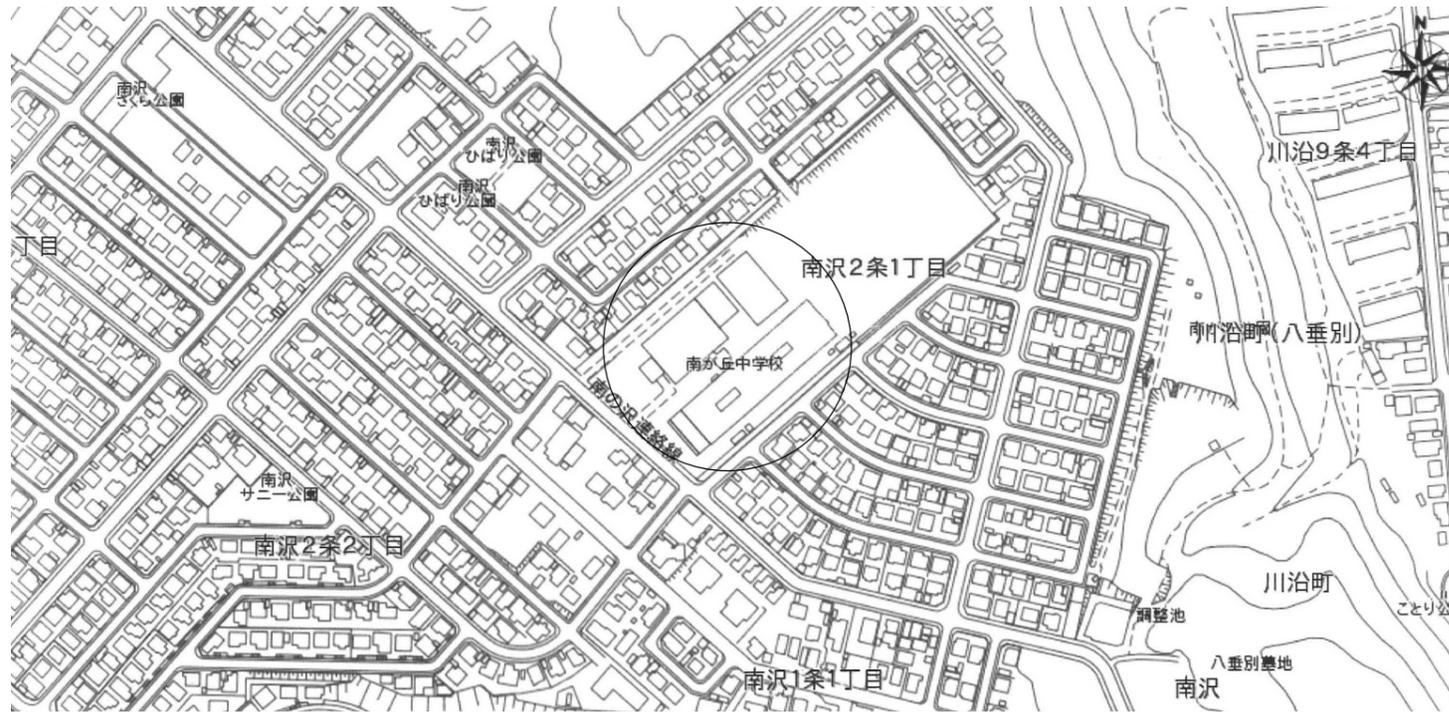
01 フリーアクセスフロア	分類 (標20.2.2)																														
	<table border="1"> <tr> <td>・置敷き式</td> <td>・支柱非固定タイプ</td> <td>・支柱分離型</td> </tr> <tr> <td>・支柱調整式</td> <td>・支柱固定タイプ</td> <td>・支柱一体型</td> </tr> </table> <p>構成材の材質(・アルミ系 ・スチール系 ・有機質 ・無機質系) 表面仕上材の材質(・ビニル床タイル ・カーペット ・タイルカーペット ・ホモジニアスビニル床タイル) パネル寸法 () 高さ(床仕上げ材含まない) (mm) 耐震性能 設計用標準水平震度Ks (・1.0 ・0.6) (部位については図示による) 所定荷重 (・3000N ・5000N ・) 帯電防止性能(U値)(・グレードⅠ ・グレードⅡ ・グレードⅢ) 漏えい抵抗 (※1.0×10Ω 以上 ・) 寸法精度 (※20.2.2による ・) JIS A1450による試験結果が、以下の性能を満たすこと 耐荷重性能 (※変形 5.0mm以下 ・残留変形 3.0mm以下) 耐衝撃性能 ※残留変形 3.0mm以下及び損傷がないこと ロッキングロード性能 (※残留変形 3.0mm以下 ・) 耐燃焼性能 (※不燃材料又は残炎時間 0秒 ・)</p>	・置敷き式	・支柱非固定タイプ	・支柱分離型	・支柱調整式	・支柱固定タイプ	・支柱一体型																								
・置敷き式	・支柱非固定タイプ	・支柱分離型																													
・支柱調整式	・支柱固定タイプ	・支柱一体型																													
02 可動間仕切	JIS A6512による (標20.2.3)																														
	構造形式による種類 構造 (・パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式) 空間の仕切り方 (・密閉形 ・開放形 ・自立形) 構成材の種類 構成部品 (・一般パネル ・出入口パネル ・出入口以外の開口部付パネル) パネルの材料のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による 主たる構成基材 スタッド (・アルミニウム合金 ・スチール) パネル (・アルミニウム合金 ・スチール ・木質 ・ガラス ・樹脂 ・石膏) 遮音性 (・0 ・12 ・20 ・28 ・36) パネル表面仕上げ、寸法、形状は図示による。																														
03 移動間仕切	パネルの操作方法の種類() (標20.2.4) パネルの表面材 材質() 仕上げ() パネルの圧接装置の操作方法 () 遮音性能 () ハンガーレール取付け下地の補強 () あと施工アンカー 材質() 寸法()																														
	パネル表面材 (・メラミン樹脂系 ※ポリエステル樹脂系) (標20.2.5) パネルの材料のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による																														
05 階段滑止め	材種 (・ステンレス鋼(SUS304) ・アルミニウム合金) (標20.2.7) 形状 (・ビニルタイル又は合成ゴムタイル入り) (・内部 ・外部) 幅 (・40mm ・30mm ・35mm) 取付工法(・接着材併用カラムラック止め ※埋め込み ・)																														
	材種 (※ステンレス ・) (標20.2.8) アンカー (※間隔500mm程度 ・)																														
07 黒板及びホワイトボード	黒板(JIS S6007)種類(※焼付け ・) (標20.2.9) 色 (※緑 ・) ホワイトボード(JIS S6052)種類 (※ほうろう白板 ・)																														
	厚さ (※5mm ・ mm) (標20.2.10)																														
09 表示	表示板の種類 (標20.2.11) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材質・寸法 厚さ(mm)</th> <th>印刷等の種類</th> <th>色彩</th> <th>書体</th> <th>取付形式</th> </tr> <tr> <td>・室名札</td> <td>・アクリル板(4.0)</td> <td>※シルクスクリーン印刷</td> <td>・透明</td> <td>・太ゴシック</td> <td>・正面型 ・側面型</td> </tr> <tr> <td>・ピクト グラフ</td> <td>・アクリル板()</td> <td>※シルクスクリーン印刷</td> <td>・透明</td> <td>・太ゴシック</td> <td>・正面型 ・側面型</td> </tr> <tr> <td>・案内板</td> <td>・アクリル板()</td> <td>※シルクスクリーン印刷</td> <td>・透明</td> <td>・太ゴシック</td> <td>・正面型 ・側面型</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・ガラススクリーン対人衝突防止表示の材質、形状、寸法 (※図示による ・) ・非常用進入口等の表示(※消防法適合市販品 ・)</p>	種類	材質・寸法 厚さ(mm)	印刷等の種類	色彩	書体	取付形式	・室名札	・アクリル板(4.0)	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型	・ピクト グラフ	・アクリル板()	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型	・案内板	・アクリル板()	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型						
	種類	材質・寸法 厚さ(mm)	印刷等の種類	色彩	書体	取付形式																									
・室名札	・アクリル板(4.0)	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型																										
・ピクト グラフ	・アクリル板()	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型																										
・案内板	・アクリル板()	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型																										

10 煙突ライニング	煙突用成形ライニング材 安全使用温度 ℃ (標20.2.13)												
11 ブラインド	ブラインドの形式 (標20.2.14) <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>※横型ブラインド</th> <th>・縦型ブラインド</th> </tr> <tr> <td>材種</td> <td>※アルミニウム合金</td> <td>※アルミニウム合金 ・クロス</td> </tr> <tr> <td>開閉方式</td> <td>※ギア式</td> <td>・コード式</td> </tr> <tr> <td>スラットの形状・幅</td> <td>※ 25型</td> <td>・ 型</td> </tr> </table>	形式	※横型ブラインド	・縦型ブラインド	材種	※アルミニウム合金	※アルミニウム合金 ・クロス	開閉方式	※ギア式	・コード式	スラットの形状・幅	※ 25型	・ 型
	形式	※横型ブラインド	・縦型ブラインド										
材種	※アルミニウム合金	※アルミニウム合金 ・クロス											
開閉方式	※ギア式	・コード式											
スラットの形状・幅	※ 25型	・ 型											
12 ローラスクリーン	操作方式、幅、高さ、材種、品質等 ※図示による (標20.2.15)												
13 カーテンレール	カーテンレール (標20.2.16) レール及びブラケットの強さによる区分 (※10-90 ・ 10-60) 材種 (・ステンレス製 ・アルミニウム製 ・アルミニウム合金の押し成型材) 形状 (・C型 ・D型 ※角形)												
	合板、ランバーコア、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による。												
14 木製家具													

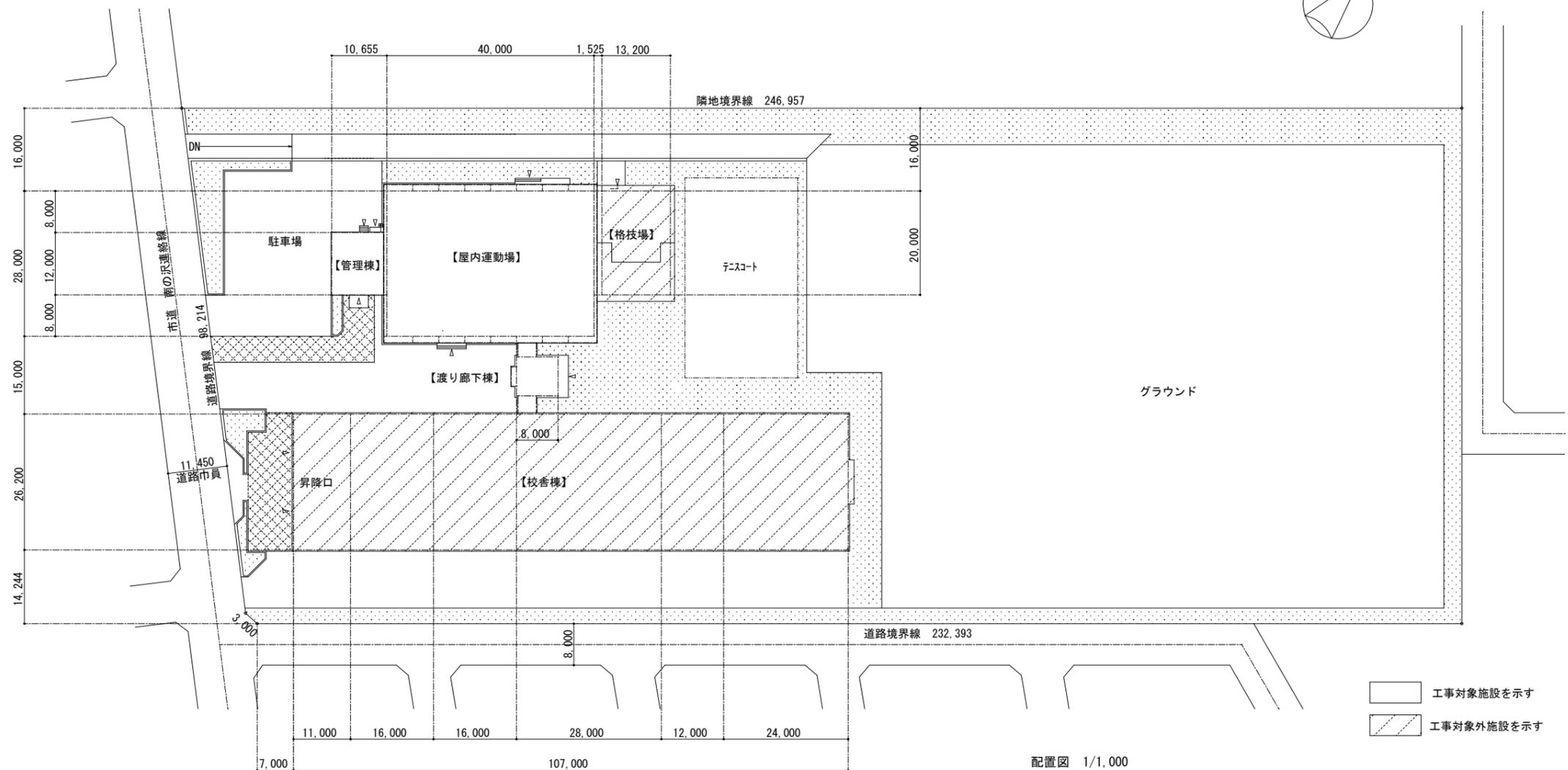
16章 環境配慮改修工事

01 石綿含有建材の除去工事共通事項	石綿含有建材除去後の仕上げ工事については 図示による (9.1.1) ・石綿粉じん濃度測定 (9.1.1) 測定方法、時期(・図示による) 調査部位(※図示による)(ケ所)
	(1) 専門工事業者 石綿含有吹付材の除去を直接行う専門工事業者については、工事に相応した技術を有することを証明する資料を提出する。 (9.1.2) (2) 石綿作業主任者 石綿含有建材の除去にあたっては、石綿障害予防規則(平成17年厚生労働省令第21号)に基づき選任する。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習終了者又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技能講習修了者とする。 (9.1.2) (3) 除去作業者 石綿含有建材の除去に従事する作業者(以下「除去作業者」という)は、石綿障害予防規則に基づく特別教育を受けた者とする。また、除去作業者は、一般健康診断、石綿健康診断、じん肺健康診断を受診した者とし、肺機能に異常がない者とする。 (9.1.2) (4) 特別管理産業廃棄物管理責任者 受注者は石綿含有吹付け材、石綿含有保温材等の除去工事では、廃棄物処理法に基づき、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有する者を配置し、監督員に報告する。なお、選任は元請業者の中で行う(ただし石綿含有成形版の除去工事を除く)。 (9.1.2) (5) 表示及び提示 「建築物の解体等の作業に関するお知らせ」を周辺住民の見やすい場所に提示する。 (9.1.2) (6) 作業結果の報告 特定粉じん排出等作業の完了後、監督員に作業結果を報告する。 ※除去工事においては保護衣を着用し、使用毎に廃棄すること。 (9.1.2)
02 石綿含有吹き付け材の除去	(1) 除去の工法 (9.1.3) (※粉じん飛散抑制剤等で湿潤化後除去[・手ばらし ・切断、破砕等] ・)
	(2) 除去物及び汚染物の処理 処理方法は下記のとおりとする。また、処理施設については、受入条件等を確認の上、事前に監督員と協議すること。 (a) 処理方法(※密封処理[二重袋梱包] ・セメント固化) (b) 飛散防止措置(※湿潤化 ・固化) (c) 処分施設へ搬出(調書を監督員に提出する) 石綿含有吹付け材 搬出先: 山口処理場(手稲区手稲山口364)
03 石綿含有保温材等の除去	(1) 除去の工法 (9.1.4) (※粉じん飛散抑制剤等で湿潤化後除去[手ばらし] ・)
	(2) 除去物及び汚染物の処理 処理方法は下記のとおりとする。また、処理施設については、受入条件等を確認の上、事前に監督員と協議すること。 (a) 処理方法(※密封処理[二重袋梱包] ・セメント固化) (b) 処分施設へ搬出(調書を監督員に提出する) 石綿含有保温材等 搬出先: 山口処理場(手稲区手稲山口364番地)

04 石綿含有成形板等の除去	(1) 石綿含有成形板等の仕様 <table border="1"> <tr> <th>石綿含有成形板等の仕様</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>・石綿セメント板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・化粧石綿セメント板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・吸音穴あき石綿セメント板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・石綿セメント特種レンガ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・石綿セメント珪酸カルシウム板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・化粧石綿セメント珪酸カルシウム板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・セメント中空押出成形板</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>・ビニル床タイル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・油性コネクタ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・石綿含有せっこうボード</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・下地調整材</td> <td></td> </tr> </table> <p>処理は適切に行い、範囲は図示による (2) 除去の工法 (9.1.5) (※湿潤化後除去[原形のまま手ばらし] ・切断、破砕等) (3) 除去物及び汚染物の処理 処理施設については、受入条件等を確認のうえ、事前に監督員と協議すること。 (4) 石綿含有成形板等の集積、運搬等 (9.1.5) (a) 除去した石綿含有成形板等の集積及び積み込みに当たっては、高所より投下しないことその他、粉じんの飛散防止に努める。 (b) 万一破砕された石綿含有成形板等は、湿潤化の上、丈夫なビニル袋に入れる等、飛散防止の措置を講ずる。 (c) 除去した石綿含有成形板等を搬出するまでの間、現場内に保管する場合は、一定の保管場所を定め、他の内装材等と分別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止措置を講ずる。また、保管場所には、石綿等の保管場所であることの表示を行う。 (d) 石綿含有成形板等の運搬に当たっては、運搬車両の荷台全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。</p>	石綿含有成形板等の仕様	厚さ(mm)	・石綿セメント板		・化粧石綿セメント板		・吸音穴あき石綿セメント板		・石綿セメント特種レンガ		・石綿セメント珪酸カルシウム板		・化粧石綿セメント珪酸カルシウム板		・セメント中空押出成形板	15	・ビニル床タイル		・油性コネクタ		・石綿含有せっこうボード		・下地調整材	
	石綿含有成形板等の仕様	厚さ(mm)																							
・石綿セメント板																									
・化粧石綿セメント板																									
・吸音穴あき石綿セメント板																									
・石綿セメント特種レンガ																									
・石綿セメント珪酸カルシウム板																									
・化粧石綿セメント珪酸カルシウム板																									
・セメント中空押出成形板	15																								
・ビニル床タイル																									
・油性コネクタ																									
・石綿含有せっこうボード																									
・下地調整材																									
05 石綿含有仕上塗材の除去	石綿含有仕上塗材の除去工法 (・図示による ・塗膜剥離工法 ・高圧水洗工法 ・サンダー工法) (9.1.6)																								
06 外断熱改修工事	材料 (9.2.2) <table border="1"> <tr> <th></th> <th>種類</th> </tr> <tr> <td>断熱材</td> <td>種類(・) 厚さ(・)</td> </tr> <tr> <td>外装材</td> <td>種類(・) 防火性能(・)</td> </tr> <tr> <td>鋼材</td> <td>下地金物:</td> </tr> </table> <p>既存外壁の処置 ※「11章外壁改修工事」による (9.2.4) 工法 () 通気層: ・有(厚さ) ・無 外装材の取付方法(※あと施工アンカー等 ・) 外装材の施工 () 断熱材の施工: 不陸等の下地調整 () (※断熱材製造所の仕様による ・) ・建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法とする</p>		種類	断熱材	種類(・) 厚さ(・)	外装材	種類(・) 防火性能(・)	鋼材	下地金物:																
		種類																							
断熱材	種類(・) 厚さ(・)																								
外装材	種類(・) 防火性能(・)																								
鋼材	下地金物:																								

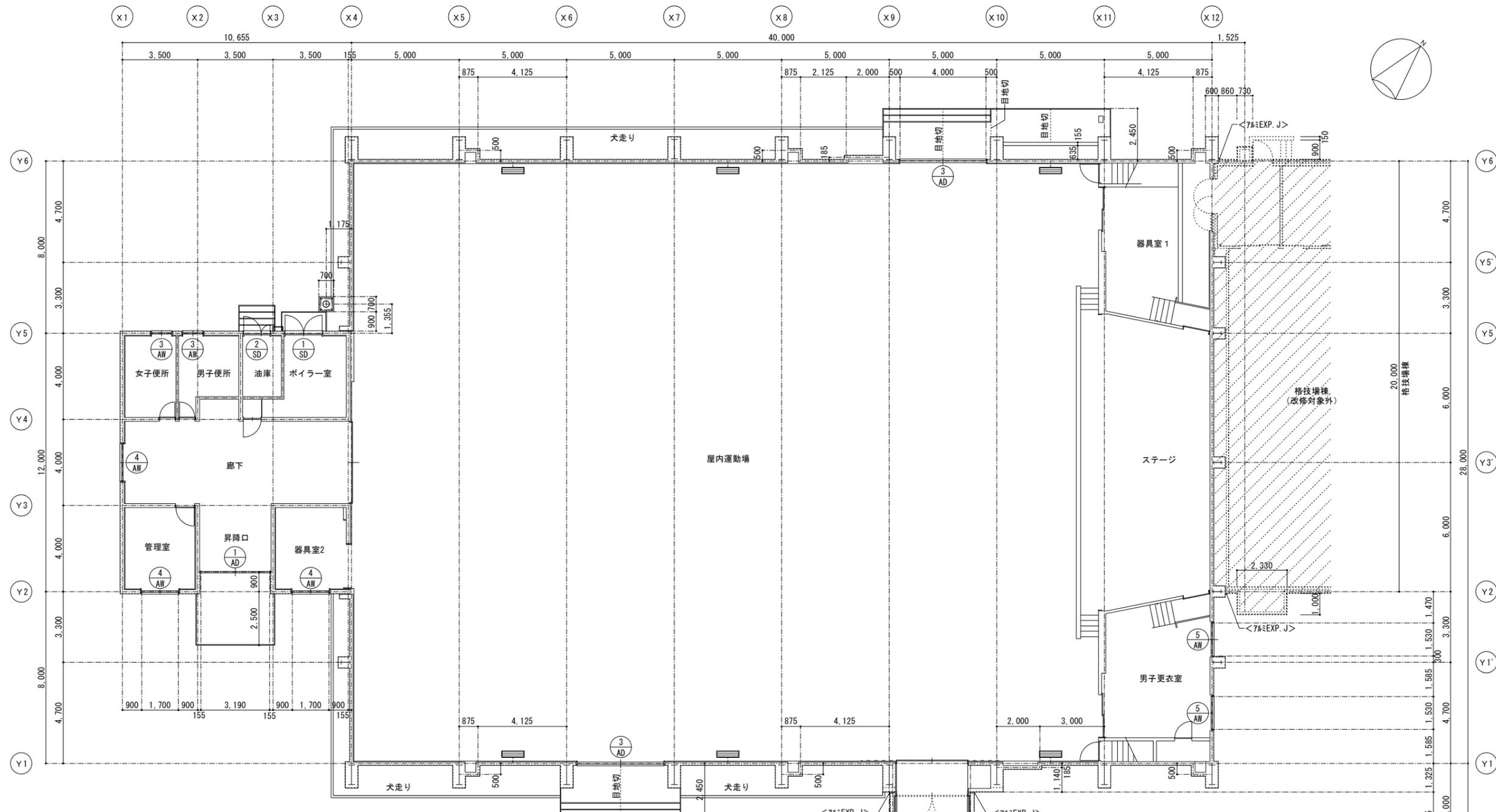


南が丘中学校：札幌市南区南沢2条1丁目
 附近見取図 1/10,000



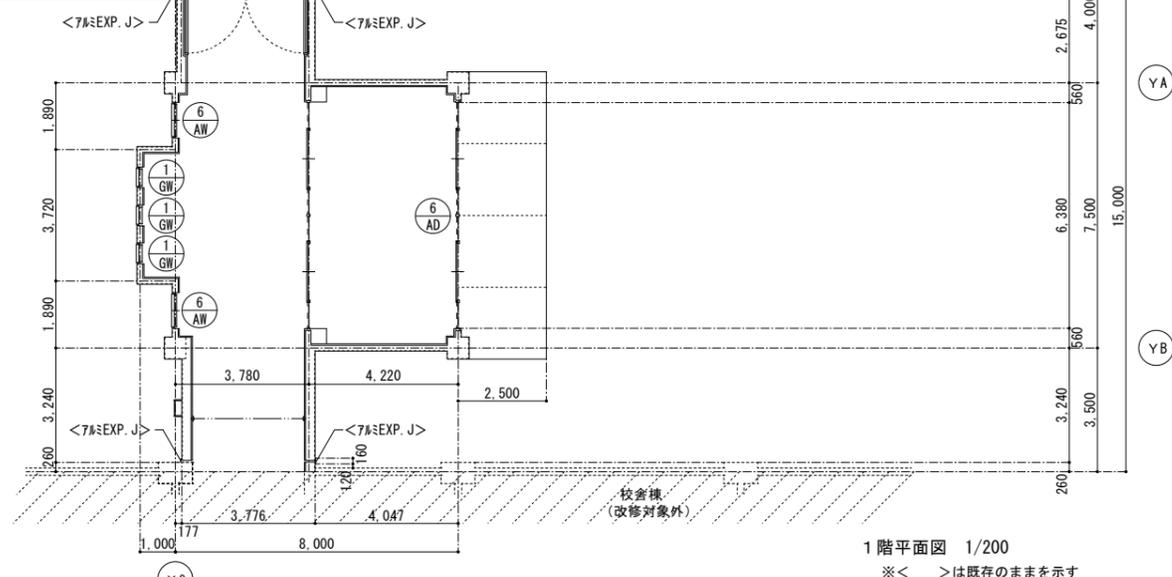
配置図 1/1,000

- 工事対象施設を示す
- 工事対象外施設を示す

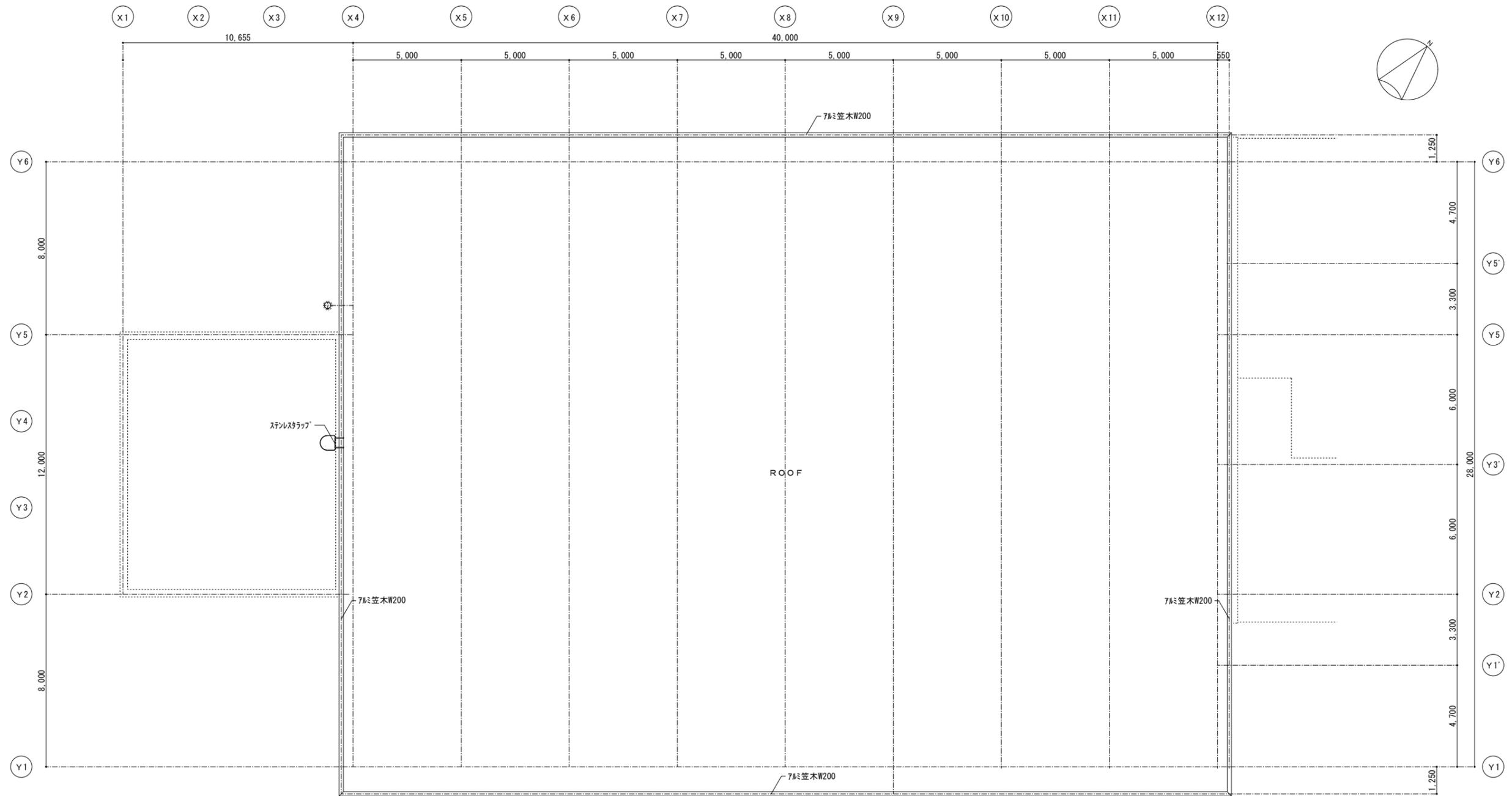


1階外部改修概要：屋内運動場棟、管理棟、渡り廊下棟

外部改修	改修前	処置	改修後
根廻り	3棟共通 R/C面：コンクリート打放し	爆裂補修	劣化補修部以外は既存のまま
外壁：1階各面 (柱型共)	3棟共通 R/C面：コンクリート打放し AEPリシン吹付 (下地調整材はアスベスト含有)	クラック(1mm以上)補修 欠損、爆裂補修	一般部：水洗い、トップコート塗り(水性フッ素樹脂系上塗り) 劣化補修部：水洗い、外装薄塗材S i
足洗い場	運動場棟 コンクリート打放し ウレタン系エナメル塗	既存のまま	水洗い、トップコート塗り(強溶剤ウレタン樹脂塗装)
アルミ幕板 取合い皿板	運動場棟 アルミ t 2.0 (B-1種)	金物は既存のまま シーリング撤去	シーリング新設、皿板部分はオーバーブリッジ工法とする
軒天井	運動場棟 コンクリート型枠兼用内装下地材(複合板) AEPリシン吹付	既存のまま	水洗い、トップコート塗り(水性フッ素樹脂系上塗り)
	渡り廊下 コンクリート打放し AEPリシン吹付	既存のまま	水洗い、トップコート塗り(水性フッ素樹脂系上塗り)
ポーチ・階段	管理棟 フレキシブルボード t 6下地 EP	下地調整(RB種)	EP塗り
	運動場棟 モルタル t 30コテ押え	浮きモルタル撤去	撤去部：防水モルタルコテ t 30新設 欠落ステンレス製コーナーアングル：L 30 x 30 x 3新設
その他改修	シーリング	打継目地、建具・フード・EXP J等金物廻り：撤去・新設。	スチール看板 外壁ビス止め 既設看板は、一時取外し・再取付。
	煙突	ジョイントプレート間隙間をアルゴン溶接新設にて塞ぐ。	一部取替え(撤去・新設)。
	笠木・タラップ等	一部金物 取外し・再取付	設備機器配管等：BOX類・固定品は取り外さない。
	スチール建具	塗装塗り替え	但し、配管等は、壁浮かし程度の取外し、再取付とする。



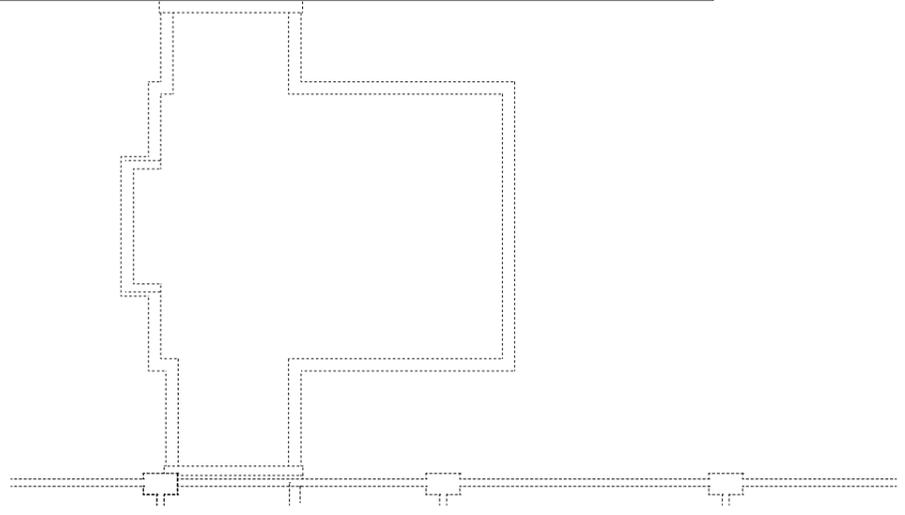
1階平面図 1/200 ※< >は既存のままを示す

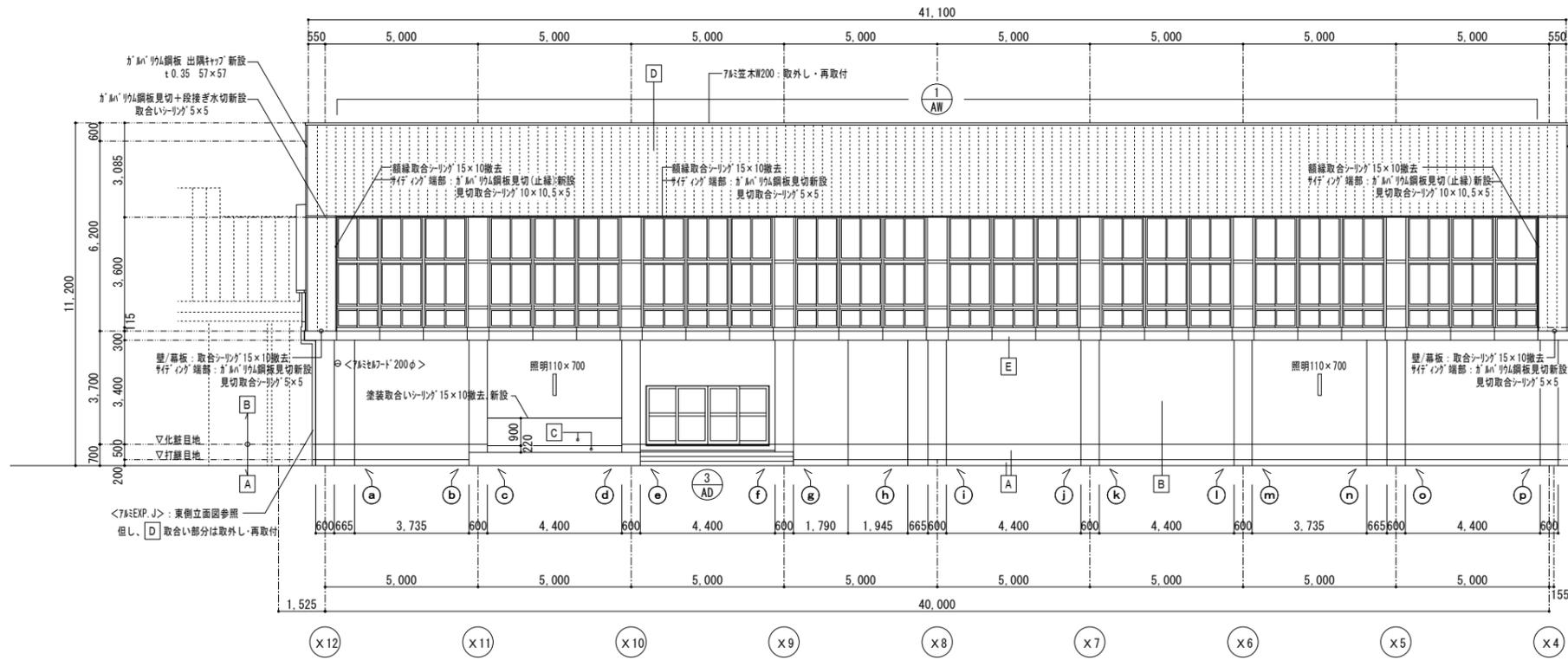


R階平面図 1/200

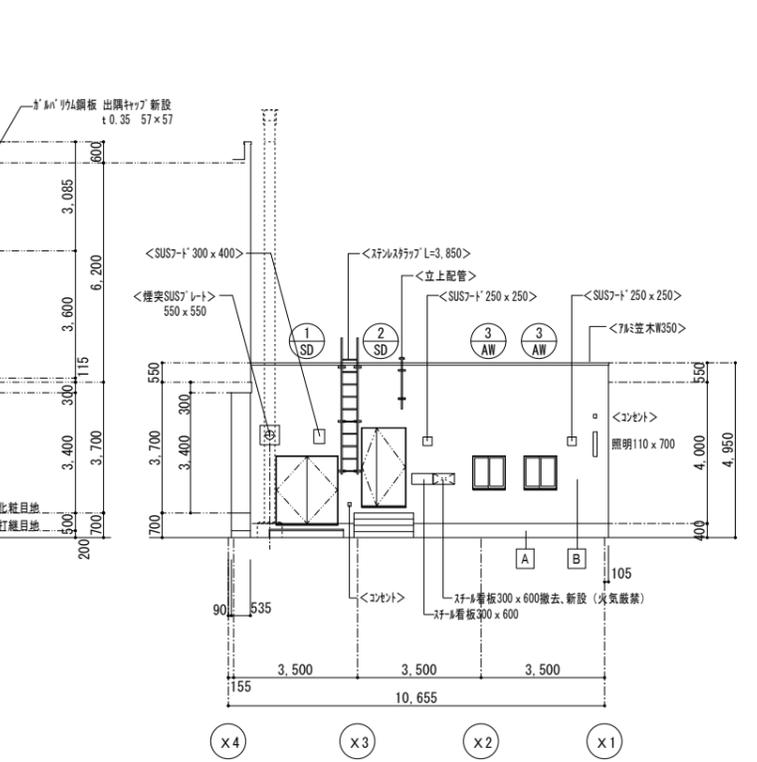
R階外部改修概要：屋内運動場棟

外部改修	改修前	処置	改修後
ROOF 運動場棟	笠木下：防水テープ下張り (セメント中空押出成形板+ガルボード+胴縁+立上防水)	アルミ笠木取外し セメント中空押出成形板 t15 撤去	アルミ笠木再取付 笠木下：捨て笠木 (ガルバリウム鋼板 t0.35) 新設 (金属系パディング+ガルボード+胴縁+立上防水)
			防水立上り部：既設防水/捨て笠木取合い部
			シーリング新設

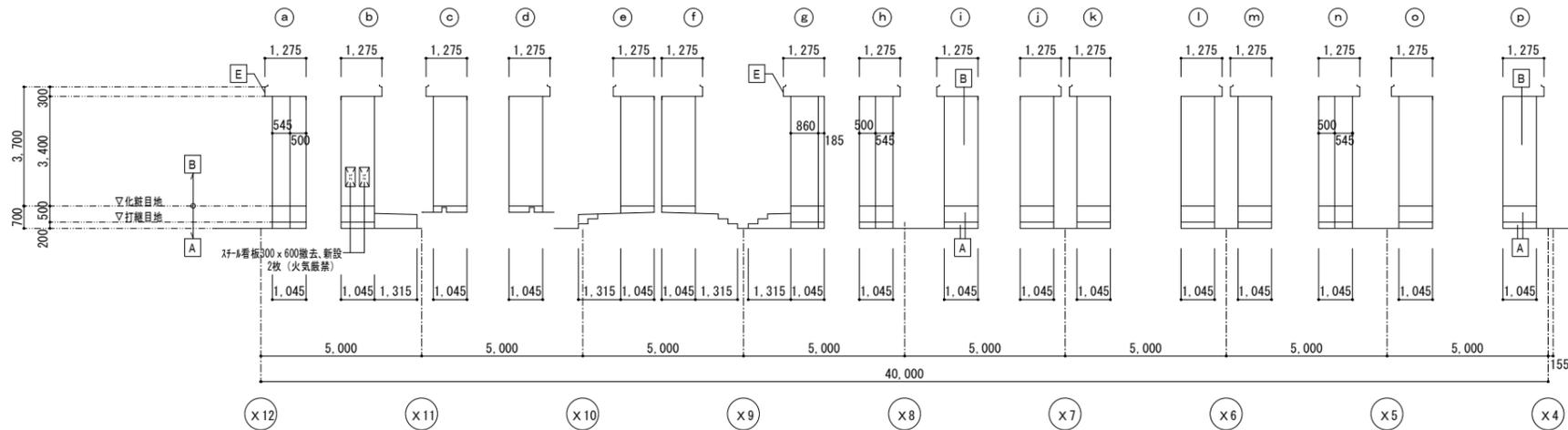




屋内運動場棟：北側立面図
※< >は、既存のままを示す



管理棟：北側立面図
※< >は、既存のままを示す



建具改修図 1/200

1 SD	両開きフラッシュ戸 1階ボイラー室：1ヶ所
2 SD	両開きフラッシュ戸 1階油庫：1ヶ所
共通改修内容	
既設塗装替え ドア見込40	
建具両面改修	
枠共下地調整(RB)の上DP塗装(1級)	

外部仕上表

A	根廻り：既存 コンクリート打放し部 改修 劣化部補修
B	RC面：既存 コンクリート打放し AEPリシン吹付 改修 劣化補修、水洗いの上 トップコート塗(水性フッ素樹脂系上塗り)
C	RC面：既存 コンクリート打放し ウレタン系エナメル塗 改修 水洗いの上 トップコート塗(2液溶剤ウレタン樹脂塗装)
D	鉄骨面：既存 セメント中空押出成形板 t15(クラフト紙共)撤去 改修 金属系サイディング t15(塗装品)縦張り (ウレタンボード t20+透湿防水シート下地)
E	幕板・水切：既存 アルミ t2.0 (B-1種) シーリング改修(撤去・改修) 水切部はオーバーブリッジ工法
F	ポーチ・階段：既存 モルタル t30コテ押え 改修 劣化部撤去、防水モルタル t30コテ押え 欠落ステンレス製コーナーアングル新設

北側：建具廻りシーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (15×10)

建具記号	建具サイズ (W×H)	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
SD-1	1,700×1,900	四方・水切	1	8.90	8.90
SD-2	1,200×2,200	四方・水切	1	8.00	8.00
AD-3	4,000×1,900	四方・水切	1	15.80	15.80
AW-1	39,220×3,600	四方	1	85.64	85.64
AW-3	900×900	四方・水切	2	4.50	9.00
計					127.34

北側：幕板廻りシーリング (撤去のみ) ※撤去 (10×10)

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
7&M幕板L=41.330 取合い：AW-1水切 L=39.220共	縦 H=430	縦・底部	32	0.43	13.76
計					13.76

北側：幕板廻りシーリング (新設のみ) 1 ※新設：オバーブリッジ工法 MS-2 (30×10)

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
7&M幕板L=41.330 取合い：AW-1水切 L=39.220共	縦 H=130	縦 (水切)	32	0.13	4.16
計					4.16

北側：金物廻りシーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (15×10)

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
SUS7-T	300×400	四方	1	1.40	1.40
SUS7-T	250×250	四方	2	1.00	2.00
7&Mスチール	φ200	四方	1	0.63	0.63
煙突SUS7プレート	550×550	四方	1	2.20	2.20
計					6.23

北側：打継目地シーリング ※撤去・新設：MS-2 (15×10)

施工部位	シーリング長 (m)
屋内運動場	43.08
管理棟	6.69
計	49.77

北側：押出成形板取合いシーリング撤去 (15×10)

施工部位	シーリング長 (m)
AW1額縁取合(縦)	7.51
AW1額縁取合(横)	39.30
壁/幕板取合(横)	1.97
計	48.78

北側：その他改修に伴う工事

施工部位	シーリング長 (m)
スチール看板300×600撤去、新設：3枚	撤去・新設
スチール看板300×600：1枚	取外し・再取付
照明110×700：3ヶ所	取外し、外部足場に仮取付
7&Mスチール200 (屋内運動場棟)	足場撤去時、復旧
外壁打継目地新設時、捨て柱木新設後	再取付

北側：建具廻りシーリング (新設のみ) ※新設：MS-2 (5×5)

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
AW-1 縦枠シヨウトカ	縦 H=3.600 縦×2面	縦×2面	30	7.20	216.00
計					216.00

北側：幕板廻りシーリング (新設のみ) 2 ※新設：MS-2 (10×10)

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
7&M幕板L=41.330 取合い：AW-1水切 L=39.220共	縦 H=300	縦・底部	32	0.30	9.60
計					9.60

北側：塗装間取合いシーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (15×10)

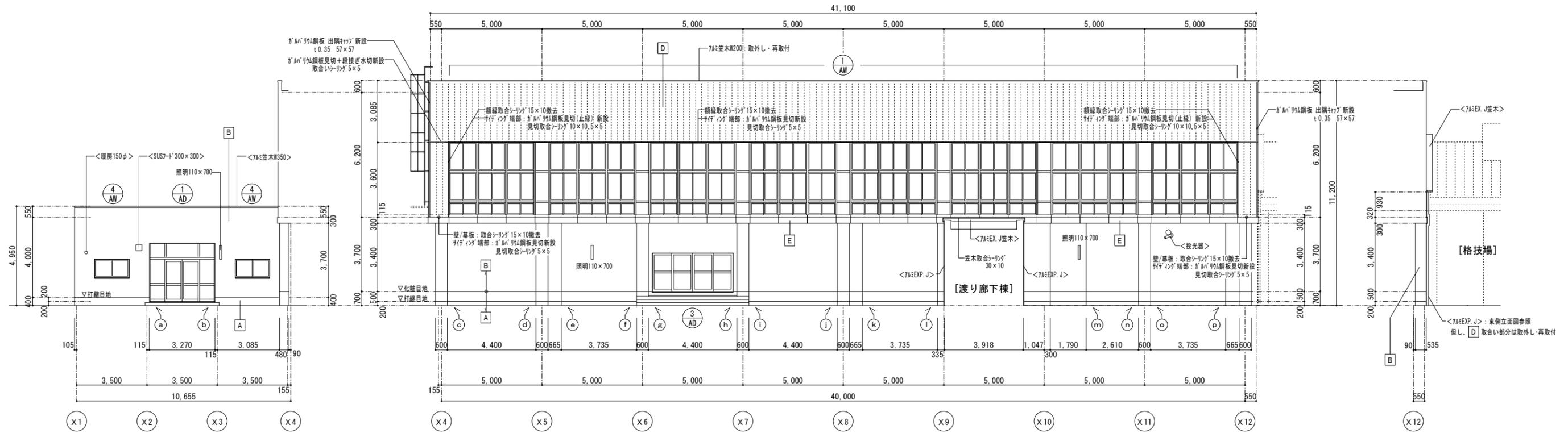
施工部位	シーリング長 (m)
靴洗い場	4.40

北側：金属サイディング部
がんりく鋼板見切取合いシーリング新設
※新設：MS-2 (5×5)

施工部位	シーリング長 (m)
AW1額縁取合(横)	39.30
壁/幕板取合(横)	1.97
計	41.27

北側：金属サイディング部
がんりく鋼板見切
取合いシーリング新設
※新設：MS-2 (10×10) 及び (5×5)

施工部位	シーリング長 (m)
AW1額縁取合(縦)	7.51
見切+段接ぎ水切	1.98

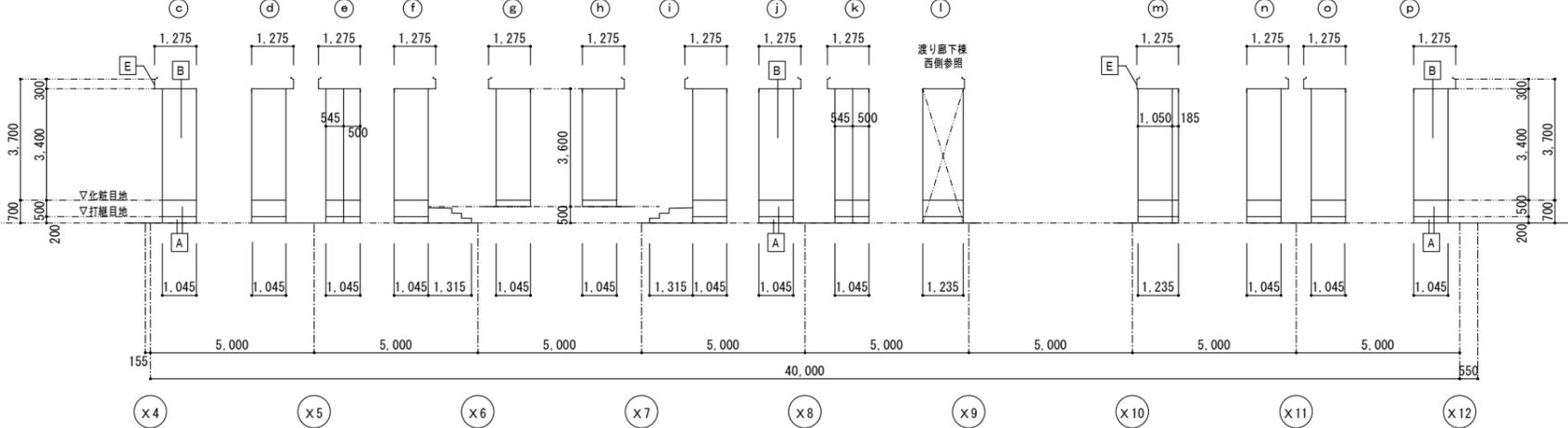
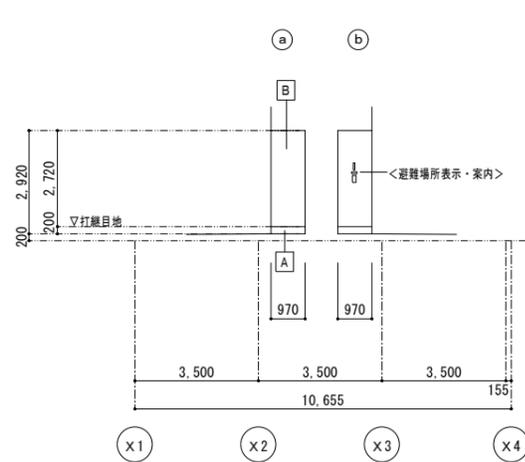


管理棟：南側立面図
※< >は、既存のままを示す

屋内運動場棟：南側立面図
※< >は、既存のままを示す

外部仕上表

A	根廻り：既存 コンクリート打放し部 改修 劣化部補修
B	RC面：既存 コンクリート打放し AEPリシン吹付 改修 劣化補修、水洗いの上 トップコート塗（水性フッ素樹脂系上塗り）
C	RC面：既存 コンクリート打放し ウレタン系エナメル塗 改修 水洗いの上 トップコート塗（2液強溶剤ウレタン樹脂塗膜塗）
D	鉄骨面：既存 セメント中空押出成形板 t15 (クラフト紙共) 撤去 改修 金属系サイディング t15 (塗装品) 縦張り (ウレタンボード t20 + 透湿防水シート下地)
E	扉板・水切：既存 アルミ t2.0 (B-1種) シーリング改修 (撤去・改修) 水切部はオーバーブリッジ工法
F	ポーチー階段：既存 モルタル t30 コテ押え 改修 劣化部撤去、防水モルタル t30 コテ押え 欠落ステンレス製コーナーアングル新設



南側：建具廻りシーリング（撤去・新設） ※新設：MS-2（15×10）

建具記号	建具サイズ (W×H)	施工部位	ヶ所	1ヶ所相当長 (m)	シーリング長 (m)
AD-1	3,150 × 2,885	三方	1	8.92	8.92
AD-3	4,000 × 1,900	四方・水切	1	15.80	15.80
AW-1	39,220 × 3,600	四方	1	85.64	85.64
AW-4	1,700 × 900	四方・水切	2	6.90	13.80
計					124.16

南側：建具廻りシーリング（新設のみ） ※新設：MS-2（5×5）

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所相当長 (m)	シーリング長 (m)
AW-1 縦枠シヨウトカバー	縦 H=3,600 縦×2面		30	7.20	216.00
計					216.00

南側：幕板廻りシーリング（撤去のみ） ※撤去（10×10）

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所相当長 (m)	シーリング長 (m)
7&ミ幕板 L=41,330 取合い：AW-1水切 L=39,220共	縦 H=430 縦・底部		29	0.43	12.47
	縦 H=130 縦		3	0.13	0.39
計					12.86

南側：幕板廻りシーリング（新設のみ） 1 ※新設：オバーブリッジ工法 MS-2（30×10）

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所相当長 (m)	シーリング長 (m)
7&ミ幕板 L=41,330 取合い：AW-1水切 L=39,220共	縦 H=130 縦（水切）		32	0.13	4.16
計					4.16

南側：幕板廻りシーリング（新設のみ） 2 ※新設：MS-2（10×10）

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所相当長 (m)	シーリング長 (m)
7&ミ幕板 L=41,330 取合い：AW-1水切 L=39,220共	縦 H=300 縦・底部		29	0.30	8.70
計					8.70

南側：金物廻りシーリング（撤去・新設） ※新設：MS-2（15×10）

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所相当長 (m)	シーリング長 (m)
SUS7-ト	300×300	四方	1	1.20	1.20
SUS暖房排気口	φ150	四方	1	0.47	0.47
計					1.67

南側：打継目地シーリング（撤去・新設） ※新設：MS-2（15×10）

施工部位	シーリング長 (m)
屋内運動場	43.30
管理棟	8.86
計	52.16

南側：金属サイディング部
がんりく鋼板見切+
段接ぎ水切取合いシーリング 新設
※新設：MS-2（5×5）

施工部位	シーリング長 (m)
見切+段接ぎ水切	1.98

南側：押出成形板取合いシーリング撤去（15×10）

施工部位	シーリング長 (m)
AW1額縁取合（縦）	7.51
AW1額縁取合（横）	39.30
壁/幕板取合（横）	1.97
計	48.78

南側：金属サイディング部
がんりく鋼板見切取合いシーリング 新設
※新設：MS-2（5×5）

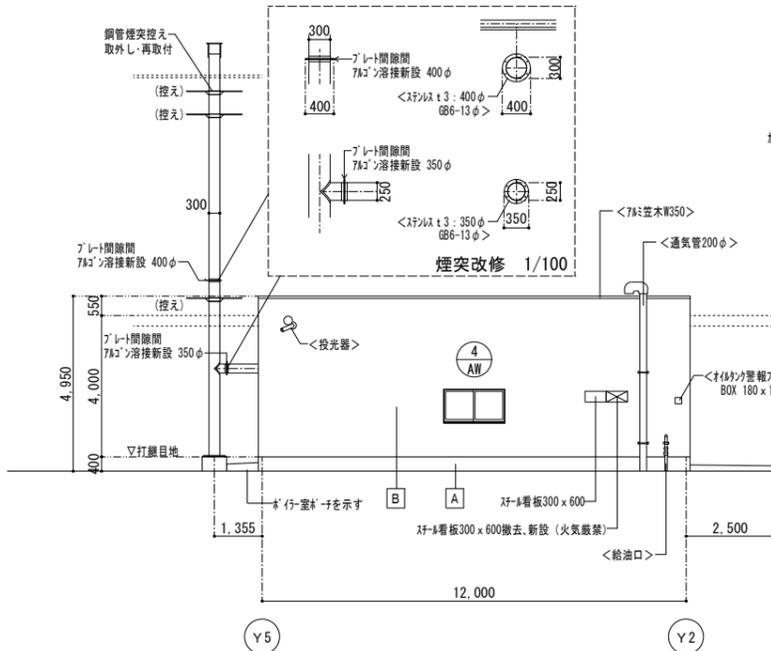
施工部位	シーリング長 (m)
AW1額縁取合（横）	39.30
壁/幕板取合（横）	1.97
計	41.27

南側：その他改修に伴う工事

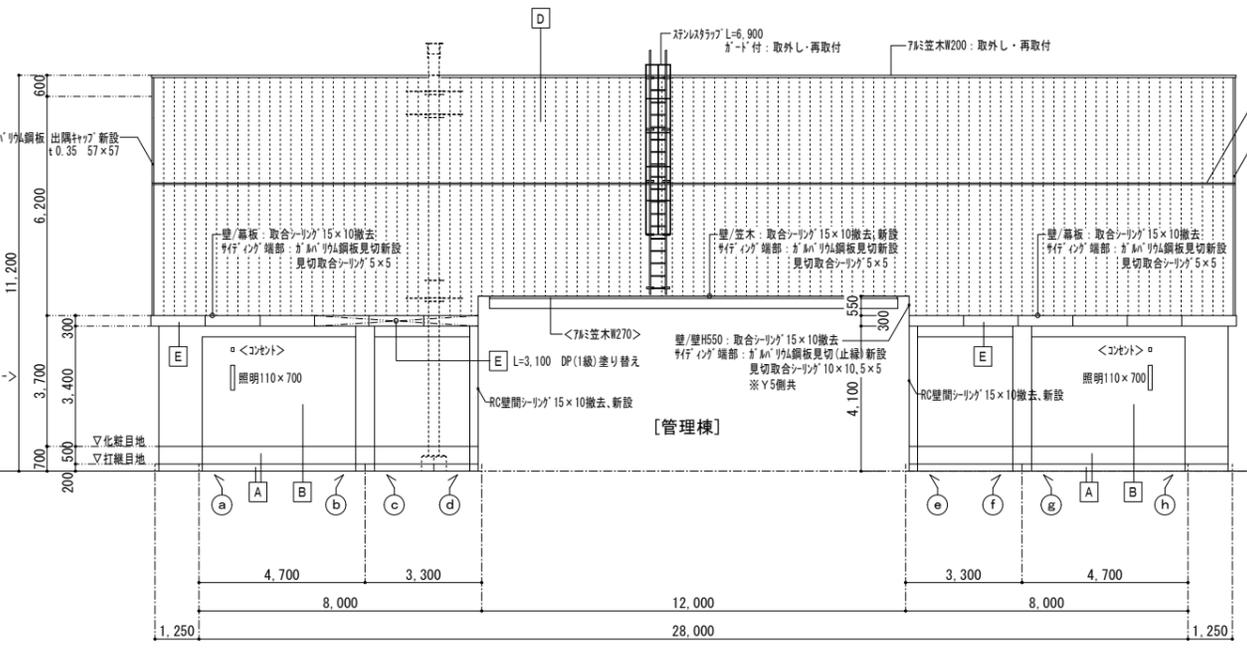
工事内容	取付位置
照明110×700：3ヶ所	取外し、外部足場に仮取付
	足場撤去時、復旧
7&ミ柱木W200（屋内運動場棟）	取外し
外壁サドイグ新設時、捨て柱木新設後	再取付

南側：金属サイディング部
がんりく鋼板見切（止縁）取合いシーリング 新設
※新設：MS-2（10×10）及び（5×5）

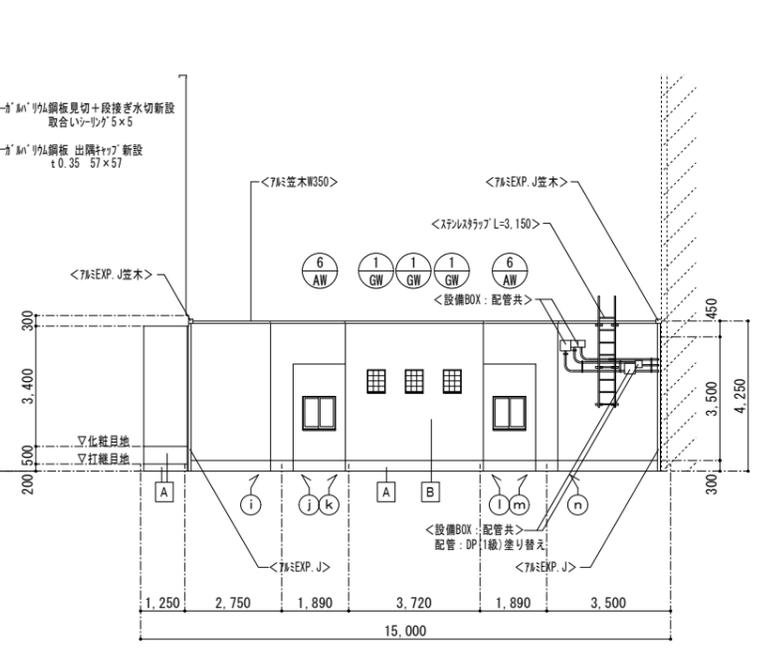
施工部位	シーリング長 (m)
AW1額縁取合（縦）	7.51
計	7.51



管理棟：西側立面図
※< >は、既存のままを示す



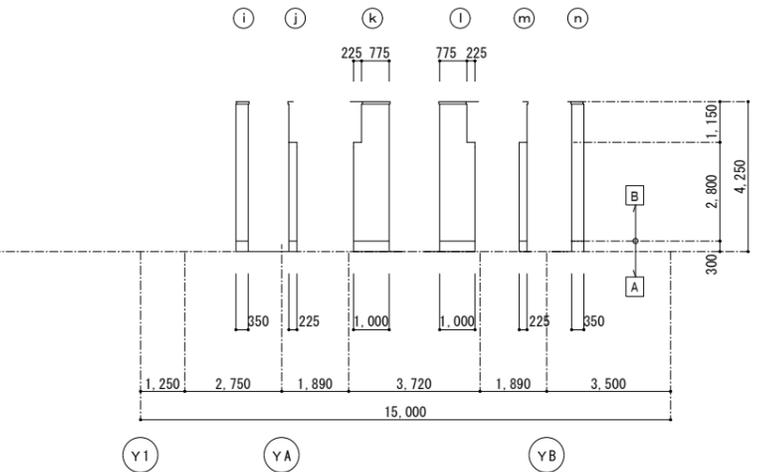
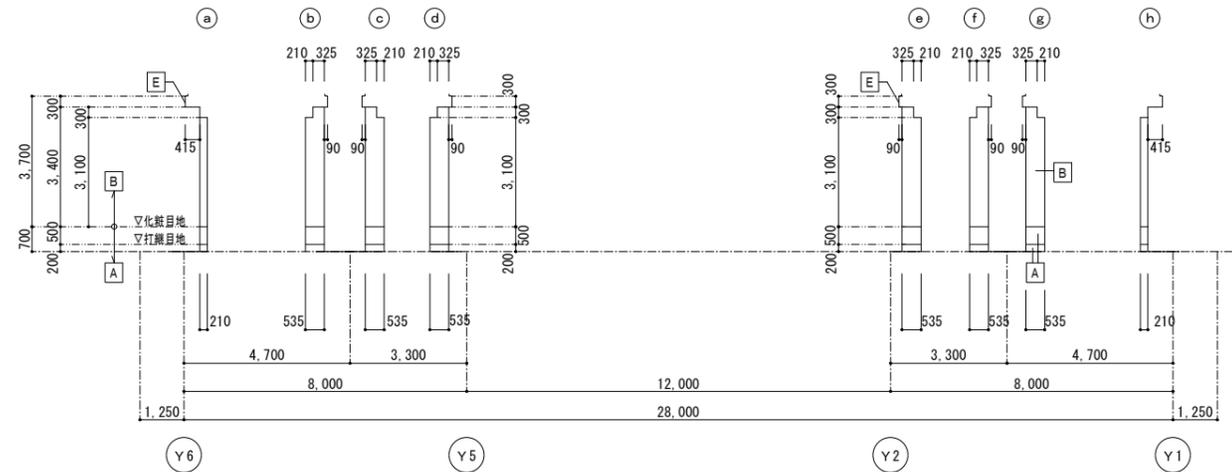
屋内運動場棟：西側立面図
※< >は、既存のままを示す



渡り廊下棟：西側立面図
※< >は、既存のままを示す

外部仕上表

A	根廻り：既存 コンクリート打放し部 改修 劣化部補修
B	RC面：既存 コンクリート打放し AEPリシン吹付 改修 劣化補修、水洗いの上 トップコート塗り (水性フッ素樹脂系上塗り)
C	RC面：既存 コンクリート打放し ウレタン系エナメル塗 改修 水洗いの上 トップコート塗り (2液強溶剤ウレタン樹脂塗)
D	鉄骨面：既存 セメント中空押出成形板 t15 (クラフト紙共) 撤去 改修 金属系サイディング t15 (塗装品) 縦張り (ウレタンボード t20 + 透湿防水シート下地)
E	幕板・水切：既存 アルミ t2.0 (B-1種) シーリング改修 (撤去・改修) 水切部はオーバーブリッジ工法
F	ポーチ・階段：既存 モルタル t30コテ押え 改修 劣化部撤去、防水モルタル t30コテ押え 欠落ステンレス製コーナーアングル新設



西側：建具廻りシーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (15×10)

建具記号	建具サイズ (W×H)	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
AW-4	1,700 x 900	四方・水切	1	6.90	6.90
AW-6	900 x 900	四方・水切	2	4.50	9.00
GW-1	475 x 630	四方・水切	3	2.69	8.07
計					23.97

西側：幕板廻りシーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (10×10)

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
7à幕板L=18.520	縦 H=380	縦・底部	12	0.38	4.56
計					4.56

西側：RC壁間シーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (15×10)

屋内運動場/管理棟	かゝ一面	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
屋内運動場/管理棟	かゝ一面	2	4.10	8.20
計				8.20

西側：金物廻りシーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (10×10)

7àEXP.J：壁 (運動場/渡り廊下)	かゝ一面	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
7àEXP.J：壁 (運動場/渡り廊下)	かゝ一面	1	4.25x2= 8.50	8.50
7àEXP.J：壁 (渡り廊下/校舎)	かゝ一面	1	4.25x2= 8.50	8.50
計				17.00

西側：打継目地シーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (15×10)

施工部位	シーリング長 (m)
屋内運動場	22.93
管理棟	12.21
渡り廊下棟	16.56
計	51.70

西側：押出成形板取合いシーリング 撤去 (15×10)

施工部位	シーリング長 (m)
壁/幕板取合 (横)	18.46
壁/笠木取合 (縦)	12.24
壁/管理棟壁取合 (縦)	1.10
計	31.80

西側：金属サイディング部
かゝり鋼板見切取合いシーリング 新設 ※新設：MS-2 (5×5)

施工部位	シーリング長 (m)
壁/幕板取合 (横)	18.46

西側：金属サイディング部
かゝり鋼板見切取合いシーリング 新設 ※新設：MS-2 (5×5)

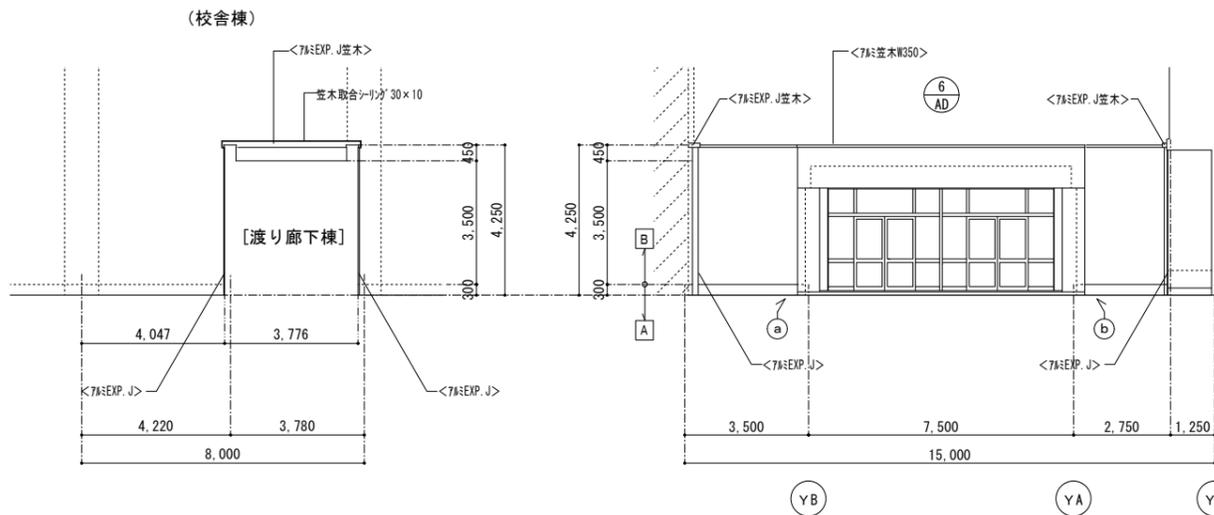
施工部位	シーリング長 (m)
見切+段接ぎ水切	30.67

西側：金属サイディング部
かゝり鋼板見切取合いシーリング 新設 ※新設：MS-2 (10×10) 及び (5×5)

施工部位	シーリング長 (m)
壁/笠木取合 (横)	12.24

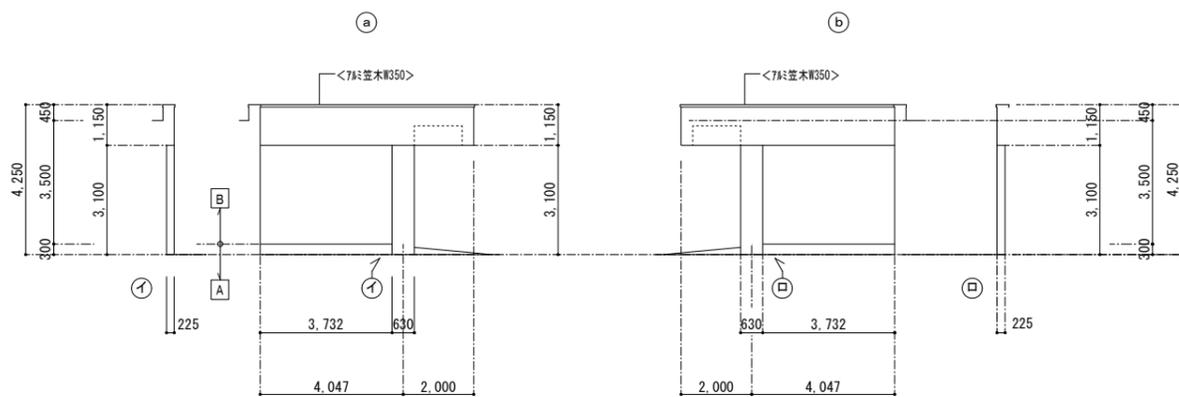
西側：その他改修に伴う工事

スチール看板300×600撤去・新設：1枚	撤去・新設
スチール看板300×600：1枚	取外し・再取付
ステンレスラップ L=6,900：1ヶ所	取外し・再取付
照明110×700：2ヶ所	取外し、外部足場に仮取付 足場撤去時、復旧
7à笠木W200 (屋内運動場棟)	取外し
外壁サイディング新設時、捨て笠木新設後	再取付
鋼管煙突控え 外壁取合い3ヶ所	取外し・再取付
鋼管煙突 プレート間隙間 7à溶接 400φ：1ヶ所	
	350φ：1ヶ所
幕板 (既存7àt2.0 B-1種)：下地調整 (RB)の上	
DP (1級) 塗り替え H=380 L=3.10m 1.18m塗り替え	
配管：下地調整 (RB)の上 DP (1級) 塗り替え	
40φ程度 L=7.91m 1.00m塗り替え	

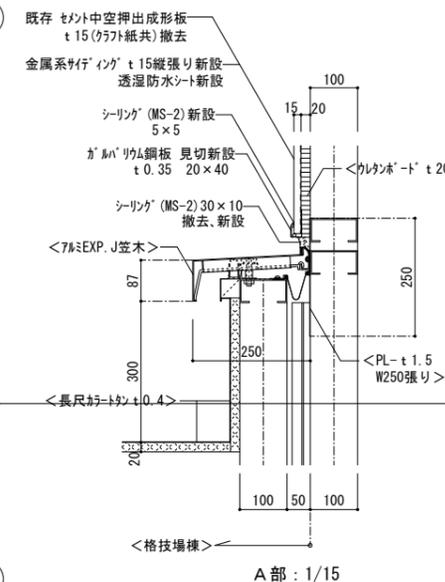
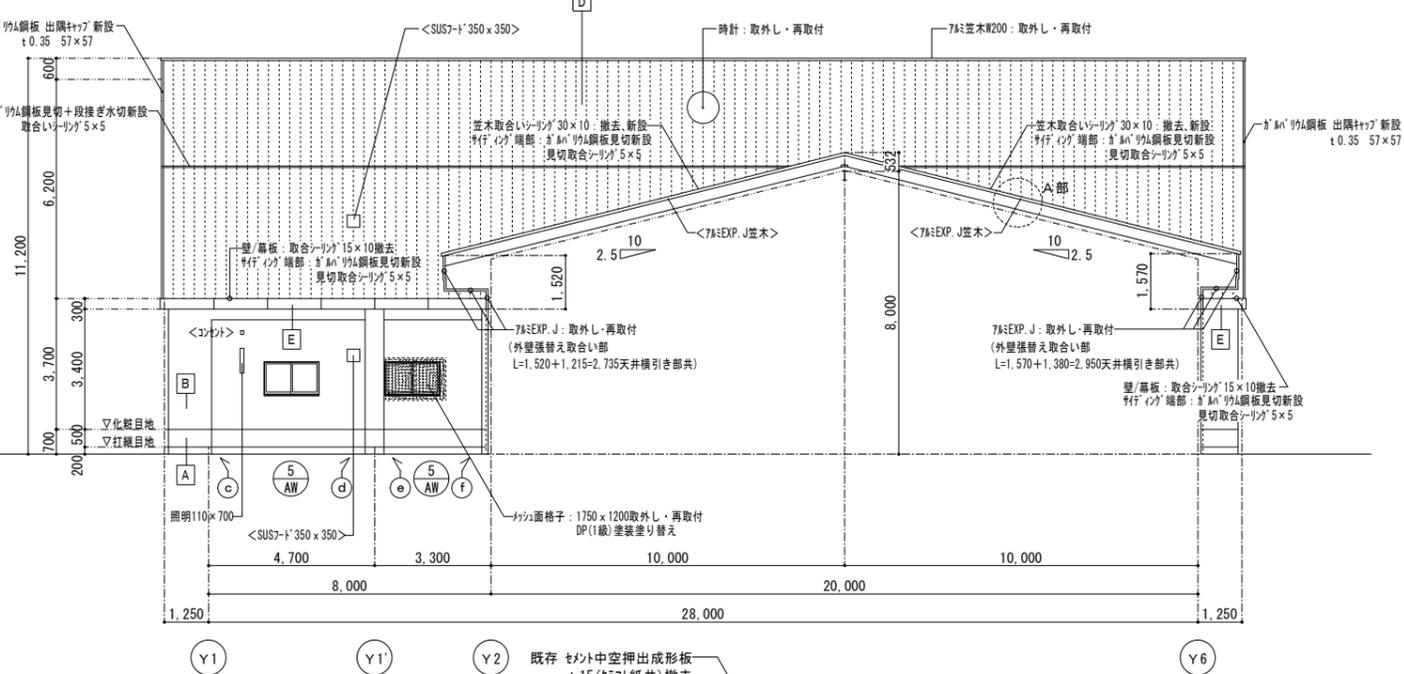


渡り廊下棟：北側立面図 1/200
※< >は、既存のままを示す

渡り廊下棟：東側立面図 1/200
※< >は、既存のままを示す



屋内運動場棟：東側立面図 1/200
※< >は、既存のままを示す



部位	仕様
A	根廻り：既存 コンクリート打放し部 改修 劣化部補修
B	R/C面：既存 コンクリート打放し、AEPリシン吹付 改修 劣化補修、水洗いの上 トップコート塗り（水性フッ素樹脂系上塗り）
C	R/C面：既存 コンクリート打放し、ウレタン系エナメル塗 改修 水洗いの上 トップコート塗り（2液強溶剤ウレタン樹脂塗装）
D	鉄骨面：既存 セメント中空押出成形板 t15(クラフト紙共)撤去 改修 金属系サイディング t1.5 (塗薬品) 縦張り (ウレタンボード t2.0 + 透湿防水シート下地)
E	幕板・水切：既存 アルミ t2.0 (B-1種) シーリング改修 (撤去・改修) 水切部はオーバーブリッジ工法
F	ポーチ・階段：既存 モルタル t3.0コテ押え 改修 劣化部撤去、防水モルタル t3.0コテ押え 欠落ステンレス製コーナーアングル新設

東側：建具廻りシーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (15×10)

建具記号	建具サイズ (W×H)	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
AD-6	6.380 x 2.885	三方	1	12.15	12.15
AW-5	1.500 x 900	四方・水切	2	6.30	12.60
計					24.75

東側：打継目地シーリング ※撤去・新設：MS-2 (15×10)

施工部位	シーリング長 (m)
屋内運動場	13.15
渡り廊下棟	13.36
計	26.51

東側：幕板廻りシーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (10×10)

名称	サイズ	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
7à幕板L=10.440	縦 H=380	縦・底部	7	0.38	2.66

東側：金属サイディング部
ガàリウム鋼板見切+
段接ぎ水切取合しシーリング 新設
※新設：MS-2 (5×5)

施工部位	シーリング長 (m)
見切+段接ぎ水切	27.65

東側：金物廻りシーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (30×10)

名称	施工部位	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)
7àEXP. J 笠木 (渡り廊下棟)	壁取合	1	4.20	4.20

東側：押出成形板取合し
シーリング 撤去 (15×10)

施工部位	シーリング長 (m)
壁/幕板取合 (横)	10.44

東側：押出成形板取合し
シーリング 撤去 (30×10)

施工部位	シーリング長 (m)
壁/笠木取合 (斜め)	23.49

東側：金物廻りシーリング (撤去・新設) ※新設：MS-2 (10×10)

7àEXP. J：壁 (運動場/格技場)	ガà両面	ヶ所	1ヶ所当長 (m)	シーリング長 (m)	
7àEXP. J：壁 (運動場/格技場)	ガà両面	1	6.81x2=13.62	13.62	
7àEXP. J：壁 (運動場/格技場)	ガà両面	1	6.60x2=13.20	13.20	
計					26.82

東側：金属サイディング部
ガàリウム鋼板見切取合しシーリング 新設
※新設：MS-2 (30×10) 及び (5×5)

施工部位	シーリング長 (m)
壁/幕板取合 (横)	10.44

東側：金属サイディング部
ガàリウム鋼板見切取合しシーリング 新設
※新設：MS-2 (30×10) 及び (5×5)

施工部位	シーリング長 (m)
壁/笠木取合 (斜め)	23.49

改修立面：集計表

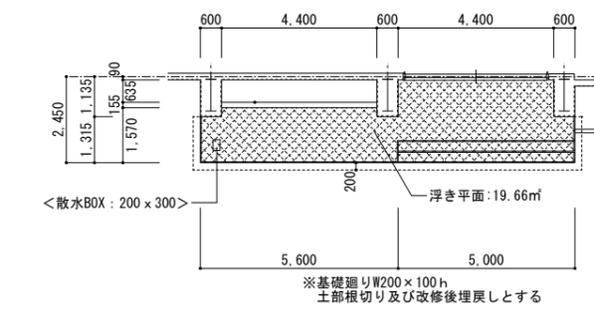
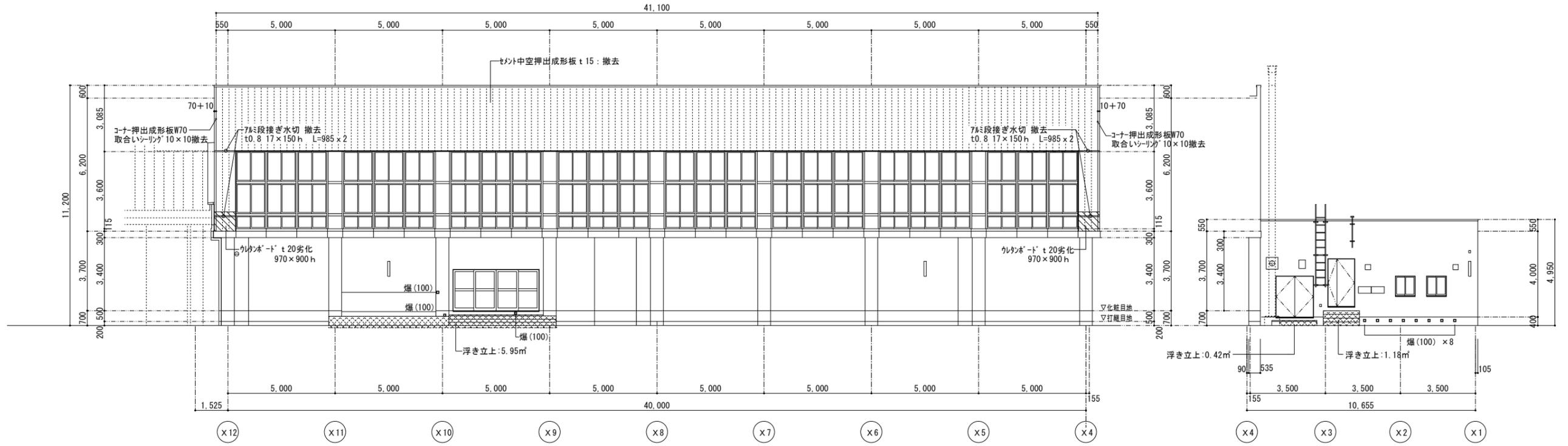
	北側	南側	西側	東側	合計
シーリング：MS-2 (15×10) 撤去・新設					
建具廻り	127.34	124.16	23.97	24.75	300.22 m
シーリング：MS-2 (5×5) 新設のみ					
AW1：建枠	216.00	216.00	0.00	0.00	432.00 m
シーリング：MS-2 (10×10) 撤去のみ					
7à幕板AW1水切	13.76	12.86	0.00	0.00	26.62 m

東側：その他改修に伴う工事

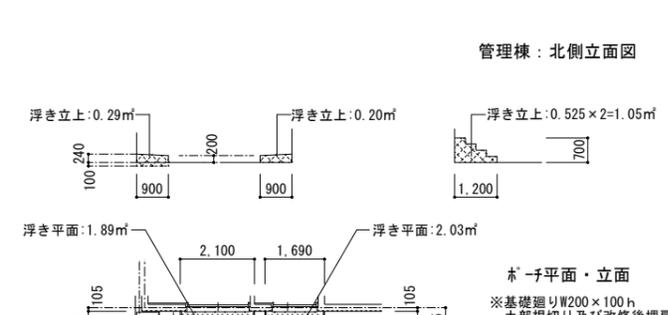
7àEXP. J 壁 L=2,950：1ヶ所	取外し・再取付
7àEXP. J 壁 L=2,735：1ヶ所	取外し・再取付
時計：1ヶ所	取外し・再取付
メà面格子 1750 x 1200：1ヶ所	取外し・再取付
	DP (1級) 塗装塗り替え
照明 110 x 700：1ヶ所	取外し、外部足場に仮取付
	足場撤去時、復旧

	北側	南側	西側	東側	合計
シーリング：ガàリウム鋼板見切取合しシーリング 新設のみ					
7à幕板AW1水切	4.16	4.16	0.00	0.00	8.32 m
シーリング：MS-2 (10×10) 新設のみ					
7à幕板AW1水切	9.60	8.70	0.00	0.00	18.30 m
シーリング：MS-2 (10×10) 撤去・新設					
7à幕板	0.00	0.00	4.56	2.66	7.22 m
シーリング：MS-2 (15×10) 撤去・新設					
金物：フード等	6.23	1.67	0.00	0.00	7.90 m
シーリング：MS-2 (30×10) 撤去・新設					
金物：EXP 笠木	0.00	4.30	0.00	4.20	8.50 m
シーリング：MS-2 (10×10) 撤去・新設					
金物：EXP 外壁	0.00	0.00	17.00	26.82	43.82 m
シーリング：MS-2 (15×10) 撤去・新設					
打継目地	49.77	52.16	51.70	26.51	180.14 m
シーリング：MS-2 (15×10) 撤去・新設					
躯体間目地	0.00	0.00	8.20	0.00	8.20 m

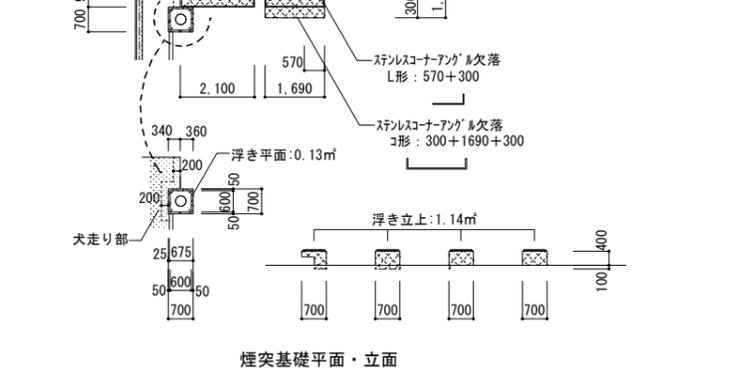
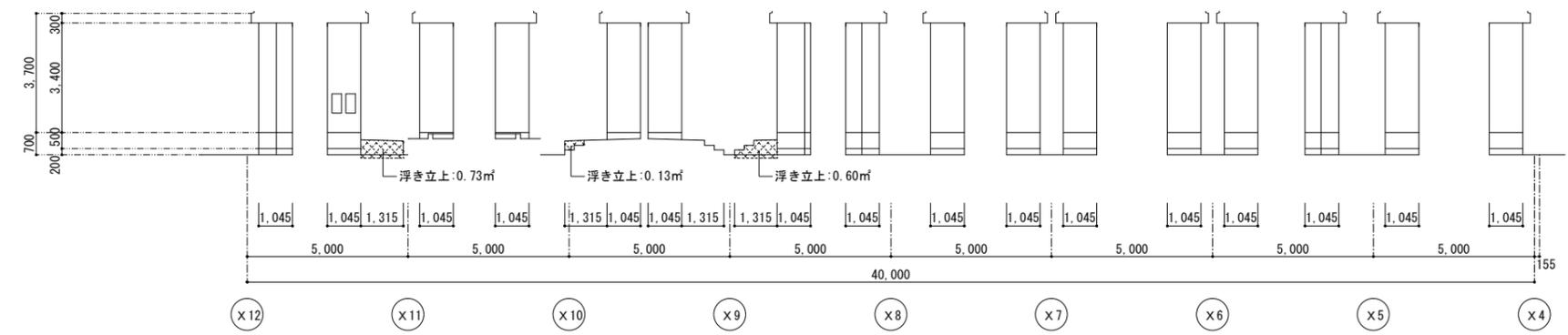
	北側	南側	西側	東側	合計
シーリング：MS-2 (15×10) 撤去・新設					
塗装間取合	4.40	0.00	0.00	0.00	4.40 m
[外壁張替え部：セàト中空押出成形板→金属サイディング]					
シーリング：(15×10) 撤去のみ					
AW1 縦線・幕板・管理棟取合	48.78	48.78	31.80	10.44	139.80 m
シーリング：MS-2 (5×5) 新設のみ/ガàリウム鋼板見切 新設					
AW1 縦線 (横)・幕板取合	41.27	41.27	18.46	10.44	111.44 m
シーリング：MS-2 (10×10)、(5×5) 新設のみ/ガàリウム鋼板見切 新設					
管理棟笠木取合	0.00	0.00	12.24	0.00	12.24 m
シーリング：MS-2 (10×10)、(5×5) 新設のみ/ガàリウム鋼板見切 (止線) 新設					
AW1 縦線 (縦)・管理棟取合	7.51	7.51	1.10	0.00	16.12 m
シーリング：(30×10) 撤去/ガàリウム鋼板見切及びシーリング MS-2 (30×10)、(5×5) 新設					
笠木取合 (斜め)	0.00	0.00	0.00	23.49	23.49 m
シーリング：MS-2 (5×5) 新設のみ/ガàリウム鋼板見切+水切 新設					
見切+段接ぎ水切部	1.98	1.98	30.67	27.65	62.28 m



屋内運動場棟：北側立面図



管理棟：北側立面図

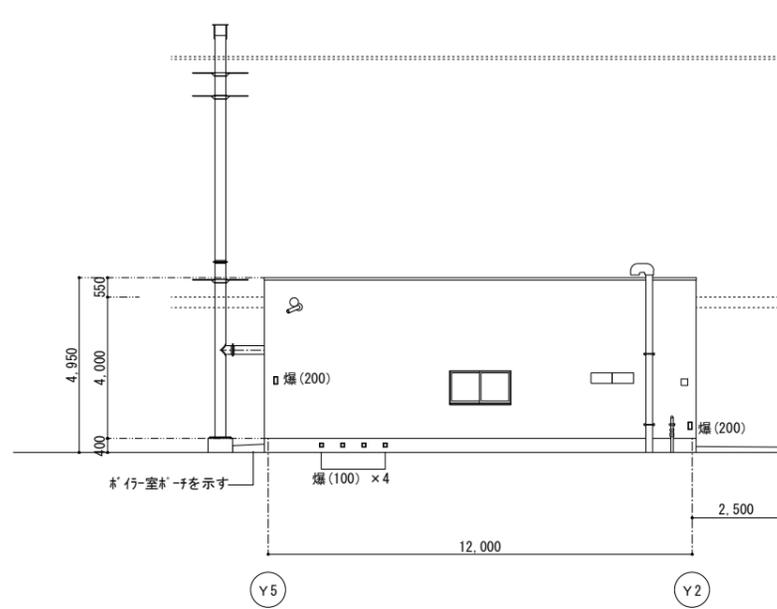


撤去表 1：北面

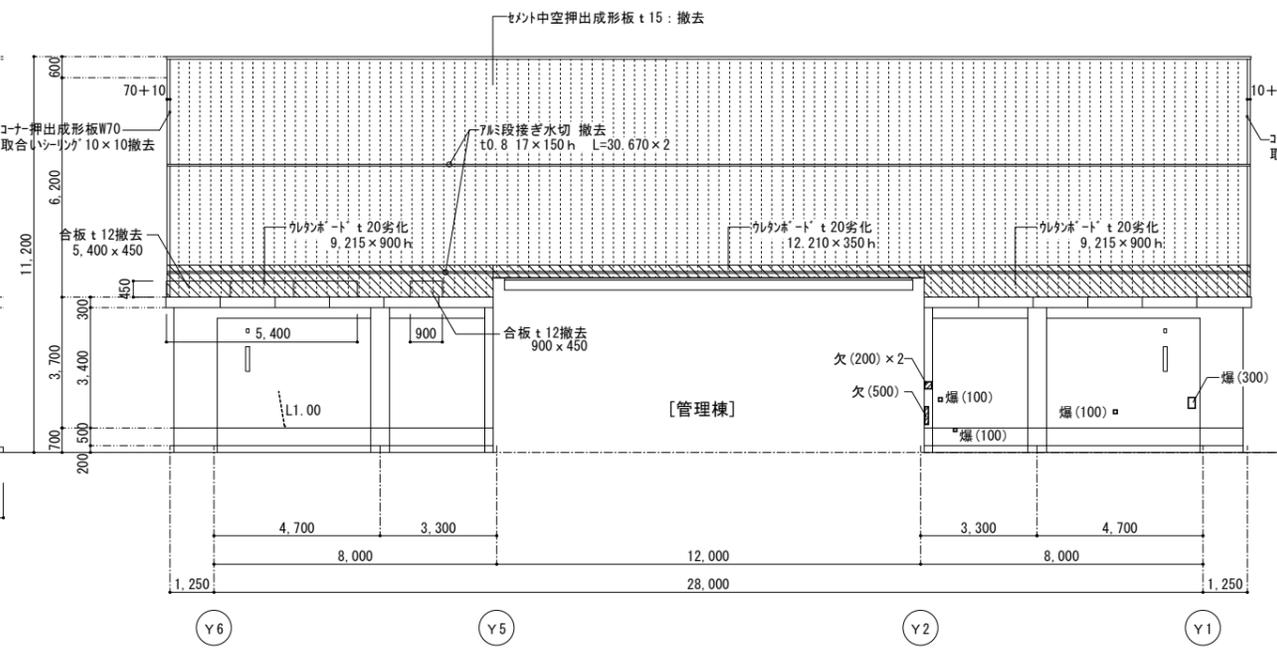
項目	数量
テント中空押出成形板 t15	
7mm段接ぎ水切 t0.8 17×150h	3.94m
シーリング 10×10	13.60m

劣化表 1：北面

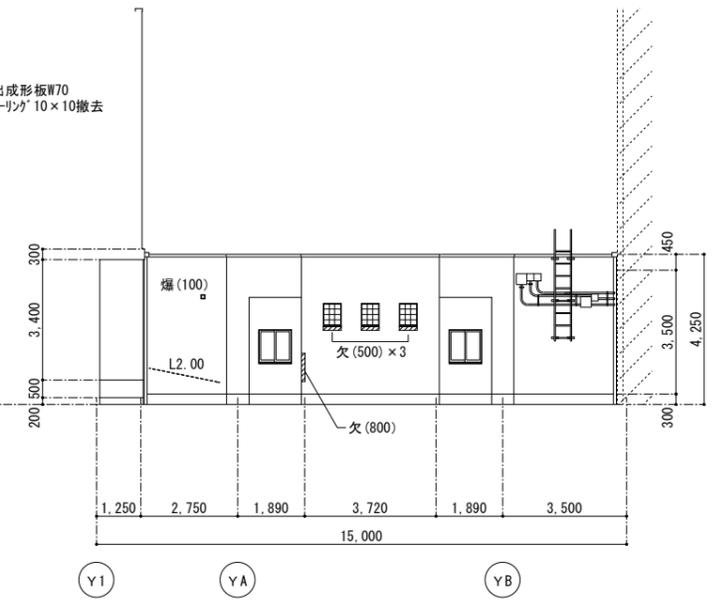
記号	項目	数量
■	燻(100)	鉄筋等燻裂(100×100程度) 11.か所
▨	モルタル浮き t30(木-子床・踏面・蹴込部)	35.40㎡
┌	ステンレスコーナアングル欠落(全上)	3.16m
▨	ウレタンボード t20劣化	1.75㎡



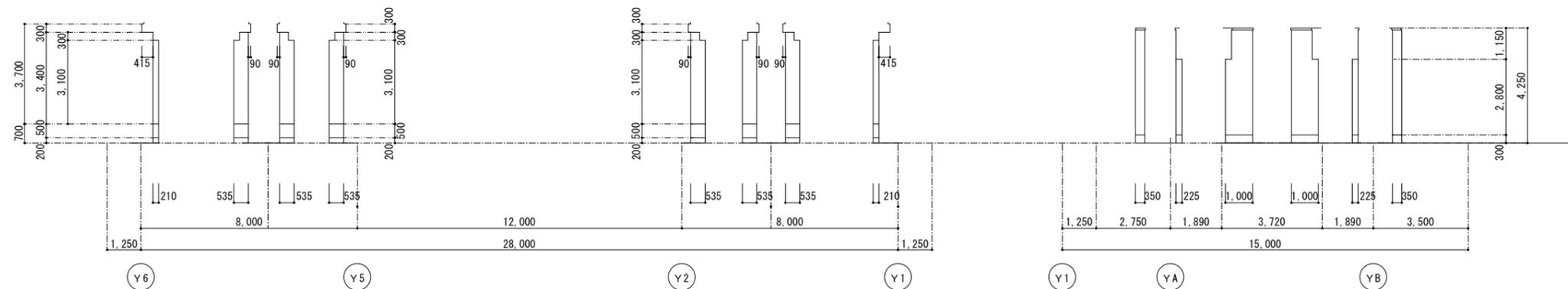
管理棟：西側立面図



屋内運動場棟：西側立面図



渡り廊下棟：西側立面図

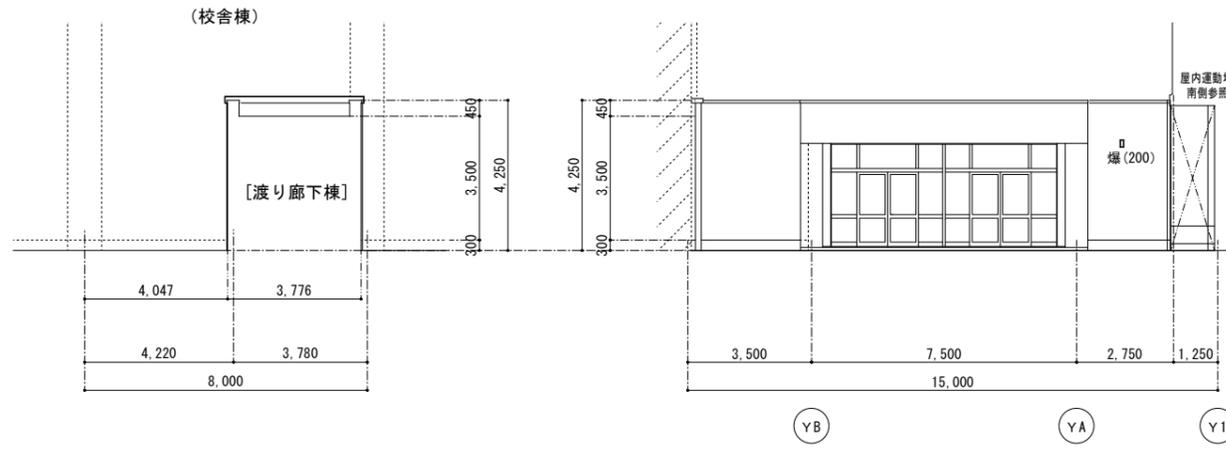


撤去表 3：西面

項目	数量
εト中空押出成形板 t 15	
7mm段接ぎ水切：t 0.8 17×150h	61.34m
シート' 10×10	13.60m
合板 t 12	2.84㎡

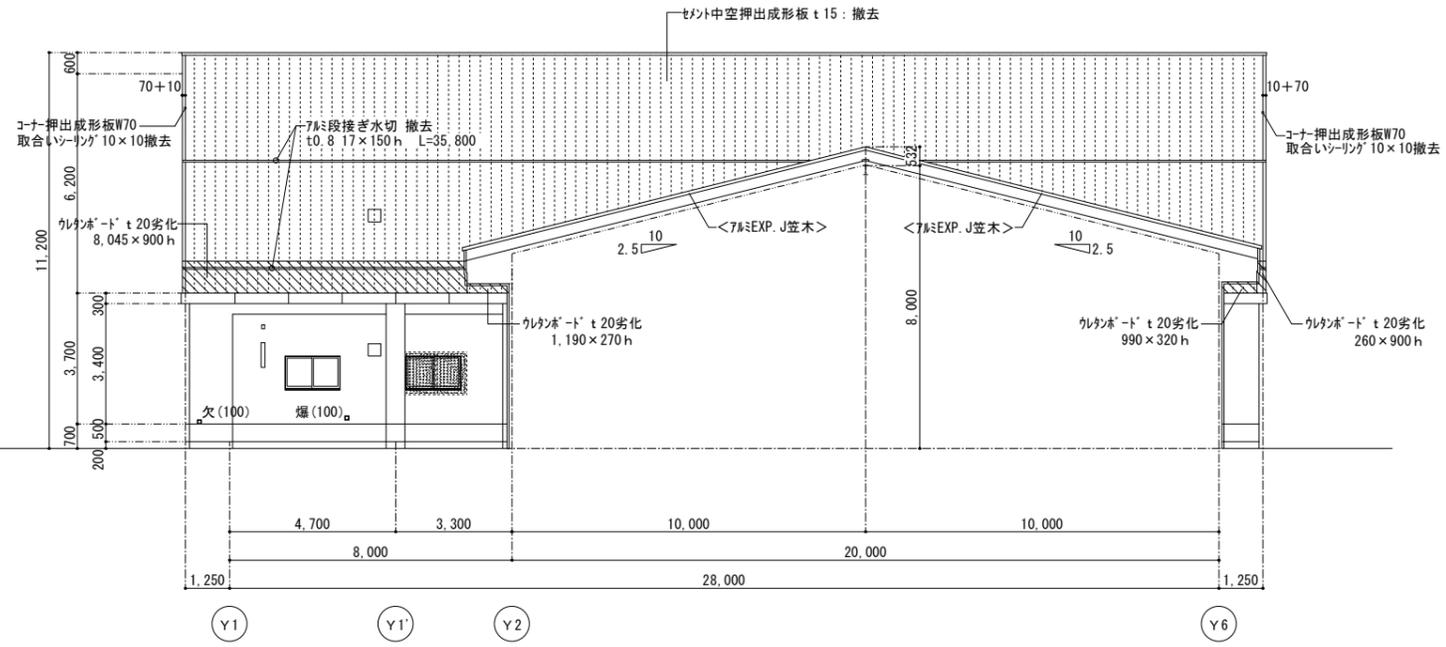
劣化表 3：西面

記号	項目	数量	記号	項目	数量
-----	ひび割れ (1.0mm<W)	3.00m	□ 欠(200)	コンクリート欠損 (100×200程度)	2. 箇所
			▨ 欠(500)	コンクリート欠損 (100×500程度)	4. 箇所
			▨ 欠(800)	コンクリート欠損 (100×800程度)	1. 箇所
□ 爆(100)	鉄筋等爆裂 (100×100程度)	8. 箇所			
□ 爆(200)	鉄筋等爆裂 (100×200程度)	2. 箇所			
▨ 爆(300)	鉄筋等爆裂 (100×300程度)	2. 箇所	▨	ケレンボ' -ト' t 20劣化	20.86㎡

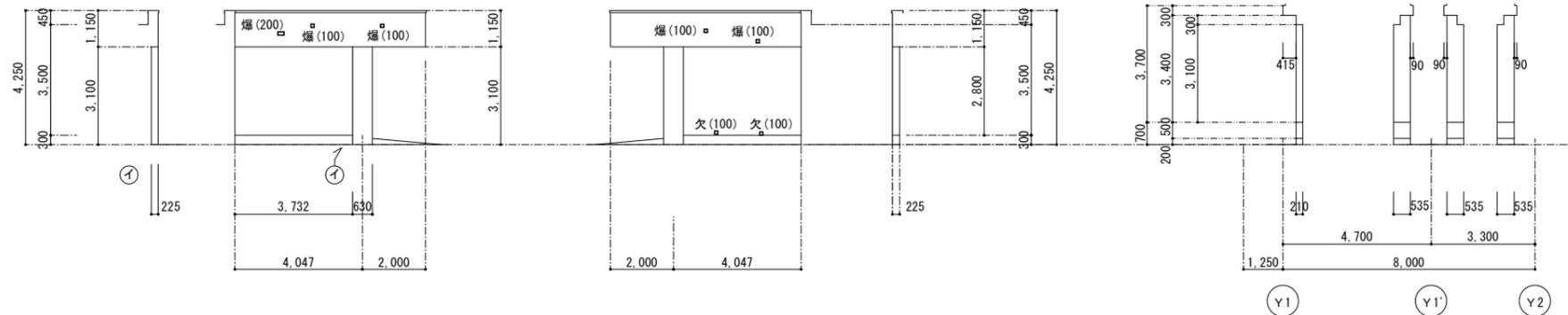


渡り廊下棟：北側立面図

渡り廊下棟：東側立面図



屋内運動場棟：東側立面図



劣化表 4：東面		
記号	項目	数量
□	爆(100) 鉄筋等爆裂(100×100程度)	5. 箇所
■	爆(200) 鉄筋等爆裂(100×200程度)	2. 箇所
□	欠(100) コンクリート欠損(100×100程度)	3. 箇所
	ケララボード t20劣化	8.11㎡

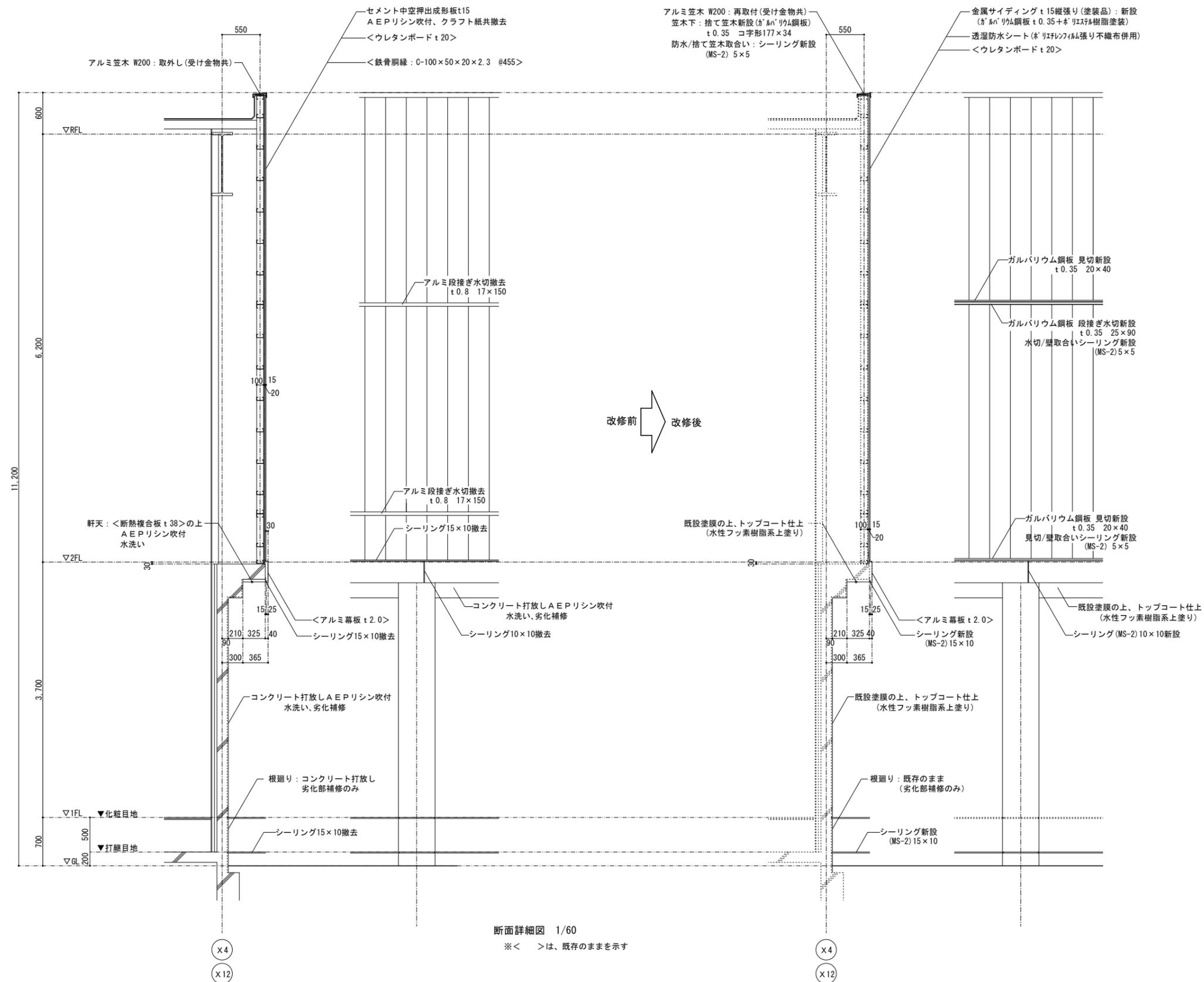
撤去表 4：東面	
項目	数量
ケララボード t15	
7# EXP. J 笠木	35.80m
シーリング 10×10	13.60m

撤去数量 集計表 (撤去表 1+2+3+4)	
項目	数量
ケララボード t15	
7# EXP. J 笠木	105.02m
シーリング 10×10	54.40m
合板 t12	3.29㎡

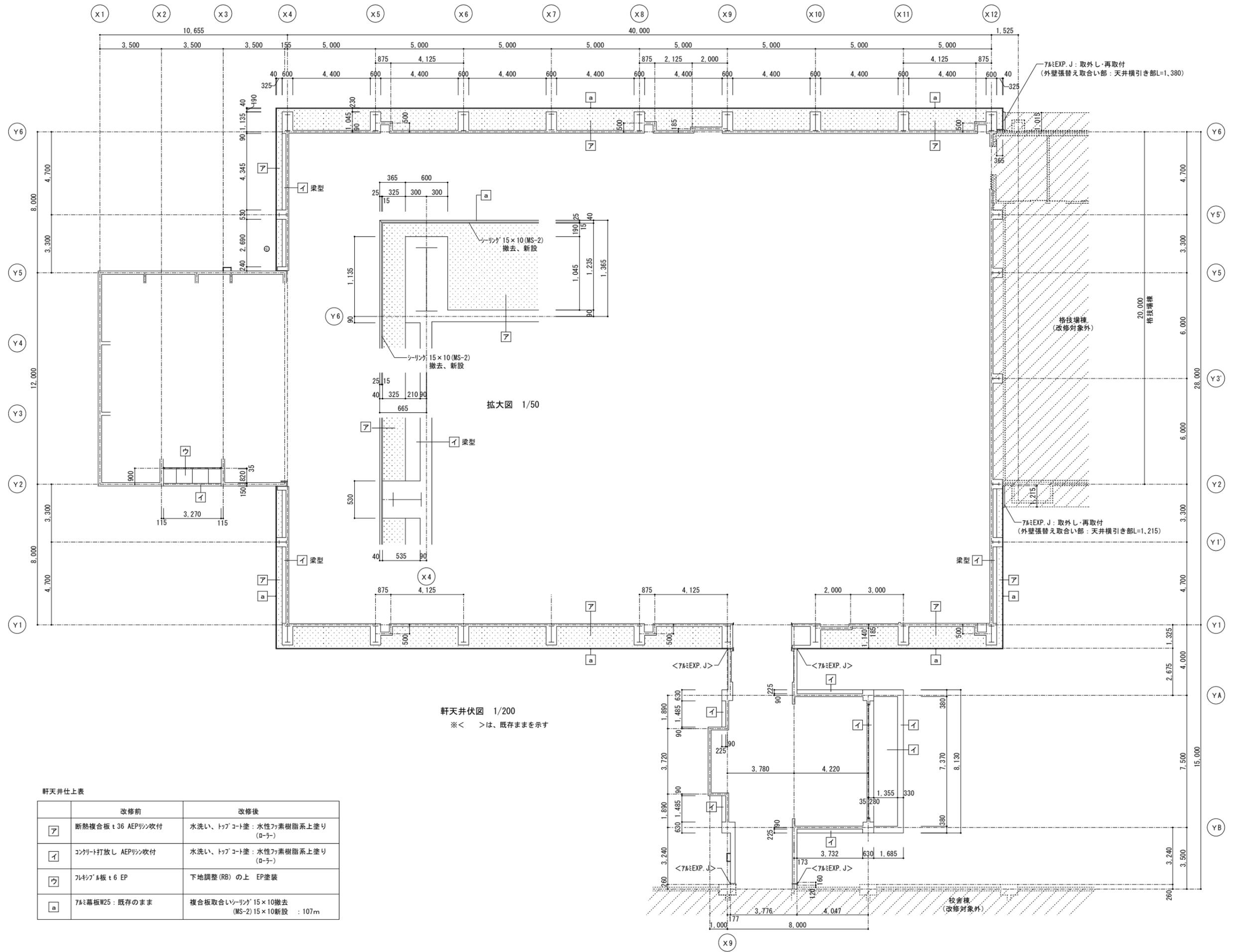
劣化数量 集計表 (劣化表 1+2+3+4)				改修概要			
記号	項目	数量	改修概要	記号	項目	数量	改修概要
-----	ひび割れ(1.0mm<W)	3.00m	水洗い、Uカットシーリング充填工法 下地調整(C-1)の上、外装薄塗材 S i	□	欠(100) コンクリート欠損(100×100程度)	4. 箇所	水洗い、樹脂モルタル補修 下地調整(C-1)の上、外装薄塗材 S i
				■	欠(500) コンクリート欠損(100×500程度)	4. 箇所	
				■	欠(800) コンクリート欠損(100×800程度)	1. 箇所	
				■	欠(1,800) コンクリート欠損(100×1,800程度)	1. 箇所	
□	爆(100) 鉄筋等爆裂(100×100程度)	25. 箇所	水洗い、露出鉄筋等防錆処理の上 樹脂モルタル補修 下地調整(C-1)の上、外装薄塗材 S i	■	欠(3,400) コンクリート欠損(100×3,400程度)	1. 箇所	
■	爆(200) 鉄筋等爆裂(100×200程度)	4. 箇所		■	欠(4,000) コンクリート欠損(100×4,000程度)	1. 箇所	
■	爆(300) 鉄筋等爆裂(100×300程度)	2. 箇所					

※下地調整材に7# EXP. J含有、作業中に散水をして粉じんの飛散を抑制する。[レベル3対応]

記号	項目	数量	改修概要
■	モルタル浮き t30(床・床面・蹴込部)	65.27㎡	浮き部撤去、 防水モルタル t30塗替え スチールL-30×30×3新設(溶接留め)
—	ステンレスコーナリング 欠落(全上)	6.95m	
■	ケララボード t20劣化	32.47㎡	劣化部撤去、 硬質ウレタンボード t20新設



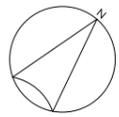
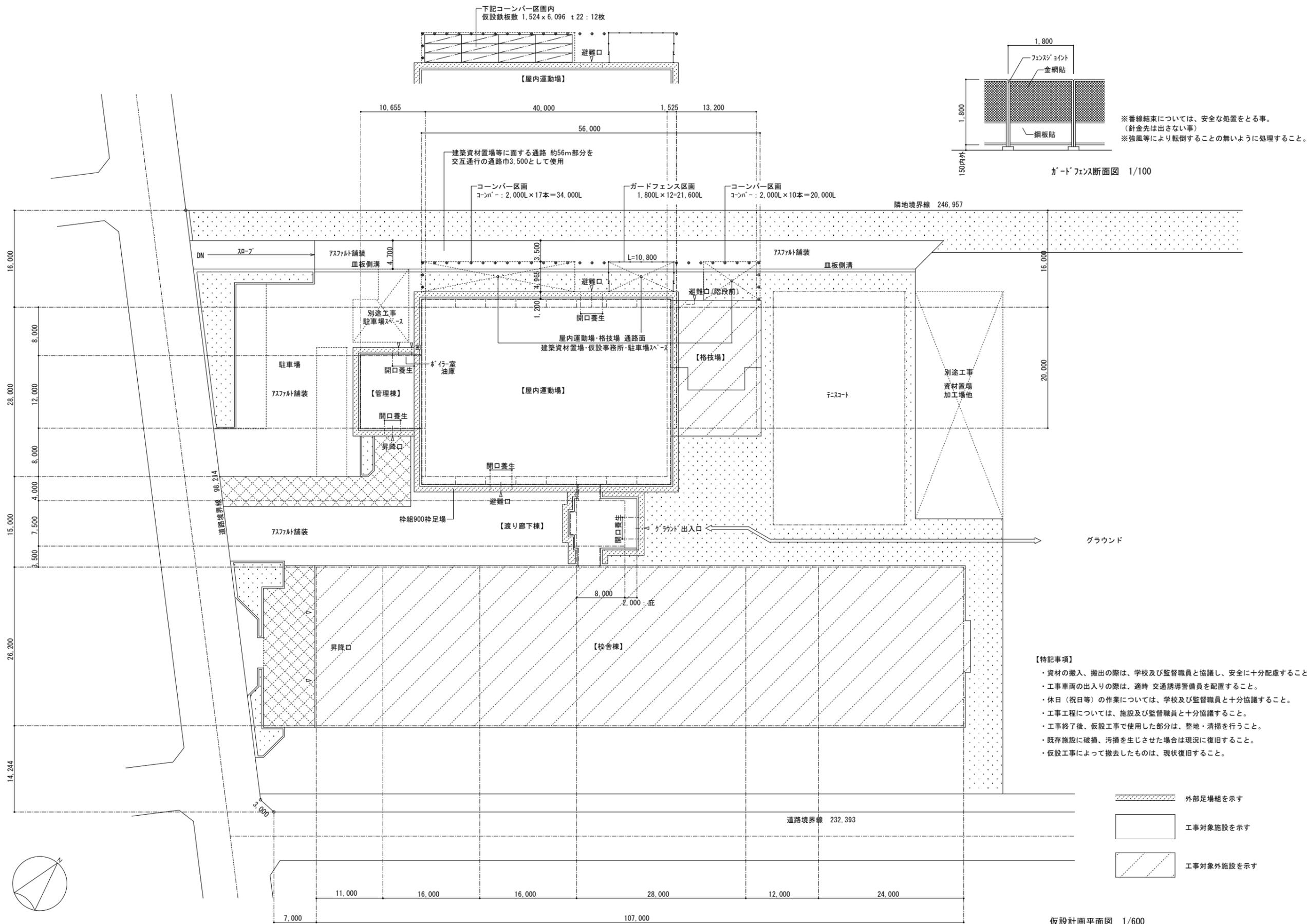
断面詳細図 1/60
 ※ < > は、既存のままを示す

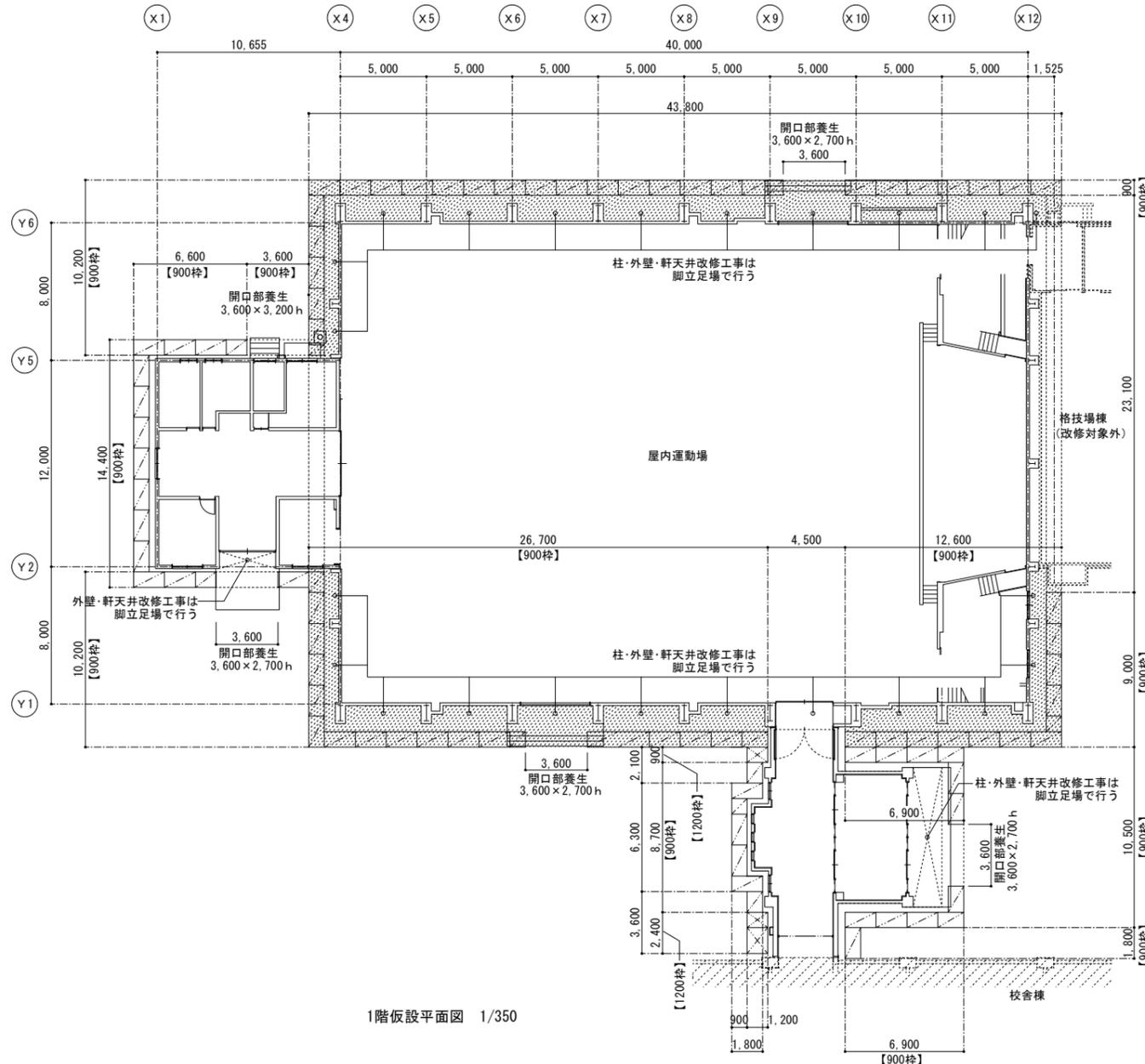


軒天井仕上表

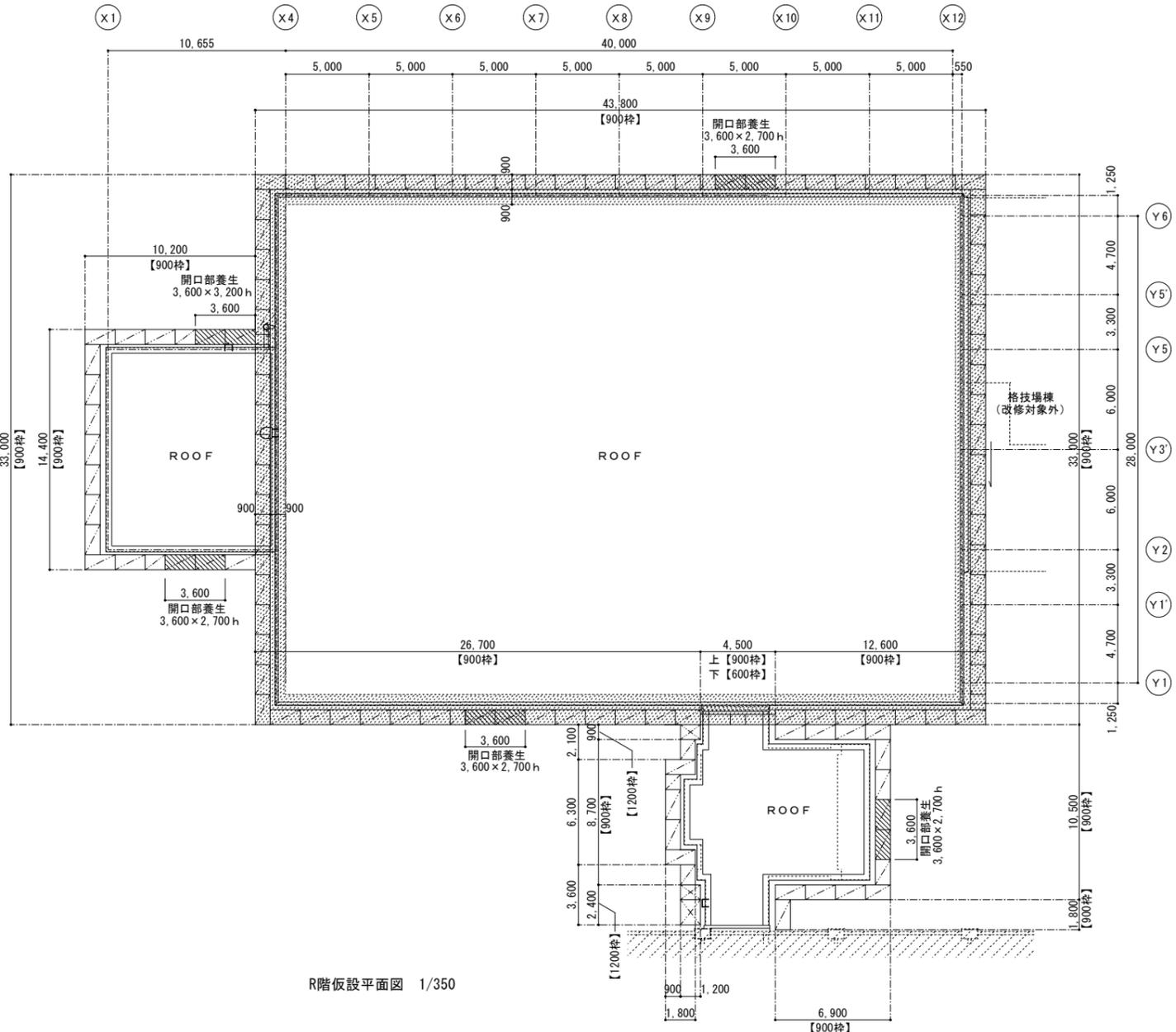
	改修前	改修後
ア	断熱複合板 t36 AEPリシン吹付	水洗い、トップコート塗：水性珩素樹脂系上塗り (D-5)
イ	コンクリート打放し AEPリシン吹付	水洗い、トップコート塗：水性珩素樹脂系上塗り (D-5)
ウ	フレキシブル板 t6 EP	下地調整 (RB) の上 EP塗装
エ	7mm幕板W25：既存のまま	複合板取合いシーリング 15×10撤去 (MS-2) 15×10新設 : 107m

軒天井伏図 1/200
※ < > は、既存ままを示す



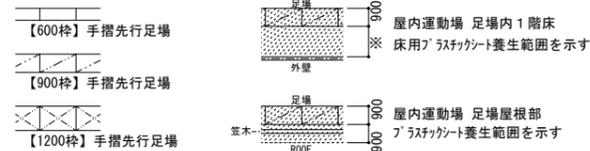


1階仮設平面図 1/350



R階仮設平面図 1/350

凡例



【足場廻り事項】

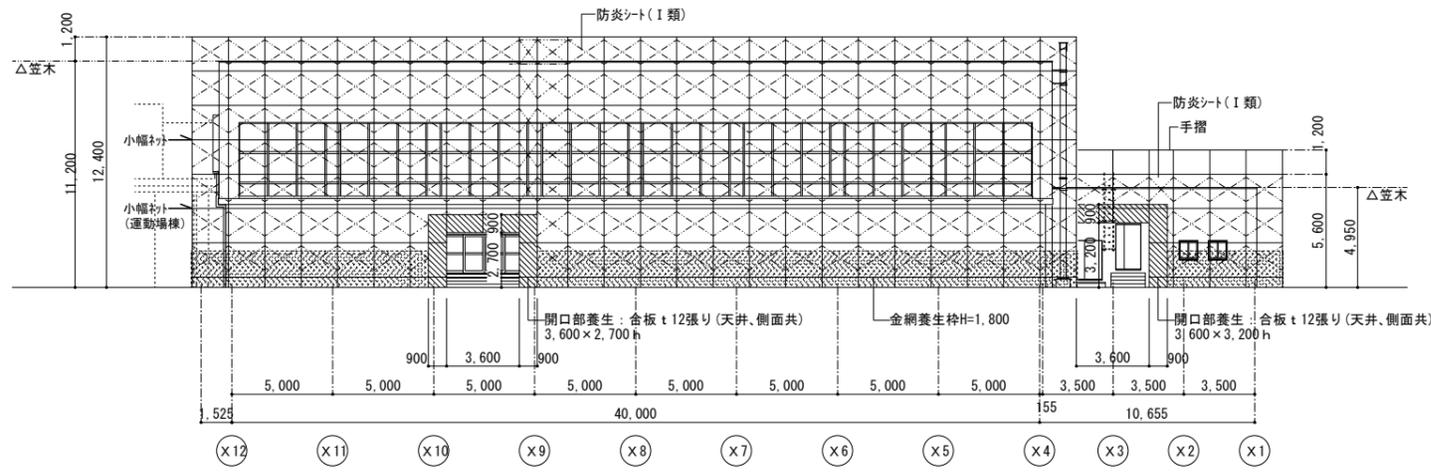
- ・ 枠組本足場：900枠、600枠及び1200枠（手摺先行足場）。
- ・ 外部足場廻りは防災シート（I類）張りとし、1段目を金網養生枠H=1,800設置とする。
- ・ 屋内運動場外壁 アスベスト含有成形板の撤去に伴い、足場内1階床及び足場屋根部を粉じん飛散防止養生を行う。〔レベル3対応〕

※足場組立時の壁つなぎの穿孔作業について

- （右記 アスベスト含有建材参照）
- ・ 穿孔作業前及び作業中に散水をして粉じんの飛散を抑制する。
- ・ 「札幌市特定粉じん排出等作業における飛散防止対策マニュアル」に基づいた、適切な石綿飛散防止措置を講じ施工を行うこと。

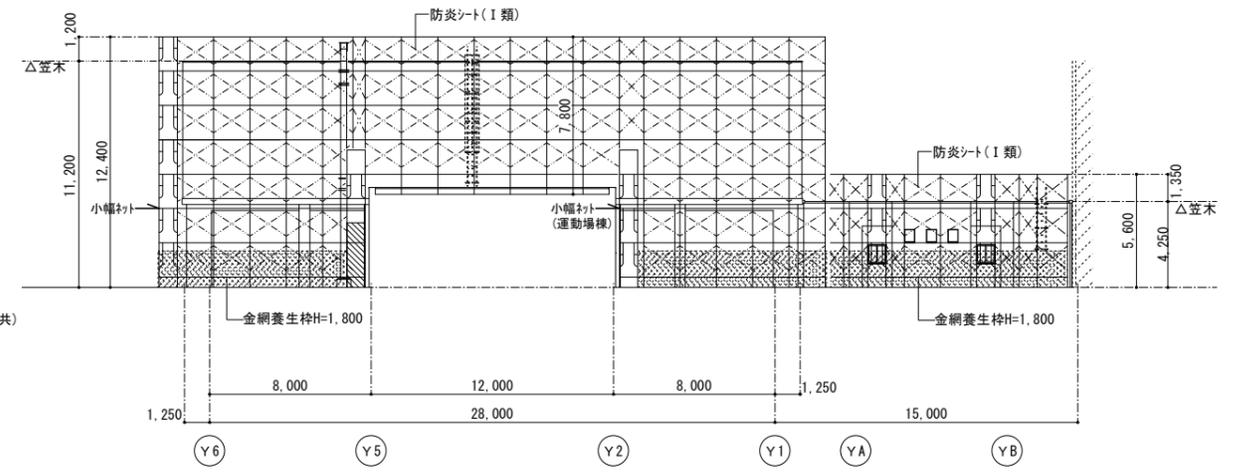
【既存仕上：アスベスト含有建材について】

- 下記部にアスベスト含有
- ・ 屋内運動場上部外壁：セメント中空押出成形板
- ・ RC造外壁 下地調整材：屋内運動場下部外壁、管理棟及び渡り廊下棟外壁
- ・ (ポーチモルタルは、石綿不検出)
- ・ (外壁リシン吹付は、石綿不検出)



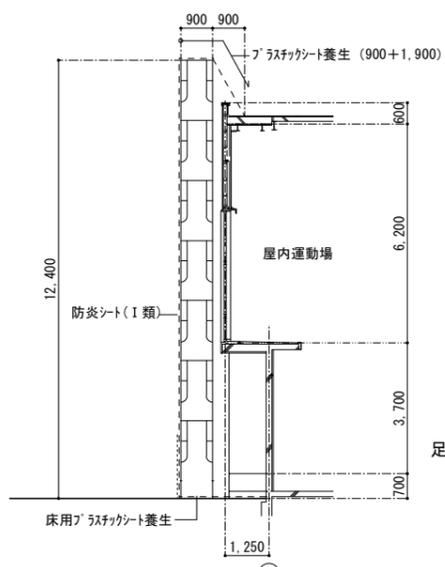
屋内運動場棟 北側立面図 1/350

管理棟 北側立面図

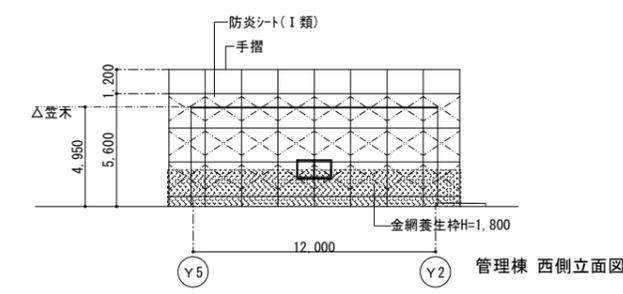


屋内運動場棟 西側立面図 1/350

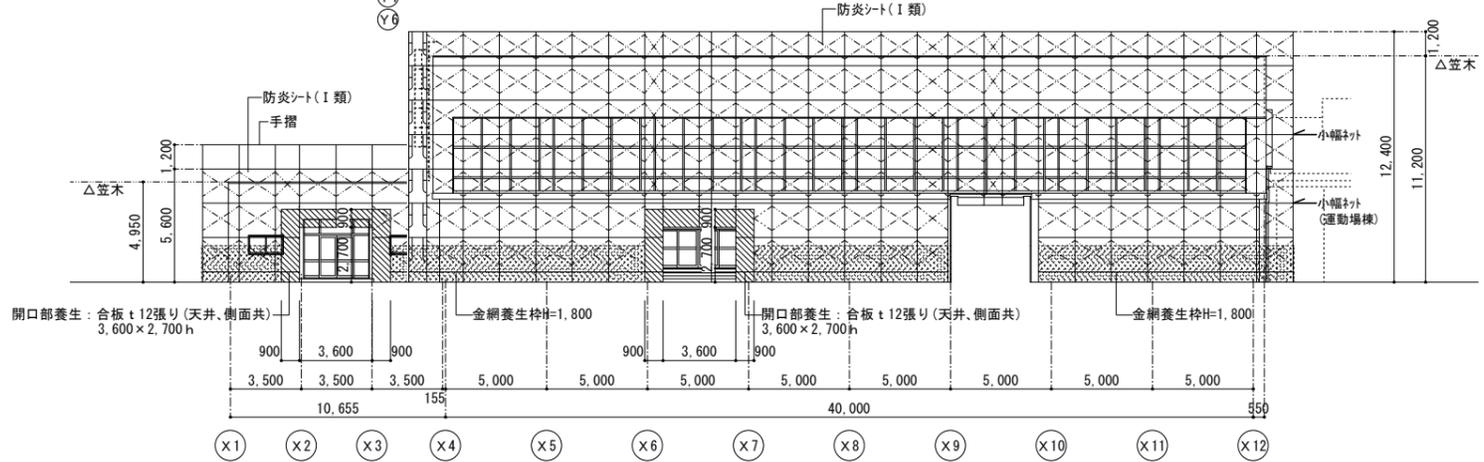
渡り廊下棟 西側立面図



足場廻り参考断面図 1/200

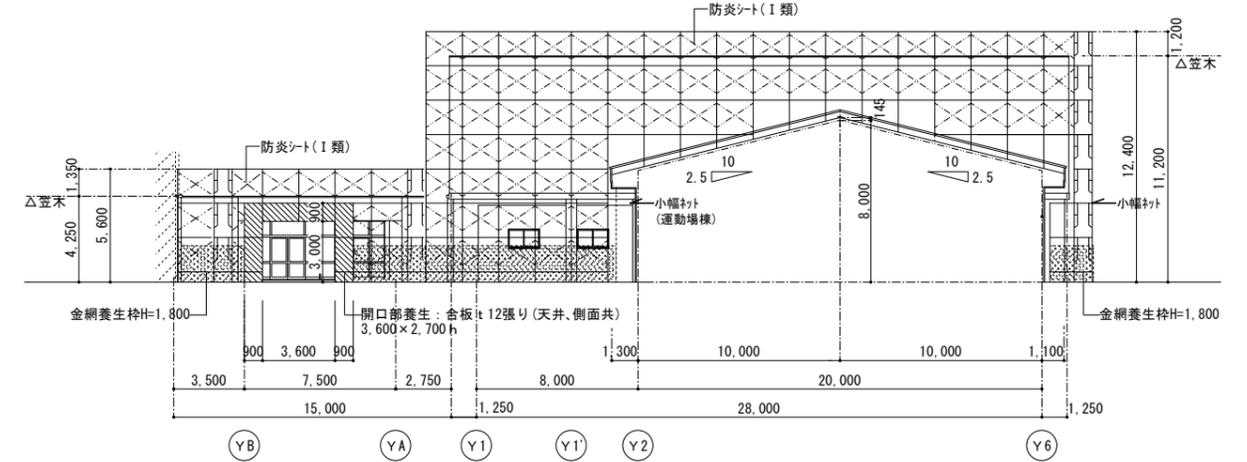


管理棟 西側立面図



管理棟 北側立面図

屋内運動場棟 南側立面図 1/350



渡り廊下棟 東側立面図

屋内運動場棟 東側立面図 1/350